

愛知工科大学自動車短期大学 自己点検・評価報告書

平成 27 年 6 月

目次

自己点検・評価報告書.....	1
1. 自己点検・評価の基礎資料	2
2. 自己点検・評価の組織と活動	21
3. 提出資料・備付資料一覧	24
【基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果】	38
テーマ 基準Ⅰ-A 建学の精神	39
テーマ 基準Ⅰ-B 教育の効果	40
テーマ 基準Ⅰ-C 自己点検・評価	43
基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果の行動計画	45
◇ 基準Ⅰについての特記事項	45
【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】	47
テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程	48
テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援	62
基準Ⅱ 教育課程と学生支援の行動計画	89
◇ 基準Ⅱについての特記事項	89
【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】	94
テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源	94
テーマ 基準Ⅲ-B 物的資源	108
テーマ 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源	111
テーマ 基準Ⅲ-D 財的資源	112
基準Ⅲ 教育資源と財的資源の行動計画	114
◇ 基準Ⅲについての特記事項	114
【基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス】	115
テーマ 基準Ⅳ-A 理事長のリーダーシップ	115
テーマ 基準Ⅳ-B 学長のリーダーシップ	116
テーマ 基準Ⅳ-C ガバナンス	119
基準Ⅳ リーダーシップとガバナンスの行動計画	120
◇ 基準Ⅳについての特記事項	120
【選択的評価基準：地域貢献の取り組みについて】	121

自己点検・評価報告書

この自己点検・評価報告書は、一般財団法人短期大学基準協会の第三者評価を受けるために、愛知工科大学自動車短期大学の自己点検・評価活動の結果を記したものである。

平成 27 年 6 月 22 日

理事長

小 川 明 治

学長

安 田 孝 志

ALO

高 田 富 男

1. 自己点検・評価の基礎資料

(1) 学校法人及び短期大学の沿革（1600字程度）

昭和 27(1952)年	名古屋市熱田区に名古屋無線電信学校を開校
昭和 28(1953)年	名古屋無線電信学校を名古屋高等無線電信学校に改称
昭和 34(1959)年	学校法人電波学園を設立
昭和 36(1961)年	名古屋市熱田区に東海製図技術学校を開校
昭和 44(1969)年	名古屋高等無線電信学校を名古屋電気通信工学院に改称
昭和 45(1970)年	東海製図技術学校を東海工業専門学院に改称
昭和 50(1975)年	東海工業専門学院を東海工業専門学校に改称
昭和 53(1978)年	名古屋市熱田区に名古屋ビジネス専門学校を開校
昭和 57(1982)年	名古屋市瑞穂区に名古屋デザイン専門学校を開校
昭和 62(1987)年	愛知県蒲郡市に愛知技術短期大学を開学（電子工学科、自動車工業学科）
同	運輸大臣より自動車に関する学科を有する大学として認定され、自動車工業学科の学生に対して二級自動車整備士受験資格が与えられる
平成 03(1991)年	愛知県豊橋市に愛知技術短期大学情報専門学校を開校
同	名古屋市千種区に名古屋外語専門学校を開校
同	名古屋電気通信工学院を名古屋工学院専門学校に改称
平成 07(1995)年	名古屋市中区に東海工業専門学校金山校を開校
同	東海工業専門学校を東海工業専門学校熱田校に改称
平成 09(1997)年	名古屋市千種区に名古屋造形ビジネス専門学校を開校
平成 11(1999)年	愛知工科大学設置認可
平成 12(2000)年	愛知技術短期大学電子工学科を廃止
同	愛知県蒲郡市に愛知工科大学を開学(工学部:電子情報工学科、機械システム工学科)
同	愛知技術短期大学を愛知工科大学短期大学部に改称
同	愛知技術短期大学情報専門学校を愛知工科大学情報専門学校に改称
同	名古屋造形ビジネス専門学校を名古屋造形デザイン専門学校に改称
平成 14(2002)年	愛知工科大学校舎（テクノゆめトピア）完工
同	名古屋市熱田区にあいち福祉専門学校を開校
平成 16(2004)年	愛知工科大学工学部機械システム工学科に1級自動車整備士養成コース設置認可（国土交通省認可）
同	愛知工科大学校舎（8号館）完工
同	東海工業専門学校金山校をあいち建築デザイン専門学校に改称
同	東海工業専門学校熱田校を東海工業専門学校に改称
同	愛知工科大学情報専門学校をあいち情報専門学校に改称

愛知工科大学自動車短期大学

同	名古屋ビジネス専門学校をあいちビジネス専門学校に改称
平成 17(2005)年	あいち福祉専門学校をあいち福祉医療専門学校に改称
同	名古屋デザイン専門学校をあいち造形デザイン専門学校に改称
平成 18(2006)年	名古屋造形デザイン専門学校とあいち造形デザイン専門学校を合併
平成 19(2007)年	愛知工科大学工学部の機械システム工学科、電子情報工学科の 2 学科を改組し、機械システム工学科、ロボットシステム工学科、情報メディア学科の 3 学科を開設
同	愛知工科大学に入試広報センター、メディア基盤センター、エクステンションセンター、産学連携センター、基礎教育開発支援センター、ものづくり工作センターを開設
同	愛知工科大学短期大学部を愛知工科大学自動車短期大学に改称（自動車工業学科）
同	愛知工科大学大学院工学研究科設置認可
平成 20(2008)年	大学院工学研究科を設置し、システム工学専攻(博士前期課程及び博士後期課程)を開設
同	愛知工科大学キャリアセンター開設
同	愛知工科大学高度交通システム研究所開設
同	東海工業専門学校を東海工業専門学校熱田校に改称
同	あいち建築デザイン専門学校を東海工業専門学校金山校に改称
同	愛知工科大学校舎（7 号館・ホール棟）完工
同	ぎふ国際高等学校を岐阜市に開校
平成 21(2009)年	財団法人短期大学基準協会より協会が定める短期大学評価基準を充たしていると認定される
同	愛知工科大学自動車短期大学校舎（1・2 号館）改修完工
同	愛知工科大学の基礎教育開発支援センター、産学連携センター及びエクステンションセンター組織を見直し、基礎教育センター及び地域・産学連携センターに改組
平成 22(2010)年	愛知工科大学宇宙システム研究所開設
平成 23(2011)年	愛知工科大学自動車短期大学校舎（自動車棟）完工
同	愛知工科大学工学部のロボットシステム工学科を電子制御・ロボット工学科に名称変更
同	名古屋外語専門学校日本語学校を開校
平成 24(2012)年	名古屋外語専門学校日本語学校を愛知工科大学外国語学校に改称
同	名古屋外語専門学校を名古屋外語・ホテル・ブライダル専門学校へ改称
平成 25(2013)年	愛知工科大学の基礎教育センターを総合教育センターに改組

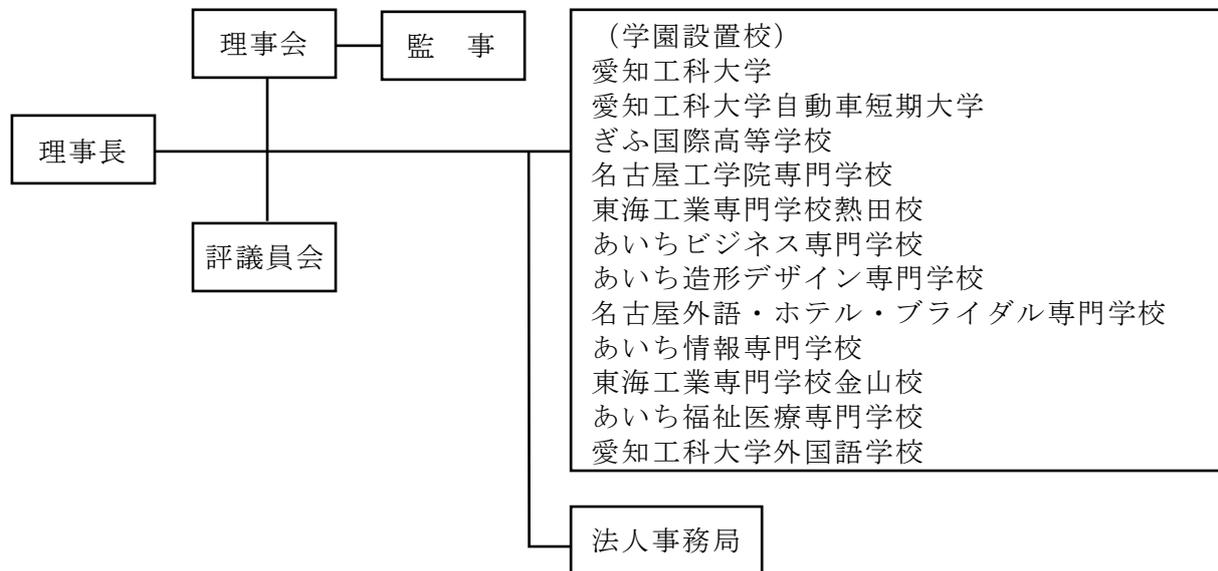
(2) 学校法人の概要

- 学校法人が設置するすべての教育機関の名称、所在地、入学定員、収容定員及び在籍者数
- 平成 27 年 5 月 1 日現在

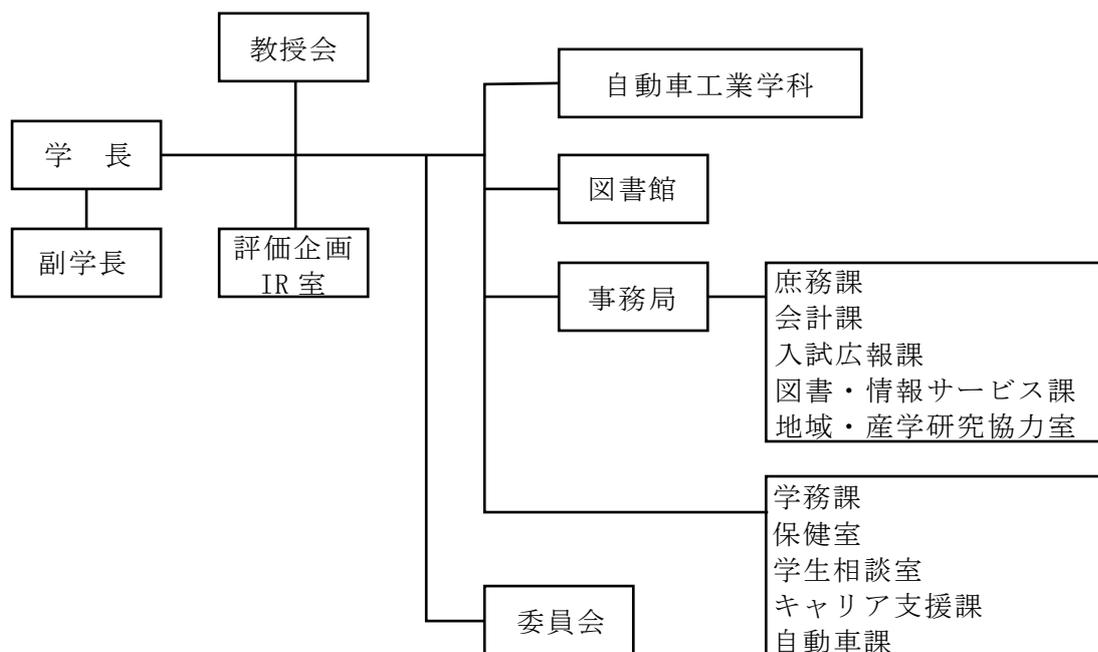
教育機関名	所在地	入学定員	収容定員	在籍者数
愛知工科大学	愛知県蒲郡市西迫町馬乗 50-2	225	1,013	559
愛知工科大学自動車短期大学	愛知県蒲郡市西迫町馬乗 50-2	180	360	328
ぎふ国際高等学校	岐阜市橋本町 3 丁目 9	240	720	593
名古屋工学院専門学校	名古屋市熱田区神宮 4-7-21	1,230	2,860	2,461
東海工業専門学校熱田校	名古屋市熱田区花表町 19-14	160	480	824
あいちビジネス専門学校	名古屋市中区伊勢山 2-13-28	450	960	628
あいち造形デザイン専門学校	名古屋市千種区今池 4-10-7	360	800	616
名古屋外語・ホテル ・ブライダル専門学校	名古屋市千種区今池町 5-24-4	190	380	305
あいち情報専門学校	愛知県豊橋市関屋町 1-6	120	240	156
東海工業専門学校金山校	名古屋市中区金山 2-7-19	590	1,030	823
あいち福祉医療専門学校	名古屋市熱田区金山町 1-7-13	200	440	352
愛知工科大学外国語学校	名古屋市瑞穂区明前町 15-23	40	80	80

(3) 学校法人・短期大学の組織図

- 学校法人電波学園組織図
- 平成 27 年 5 月 1 日現在



- 愛知工科大学自動車短期大学組織図
- 平成 27 年 5 月 1 日現在



(4) 立地地域の人口動態・学生の入学動向・地域社会のニーズ

■ 立地地域の人口動態（短期大学の立地する周辺地域の趨勢）

本学の所在地である蒲郡市、幸田町（短期大学の敷地の一部は「額田郡幸田町」に属している。）は、三河地方の中央に位置し本学の周辺には自動車関連、製鋼関連企業、住宅関連企業等の上場企業をはじめ有数のものづくり企業が立地している。蒲郡市は人口 80,708 人、幸田町 39,646 人（愛知県統計課人口統計調査）で、これらの市街地を JR 東海道線、名鉄蒲郡線が東西に走り、国道 23 号線、247 号線、248 号線などが幹線道路として整備されている。本学の最寄りの駅である JR 三河塩津駅及び蒲郡駅は、名古屋から 37 分、豊橋から 10 分以内で基幹駅から 1 時間以内の距離にある。本学キャンパスは、緑に囲まれた丘陵地に立地し蒲郡駅からスクールバスで 12 分、JR 三河塩津駅から徒歩 15 分の所にある。

(人)

地域		22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
東三河地区	蒲郡市	81,748	81,697	82,505	80,763	80,708
	豊川市	182,295	181,733	185,149	181,285	181,183
	豊橋市	375,322	376,058	381,224	373,770	373,070
	田原市	66,352	63,843	65,591	62,995	62,424
	新城市	50,079	49,313	50,524	47,930	47,275
西三河地区	幸田町	38,123	38,393	38,543	39,450	39,646
	岡崎市	373,409	373,656	377,686	375,162	376,508
	西尾市	107,524	165,645	170,036	165,796	166,185

* 愛知県人口動向調査結果から抜粋

■ 学生の入学動向：学生の出身地別人数及び割合（下表）

地域	22 年度		23 年度		24 年度		25 年度		26 年度		
	人数 (人)	割合 (%)									
愛知県	95	69.9	110	75.3	79	76.0	101	69.7	104	69.3	
東三河	豊橋市	19	13.9	14	9.6	10	9.6	14	9.7	13	8.7
	豊川市	7	5.1	11	7.5	6	5.8	11	7.6	7	4.7
	蒲郡市	5	3.6	10	6.8	3	2.9	5	3.4	9	6.0
	田原市	2	1.5	4	2.7	3	2.9	2	1.4	2	1.3
	新城市	3	2.2	5	3.4	1	1.0	1	0.7	3	2.0
	北設楽郡	0	0.0	1	0.7	0	0.0	0	0.0	0	0.0
西三河	幸田町	3	2.2	0	0.0	4	3.8	5	3.4	0	0.0
	岡崎市	13	9.5	12	8.2	14	13.5	11	7.6	16	10.7
	豊田市	4	2.9	6	4.1	3	2.9	5	3.4	6	4.0
	安城市	2	1.5	7	4.8	2	1.9	5	3.4	7	4.7

地域	22年度		23年度		24年度		25年度		26年度		
	人数 (人)	割合 (%)									
西 三 河	西尾市	5	3.6	7	4.8	3	2.9	3	2.1	3	2.0
	知立市	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	2.1	0	0.0
	刈谷市	2	1.5	1	0.7	2	1.9	0	0.0	3	2.0
	高浜市	0	0.0	2	1.4	0	0.0	1	0.7	0	0.0
	碧南市	1	0.7	0	0.0	0	0.0	1	0.7	2	1.3
	みよし市	0	0.0	0	0.0	1	1.0	1	0.7	0	0.0
尾張地区	29	21.3	30	20.5	27	26.0	33	22.8	33	22.0	
静岡県	14	10.2	12	8.2	5	4.8	15	10.3	13	8.7	
三重県	12	8.8	2	1.4	3	2.9	8	5.5	3	2.0	
岐阜県	0	0.0	6	4.1	2	1.9	6	4.1	3	2.0	
長野県	4	2.9	1	0.7	3	2.9	3	2.1	2	1.3	
その他	11	8.0	15	10.3	12	11.5	12	8.3	25	16.7	
計	136		146		104		145		150		

[注]

- 短期大学の実態に即して地域を区分する。
- この事項においては通信による教育を行う学科の学生を除く。
- 第三者評価を受ける前年度の平成26年度を起点に過去5年間。

■ 地域社会のニーズ

愛知県は日本列島のほぼ中央に位置し、高速道路、鉄道、港、空港をはじめとした主要な交通網が横断に整備され、一大拠点となっており、東京、大阪と並んで日本の三大都市圏を形成している。気候は太平洋の黒潮の影響を受け、全般的に温暖であり、工業、商業、農業がバランス良く発達し、日本経済の原動力として機能している。

■ 地域社会の産業の状況

平成25年経済産業省工業統計調査によると、愛知県の製造品出荷額等は42兆18億円（従業者4人以上の事業所）と全国の約14%を占め、第2位の神奈川県（17兆2,261億円）とは大差で、37年連続日本一のものづくり県である。また、製造業における事業所数（従業者4人以上）は17,187社で全国の8.3%を占め、全国第2位、その従業員数は78万9,092人と全国の10.7%を占め、全国第1位の位置にある。

■ 短期大学所在の市区町村の全体図

愛知県



蒲郡市

蒲郡市は愛知県の南東部にあり、本州のほぼ中心に位置している。渥美半島と西浦半島に囲われた海辺の観光地で、三河湾国定公園に指定されており、約 47km の海岸線沿いに 4 つの温泉地を持ち、市内には日本の文化を感じさせる神社や仏閣の多い、美しい土地である。気候は、冬季に雪が降ることがあっても積もることはほとんどない温暖な地域で、この温暖な気候を活かしたフルーツ栽培がさかんで、特に「みかん」の生産では日本国内で有名で、ハウスみかんについては日本有数の出荷量を誇る。蒲郡オレンジパークでは、農業と観光を結び付け、地域農業者と都市生活者のふれあいの場としての「ふれあい農業公園」で「ハウスみかん狩り」「みかん狩り」「いちご狩り」「メロン狩り」「ぶどう狩り」等で年間を通じ、多くの観光客が訪れている。また、海から山にかけ変化に富んだ景勝は、万葉の歌人や近代の作家にも愛され、数多くの文人が好んで訪れている。

幸田町

幸田町は愛知県の中南部に位置し、中部圏の中心都市・名古屋市から45km圏内にあり、北は岡崎市、西は西尾市、南東は蒲郡市などと接している。東西10.25km、南北10.55kmで面積は56.78km²。東部の遠望峰山の439mを最高に東部と南西部に100m～400mの丘陵が続き、広田川を中心に平野が広がっており、温暖な気候に恵まれ、緑豊かな自然に抱かれた美しい町である。

三河港

三河港は、渥美半島と知多半島に囲まれる三河湾の東側奥部に広大な港湾区域（周囲約80km、水域面積約132km²）を有する港で、臨海部に造成された工業用地には、製鋼関連企業、住宅関連企業、自動車関連企業などが立地しており、東三河・西遠・南信を背後圏とする流通拠点港湾となっている。

また、国内有数の自動車企業の進出により、自動車輸出が増大し、さらに、外資系自動車企業による自動車輸入により、日本有数の自動車流通港湾として発展を遂げている。平成22年8月には全国の重要港湾の内でも、集中的に施設整備を行う重点港湾にも選定された。貨物の取扱については、平成26年において自動車輸入台数シェア、輸入額シェアは全国1位、また、自動車輸出台数シェア、輸出額シェアは全国2位を誇り、国際的な自動車流通港湾として、重要な役割を果たしているなど地域とともに躍進する港湾である。

(5) 課題等に対する向上・充実の状況

- ① 前回の第三者評価結果における三つの意見の「向上・充実のための課題」で指摘された事項への対応について（領域別評価票における指摘への対応は任意）

改善を要する事項 (向上・充実のための課題)	対 策	成 果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、 教育目的・教育目標 ○建学の精神・教育理念、 教育目標、教育指針の連 関性を整理し、わかりや すく広報する方策を立て ることが望まれる。	建学の精神以下本学の基 本事項として、学則に「使 命」及び「教育研究上の目 的」を規定し、教育指針、 教育目標及び教育課程方 針であるアドミッション ・ポリシー、カリキュラ ム・ポリシー、ディプロ マ・ポリシーを改訂しその 関連性を明確にしてホー ムページや大学案内等印 刷物で広報している。	本学の基本事項を整備し たことにより、本学の個 性・特色がより明確にな り社会からの要請に応え るべき理解がなされてい ると受け止めている。

改善を要する事項 (向上・充実のための課題)	対 策	成 果
評価領域Ⅱ 教育の内容 ○選択科目の説明は入学時に行われているが、履修人員が少ないことから学生が選択科目の重要性を認識するよう一層の工夫を望みたい。	卒業要件単位数を、一般教育科目、外国語科目、保健体育科目及び専門教育科目の必修科目 60 単位と選択科目から 5 単位以上選択し合わせて 65 単位以上修得しなければならないこととした。	各選択科目にあつては、履修者の増加につながっている。各科目に対する履修の必要性が十分に認識され改善が図られた。

② 上記以外で、改善を図った事項について

改善を要する事項	対策	成果
教育の内容 ○授業科目区分及び卒業要件単位数の見直しを図り、履修に関し学生に解りやすい表記にする。	一般教育科目、外国語科目、保健体育科目及び専門教育科目の四区分を基礎・教養科目、専門科目の二区分とし、卒業要件単位数も見直し、基礎・教養科目の必修科目 7 単位、専門科目の必修科目 53 単位と選択科目から 8 単位以上選択し、合わせて 68 単位以上修得しなければならないこととした。	各科目に対する履修の必要性が十分に認識され、各選択科目にあつては、履修者の増加につながっているため、改善が図られたと受け止めている。

③ 過去 7 年間に、文部科学省の設置計画履行状況等調査において留意事項が付された短期大学は、留意事項及びその履行状況を記述する。

該当なし

(6) 学生データ (学校基本調査のデータを準用)

- ① 入学定員、入学者数、入学定員充足率、収容定員、在籍者数、収容定員充足率
- 学科・専攻課程ごとに、第三者評価を受ける平成 27 年度を含む過去 5 年間のデータを示す。

平成 23 年度～平成 27 年度の設置学科等について

学科等の名称	事項	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度	27 年度	備考
自動車工業学科	入学定員	180	180	180	180	180	
	入学者数	146	104	145	150	180	
	入学定員 充足率 (%)	81	57	80	83	100	
	収容定員	360	360	360	360	360	
	在籍者数	282	248	257	287	328	
	収容定員 充足率 (%)	78	68	71	79	91	

[注]

- 「学科等の名称」欄には 5 年間に設置された学科等をすべて記載し、設置以前の年度については、入学定員以下は空欄とする。
- 5 年間に学科等の名称変更を行った場合は、最新の名称で記載し、直下の () に旧名称を記載する。
- 通信教育学科の場合、学科等の名称欄に「通信教育」と記載する。募集停止を行った学科等は、募集を停止した年度の入学定員欄に「募集停止」と記載する。
- 新たに学科等を新設した場合は、募集年度の入学定員欄に「新設」と記載する。
- 「入学定員充足率 (%)」欄及び「収容定員充足率 (%)」欄は、小数点以下第 1 位を切り捨てて記載する。

※ 下記②～⑥について、学科・専攻課程ごとに、第三者評価を受ける前年度の平成 26 年度を起点とした過去 5 年間のデータを示す。

② 卒業者数 (人)

区分	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
自動車工業学科	138	123	123	106	126

③ 退学者数 (人)

区分	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
自動車工業学科	15	12	11	14	13

④ 休学者数 (人)

区分	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
自動車工業学科	2	5	4	2	4

⑤ 就職者数 (人)

区分	22 年度	23 年度	24 年度	25 年度	26 年度
自動車工業学科	105	82	88	78	102

⑥ 進学者数（人）

区分	22年度	23年度	24年度	25年度	26年度
自動車工業学科	31	36	31	24	22

(7) 短期大学設置基準を上回っている状況・短期大学の概要

※ 大学の設置等に係る提出書類の「基本計画書」（「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引き」を参照）内の量的数値及び質的な事項について記述する。

※ ①～⑦まで、すべて第三者評価を受ける年度の平成 27 年 5 月 1 日現在

① 教員組織の概要（人）

学科等名	専任教員数					設置基準で定める教員数〔イ〕	短期大学全体の入学定員に応じて定める専任教員数〔ロ〕	設置基準で定める教授数	助手	非常勤教員	備考
	教授	准教授	講師	助教	計						
自動車工業学科	7	4	3	9	23	10		3	3	4	工学関係
（小計）	7	4	3	9	23	10		3	3		
〔その他の組織等〕											
短期大学全体の入学定員に応じて定める専任教員数〔ロ〕							4	2			
（合計）	7	4	3	9	23	14		5	3		

[注]

1. 上表の「設置基準で定める教員数〔イ〕」には、短期大学設置基準第 22 条別表第 1 のイに定める学科の種類に応じて定める教員数（昼間又は夜間において授業を行う学科が通信教育をあわせ行う場合には、短期大学通信教育設置基準第 9 条第 2 項に定める教員数を含む。）を、また、通信教育学科のみを置く短期大学の場合は短期大学通信教育設置基準第 9 条第 1 項別表第 1 に定める教員数を、学科ごとに記入し、その小計を①に記入する。
2. 上表の「短期大学全体の入学定員に応じて定める専任教員数〔ロ〕」②には、短期大学設置基準第 22 条別表第 1 のロに定める短期大学全体の入学定員に応じて定める教員数を記入する。
3. 上表の「設置基準で定める教授数」には、短期大学設置基準第 22 条別表第 1 のイの備考 1 に定める教授数（通信教育学科のみを置く短期大学の場合は、短期大学通信教

育設置基準第9条第1項別表第1備考2に定める教授数)を学科ごとに記入し、その小計を③に記入する。さらに、〔ロ〕の専任教員数に対する教授数を④に記入する。

4. 上表の〔その他の組織等〕には、設置する学科に所属しない教員(例えば、一般教育科目等を担当する教員や募集停止を行った学科所属の教員等)数を記入するとともに、〔その他の組織等〕欄に組織名等(募集停止の場合はその年度も含む。)を記入する。該当する教員がない場合、この欄には斜線を引く。
5. 上表の「助手」とは、助手として発令されている教職員をいう。
6. 備考欄には、当該学科の種類(短期大学設置基準第22条別表第1のイにいう「学科の属する分野の区分」)を必ず記載する。

② 教員以外の職員の概要(人)

	専任	兼任	計
事務職員	4	8	12
技術職員	0	0	0
図書館・学習資源センター等の専門事務職員	0	1	1
その他の職員	0	0	0
計	4	9	13

[注]

- 「その他の職員」とは、守衛、自動車運転手、作業員等の技能労務職員等を指す。
- 契約職員、派遣職員等は「兼任」に分類する。

③ 校地等(㎡)

校地等	区分	専用(㎡)	共用(㎡)	共用する他の学校等の専用(㎡)	計(㎡)	基準面積(㎡)	在籍学生一人当たりの面積(㎡)	備考(共用の状況等)			
	校舎敷地	7,463	0	0	7,463				3,600	16.3	
	運動場用地	0	7,008	0	7,008						
	小計	7,463	7,008	0	14,471						
	その他	0	0	0	0						
	合計	7,463	7,008	0	14,471						

[注]

- 基準面積(㎡) = 短期大学設置基準上必要な面積
- 〔イ〕在籍学生一人当たりの面積 = 〔ロ〕 ÷ 当該短期大学の在籍学生数(他の学校等と共用している場合、当該学校等の在籍学生数を加えた総在籍学生数)

④ 校舎 (㎡)

区分	専用 (㎡)	共用 (㎡)	共用する他の学校等の専用 (㎡)	計 (㎡)	基準面積 (㎡)	備考 (共用の状況等)
校舎	14,478	1,713	—	16,191	4,250	大学と共用

[注]

□ 基準面積 (㎡) = 短期大学設置基準上必要な面積

⑤ 教室等 (室)

講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習室	語学学習施設
17	0	17	1	0

⑥ 専任教員研究室 (室)

専任教員研究室
23

⑦ 図書・設備

学科・専攻課程	図書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕 (種)		視聴覚資料 (点)	機械・器具 (点)	標本 (点)
	(冊)		電子ジャーナル〔うち外国書〕			
自動車工業学 科	37,858 〔6,380〕	147 〔40〕	0	803	15	0
計	37,858 〔6,380〕	147 〔40〕	0	803	15	0

図書館	面積 (㎡)	閲覧座席数	収納可能冊数
	1,291	255	45,000
体育館	面積 (㎡)	体育館以外のスポーツ施設の概要	
	2,836	大学共用運動場	7,008 ㎡

(8) 短期大学の情報の公表について

① 教育情報の公表について

	事項	公表方法等
1	大学の教育研究上の目的に関すること	ホームページ << 総合案内 >> 「教育情報の公表」で開示 URL http://www.aut.ac.jp/jc/
2	教育研究上の基本組織に関すること	
3	教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること	
4	入学者に関する受け入れ方針及び入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること	
5	授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること	
6	学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること	
7	校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること	
8	授業料、入学料その他の大学が徴収する費用に関すること	
9	大学が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること	

② 学校法人の財務情報の公開について

事項	公開方法等
財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監査報告書	総合案内「学園の概要」で公表 URL http://www.denpa.jp/

[注]

- 上記①・②ともに、ウェブサイトで公表している場合は URL を記載する。

(9) 各学科・専攻課程ごとの学習成果について

■ 学習成果をどのように規定しているか。

本学は、学則第1条において「一般教養ならびに産業技術に関する研究と実務的指導を行い、社会から喜ばれる知識技能と歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、もって地域社会の産業発展に寄与すること」を目的として掲げ、学習成果として、国家資格の二級自動車整備士資格取得を指標に定め評価している。また、就職実績、進学実績、各種資格取得実績も学習成果の指標として総合的に評価している。教育効果の向上及び教育の質保証の観点から、平成22年度に、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）、カリキュラム・ポリシー（教育課程編成方

針)、アドミッション・ポリシー(入学者受け入れ方針)を基本的事項に定め公表している。個々の授業評価の学習成果は、いずれの科目においても学生便覧のシラバスで成績評価方法を定め、これに準拠して厳格に評価するようにしている。

■ どのように学習成果の向上・充実を図っているか。

本学は、学科会議、FD委員会、教務委員会、資格取得指導委員会等で、学習成果の向上・充実策を恒常的に点検している。特に教育の質保証については、三つの方針の下にPDCAサイクルによりその結果について量的・質的データを収集し分析を行い、向上・充実のためのフィードバック情報として活用している。質保証のための学習成果の向上・充実は、学生自身の要求にとどまらず、卒業生が社会の求める人材であるかも極めて重要な点であり、教育の方法・実践及び学生のニーズについても点検し、教育の質保証を図っている。

(10) オフキャンパス、遠隔教育、通信教育のその他の教育プログラム

■ オフキャンパス(実施していれば記述する)

自動車工業学科2年生を対象に夏期休業期間中を利用して、本学の後援団体である「愛知工科大学技術後援会(愛技会)」との連携により、就職内定先の企業等へインターンシップ形式で企業実習を平成25年度から実施している。

■ 遠隔教育(実施していれば記述する) 該当なし。

■ 通信教育(実施していれば記述する) 該当なし。

■ その他の教育プログラム(実施していれば記述する)

各種の国家試験、検定試験への挑戦として「キャリア支援講座」を開設している。自動車整備士の資格取得にとどまらず自らの学習意欲を促し、就職活動に役立つように資格取得の指導に取り組んでいる。

【キャリア支援講座】

- ・中古自動車査定士(小型車査定士)
- ・フォークリフト運転技能講習
- ・ガス溶接技能講習
- ・低圧電気取扱業務特別教育
- ・損害保険募集人試験
- ・危険物取扱者(乙種第4類)
- ・3級販売士検定試験
- ・日商簿記検定
- ・CAD利用技術者試験2級
- ・CAD利用技術者試験1級(機械)
- ・3次元CAD利用技術者試験2級
- ・3次元CAD利用技術者試験準1級、1級

(11) 公的資金の適正管理の状況

- 公的資金の適正管理の方針及び実施状況を記述する（公的研究費補助金取扱いに関する規程、不正防止などの管理体制など）。

公的資金の適正管理については、以下の学内規程が制定され、適正な公的研究費の運営について、確認・執行が行われる体制が整備されている。規程は、本学のイントラネットの「短期大学規程集」で開示し周知徹底を図っている。

「愛知工科大学自動車短期大学研究助成金使用に関する取扱規程」

「愛知工科大学自動車短期大学における研究上の不正行為に関する取扱規程」

「愛知工科大学自動車短期大学研究倫理規程」

(12) 理事会・評議員会の開催状況（平成24年度～平成26年度）

区分	開催日現在の状況		開催年月日 開催時間	出席者数等			監事の出席 状況
	定員	現員(a)		出席理事 数(b)	実出席率 (b/a)	意思表示 出席者数	
理事会	6人	6人	平成24年5月19日 10:00～10:52 11:24～11:48	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成24年7月20日 16:50～17:10	5人	83.3%	1人	2/2
		6人	平成24年9月15日 10:25～10:40	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成24年11月16日 16:55～17:30	5人	83.3%	1人	2/2
		6人	平成25年1月25日 17:10～17:30	5人	83.3%	1人	2/2
		6人	平成25年2月21日 (持ち回り審議)	6人	100%	0人	0/0
		6人	平成25年3月23日 11:00～11:45	5人	83.3%	0人	2/2
		6人	平成25年5月18日 10:00～10:56 11:31～12:05	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成25年5月29日 (持ち回り審議)	6人	100%	0人	0/0
		6人	平成25年7月19日 16:30～16:50	5人	83.3%	1人	2/2

愛知工科大学自動車短期大学

区分	開催日現在の状況		開催年月日 開催時間	出席者数等			監事の出席 状況
	定員	現員(a)		出席理事 数(b)	実出席率 (b/a)	意思表示 出席者数	
理事会	6人	6人	平成25年9月21日 10:55~11:15	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成25年11月21日 11:10~11:30	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成26年1月24日 17:00~17:20	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成26年3月29日 11:00~11:50	5人	83.3%	1人	2/2
		6人	平成26年5月17日 9:55~11:17 11:50~12:10	5人	83.3%	0人	2/2
		5人	平成26年7月18日 16:25~16:45	5人	100%	0人	2/2
		6人	平成26年9月20日 11:25~11:40	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成26年11月21日 16:40~17:10	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成27年1月23日 17:00~17:30	6人	100%	0人	2/2
		6人	平成27年3月28日 11:00~11:45	6人	100%	0人	2/2
評議員会	13人	13人	平成24年5月19日 10:52~11:24	13人	100%	0人	2/2
		13人	平成24年7月20日 16:00~16:50	11人	84.6%	2人	2/2
		13人	平成24年9月15日 10:00~10:25	12人	92.3%	1人	2/2
		13人	平成24年11月16日 16:00~16:55	11人	84.6%	2人	2/2
		13人	平成25年1月25日 16:30~17:10	12人	92.3%	1人	2/2
		13人	平成25年2月21日 (持ち回り審議)	10人	76.9%	0人	0/0
		13人	平成25年3月23日 10:00~11:00	11人	84.6%	0人	2/2

区分	開催日現在の状況		開催年月日 開催時間	出席者数等			監事の出席 状況
	定員	現員(a)		出席理事 数(b)	実出席率 (b/a)	意思表示 出席者数	
評議員会	13人	13人	平成25年5月18日 10:56~11:31	13人	100%	0人	2/2
		13人	平成25年5月29日 (持ち回り審議)	10人	76.9%	0人	0/0
		13人	平成25年7月19日 16:00~16:30	11人	84.6%	2人	2/2
		13人	平成25年9月21日 10:30~10:55	13人	100%	0人	2/2
		13人	平成25年11月21日 10:30~11:10	12人	92.3%	1人	2/2
		13人	平成26年1月24日 16:25~17:00	12人	92.3%	1人	2/2
		13人	平成26年3月29日 9:55~11:00	11人	84.6%	2人	2/2
		13人	平成26年5月17日 11:17~11:50	12人	92.3%	0人	2/2
		12人	平成26年7月18日 15:55~16:25	12人	100%	0人	2/2
		13人	平成26年9月20日 10:55~11:25	13人	100%	0人	2/2
		13人	平成26年11月21日 15:50~16:40	13人	100%	0人	2/2
		13人	平成27年1月23日 16:25~17:00	12人	92.3%	1人	2/2
		13人	平成27年3月28日 10:00~11:00	12人	92.3%	0人	2/2

[注]

- 平成24年度から平成26年度までに開催した全ての理事会及び評議員会について、理事会・評議員会ごとに記入・作成する。(評議員会については、上表の「理事会」、「出席理事数」を読み替えて作成する。)
- 「定員」及び「現員(a)」欄には、理事会・評議員会開催日当日の人数を記入する。
- 「意思表示出席者数」欄には、寄附行為に「書面をもってあらかじめ意思を表示したものは出席者とみなす」等が規定されている場合、その人数を外数で記入する。
- 「実出席率(b/a)」欄には、百分率で小数点以下第1位まで記入する(小数点以下第2位を四捨五入)。

5. 「監事の出席状況」欄には、「／」の右側に監事数（現員）を記入し、左側に当該理事会及び評議員会に出席した監事数を記入する。

(13) その他

特になし

- 上記以外に、評価員が理解を深めるのに役立つ情報があれば記述する。

特になし

2. 自己点検・評価の組織と活動

■ 自己点検・評価委員会（担当者、構成員）

自己点検評価に関する規程及び自己点検・評価委員会規程に基づき委員会が設置され、同委員会規程第4条に規定する学科長、学科長補佐、委員長が指名した教員及び委員長が必要と認めた者で委員会を構成しており、平成26年度の構成員は次のとおりである。

委員長	中 島	守	教授（学科長）
副委員長	高 田 富	男	教授（学科長補佐、ALO、入試・広報委員会委員長）
委員	橋 本 孝	明	教授（紀要編集委員）
委員	森 勝 行		教授（教務委員会委員長）
委員	河 合 末 利		教授（学生生活指導委員会委員長）
委員	鈴 木 宏 和		教授（資格取得指導委員会委員長）
委員	永 田 英 雄		教授（教務委員会副委員長）
委員	掛 布 知 仁		准教授（入試・広報委員会副委員長）
委員	奥 野 輝 夫		短期大学事務局長
委員	古 尾 正 明		事務局庶務課長
委員	坂 倉 洋 治		事務局会計課長（ALO補佐）
委員	服 部 明 芳		事務局入試広報課長
委員	佐 野 光 男		事務局入試広報統括
委員	廣 田 正		事務局地域・産学研究協力室長
委員	田 境 守 康		学務課統括長
委員	井戸田 敦		キャリア支援課長

○ 短期大学評価企画IR室（担当者、構成員）

全教職員が自己点検に参画する趣旨から短期大学評価企画IR室を設置し、短期大学評価に関し、短期大学評価企画IR室規程第3条に規定する室長(ALO)、副室長、室員5人程度、その他学長が必要と認めた者で室員を構成しており、平成26年度の室員は次のとおりである。

室 長	高 田 富	男	教授（学科長補佐）
副室長	古 尾 正 明		事務局庶務課長
	河 合 武 明		事務局庶務課主任
	杉 浦 千 尋		事務局庶務課員
副室長	廣 田 正		事務局地域・産学研究協力室長
副室長	田 境 守 康		学務課統括長
	村 田 幸 藏		学務課主任
	今 泉 里 美		学務課員

■ 自己点検・評価の組織図（規程は提出資料）



関係規程

- ・愛知工科大学自動車短期大学 自己点検評価に関する規程
- ・愛知工科大学自動車短期大学 評価企画IR室規程

■ 組織が機能していることの記述（根拠を基に）

自己点検・評価委員会は、平成17年度に規程が制定され、平成20年度に自己点検評価に関する規程を整備し、自己点検評価制度の明確化と委員会体制・機能を強化している。平成17年度以降これまで自己点検・評価活動を実施し、自己点検・評価報告書を作成している。このうち、平成14年度及び平成22年度には広島国際学院大学自動車短期大学部との相互点検評価を実施した。改善すべき課題をとりまとめ審議し、問題点に関する共通理解のもとに改善を促進している。

■ 自己点検・評価報告書完成までの活動記録（自己点検・評価を行った平成26年度を中心に）

年月日	会議名等	主な議題、以来事項等
平成26年4月23日	平成26年度第1回 自己点検・評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> 平成27年度自己点検・評価報告書作成について 平成27年度自己点検・評価報告書作成にあたっての共通認識及びエビデンスについて
平成26年7月15日	平成26年度第1回 評価企画IR室会議	<ul style="list-style-type: none"> 平成23・24年度自己点検・評価報告書の製本、印刷について 平成23・24年度自己点検・評価報告書に関するエビデンスについて 平成27年度自己点検・評価報告書作成について、協会からのマニュアルをイントラにアップする
平成26年7月23日	平成26年度第2回 自己点検・評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> 平成23・24年度自己点検・評価報告書の発刊について 「平成22年度策定の中期目標・計画の具体的方策の取り組み」における平成26年度分について 平成27年度自己点検・評価報告書の記載について 平成25・26年度分のエビデンスについて
平成26年9月24日	平成26年度第3回 自己点検・評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> 平成23・24年度自己点検・評価報告書の配布について 第三者評価受審のための「平成27年度用自己点検・評価報告書マニュアル」について
平成27年1月28日	平成26年度第4回 自己点検・評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> 中期目標・計画の具体的方策取り組みに対する達成度評価（25・26年度分）について 第三者評価における自己点検・評価委員会及び推進チームについて 平成27年度自己点検・評価報告書作成における注意事項について 教育マップについて 教育の向上・充実のためのPDCAサイクルについて 訪問調査日程調整票について

年月日	会議名等	主な議題、以来事項等
平成27年4月8日	平成27年度第1回 評価企画IR室会議	<ul style="list-style-type: none"> ・今後の日程、作業予定について ・各章における参考資料の記入方法について ・文章の体裁について ・エビデンスの整理、整合性の確認
平成27年4月9日	平成27年度第1回 報告書作成担当責任 者会議	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書作成にあたっての確認事項 「改善計画」「行動計画」不備の箇所があり再度確認 記入漏れ等を確認
平成27年4月13日	平成27年度第2回 評価企画IR室会議	<ul style="list-style-type: none"> ・様式1～5の校正、データの抽出元を確認
平成27年4月16日	平成27年度第3回 評価企画IR室会議	<ul style="list-style-type: none"> ・前回校正した部分の再確認
平成27年4月20日	平成27年度第4回 評価企画IR室会議	<ul style="list-style-type: none"> ・評価基準 I -Aを校正 ・数字、年号等の体裁を統一
平成27年4月22日	平成27年度第1回 自己点検・評価委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・「平成22年度策定の中期目標における平成27年度取り組み」について ・「平成22年度策定の中期目標における平成26年度の達成度」について ・評価企画IR室から報告
平成27年4月23日	平成27年度第5回 評価企画IR室会議	<ul style="list-style-type: none"> ・体裁の訂正部分を確認

3. 提出資料・備付資料一覧

(1) 記述の根拠となる資料等一覧

記述の根拠となる資料等	提出資料	備付資料
基準Ⅰ：建学の精神と教育の効果		
A 建学の精神		
建学の精神・教育理念についての印刷物	◎	
創立記念、周年誌等		○
B 教育の効果		
教育目的・目標についての印刷物	◎	
学生が獲得すべき学習成果についての印刷物	◎	
C 自己点検・評価		
自己点検・評価を実施するための規程	◎	
過去3年間（平成26年度～平成24年度）に行った自己点検・評価に係る報告書等		○
第三者評価以外の外部評価についての印刷物		○
基準Ⅱ：教育課程と学生支援		
A 教育課程		
学位授与の方針に関する印刷物	◎	
教育課程編成・実施の方針に関する印刷物	◎	
入学者受け入れ方針に関する印刷物	◎	
カリキュラムに対応した授業科目担当者一覧 ■ 平成26年度 ■ 授業科目名、職位、担当教員名、研究分野、教員配置（専任・兼担・兼任の別）	◎	
シラバス ■ 平成26年度 ■ 紙媒体、又は電子データで提出	◎	
単位認定の状況表 ■ 第三者評価を受ける前年度の平成26年度に卒業した学生が入学時から卒業までに履修した科目について		○
学習成果を表す量的・質的データに関する印刷物		○
B 学生支援		
学生便覧等（学則を含む）、学習支援のために配付している印刷物	◎	
学生支援の満足度についての調査結果		○
就職先からの卒業生に対する評価結果		○
卒業生アンケートの調査結果		○

記述の根拠となる資料等	提出資料	備付資料
短期大学案内・募集要項・入学願書	◎	
■ 平成 27 年度入学者用及び平成 26 年度入学者用の 2 年分		
入学志願者に対する入学までの情報提供のための印刷物等		○
入学手続者に対する入学までの学習支援のための印刷物等		○
学生の履修指導（ガイダンス、オリエンテーション）等に関する資料		○
学生支援のための学生の個人情報記録する様式		○
進路一覧表等の実績についての印刷物等		○
■ 過去 3 年間（平成 26 年度～平成 24 年度）		
GPA 等の成績分布		○
学生による授業評価票及びその評価結果		○
社会人受け入れについての印刷物等		○
海外留学希望者に向けた印刷物等		○
FD 活動の記録		○
SD 活動の記録		○
基準Ⅲ：教育資源と財的資源		
A 人的資源		
専任教員の個人調書		○
■ 教員個人調書（平成 27 年 5 月 1 日現在で作成）〔書式 1〕、及び過去 5 年間（平成 26 年度～平成 22 年度）の教育研究業績書〔書式 2〕		
■ 「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引き」を参照 〔注〕学長・副学長の専任教員としての位置付け：当該短期大学の教育課程に定められた授業を担当し、かつシラバスに掲載されていること		
非常勤教員一覧表〔書式 3〕		○
教員の研究活動について公開している印刷物等		○
■ 過去 3 年間（平成 26 年度～平成 24 年度）		
専任教員の年齢構成表		○
■ 第三者評価を受ける年度（平成 27 年 5 月 1 日現在）		
科学研究費補助金等、外部研究資金の獲得状況一覧表		○
■ 過去 3 年間（平成 26 年度～平成 24 年度）		
研究紀要・論文集		○
■ 過去 3 年間（平成 26 年度～平成 24 年度）		
教員以外の専任職員の一覧表（氏名、職名）		○
■ 第三者評価を受ける年度（平成 27 年 5 月 1 日現在）		
B 物的資源		

記述の根拠となる資料等	提出資料	備付資料
校地、校舎に関する図面 ■ 全体図、校舎等の位置を示す配置図、用途（室名）を示した各階の図面、校地間の距離、校地間の交通手段等		○
■ 図書館、学習資源センターの概要 平面図、蔵書数、学術雑誌数、AV資料数、座席数等		○
C 技術的資源		
学内 LAN の敷設状況		○
マルチメディア教室、コンピュータ教室等の配置図		○
D 財的資源		
「資金収支計算書・消費収支計算書の概要（過去 3 年）」[書式 1]、 「貸借対照表の概要（過去 3 年）」[書式 2]、「財務状況調べ」[書式 3] 及び「キャッシュフロー計算書」[書式 4]	◎	
資金収支計算書・資金収支内訳表・消費収支計算書・消費収支内訳表 ■ 過去 3 年間（平成 26 年度～平成 24 年度） ■ 計算書類（決算書）の該当部分（第 1 号様式、第 2 号様式、第 4 号様式、第 5 号様式）	◎	
貸借対照表 ■ 過去 3 年間（平成 26 年度～平成 24 年度） ■ 計算書類（決算書）の該当部分（第 6 号様式）	◎	
中・長期の財務計画	◎	
事業報告書 ■ 過去 1 年分（平成 26 年度）	◎	
事業計画書／予算書 ■ 第三者評価を受ける年度（平成 27 年度）	◎	
寄附金・学校債の募集についての印刷物等		○
財産目録及び計算書類 ■ 過去 3 年間（平成 26 年度～平成 24 年度）		○
基準Ⅳ：リーダーシップとガバナンス		
A 理事長のリーダーシップ		
理事長の履歴書 ■ 第三者評価を受ける年度（平成 27 年 5 月 1 日現在）		○
学校法人実態調査表（写し） ■ 過去 3 年間（平成 26 年度～平成 24 年度）		○
理事会議事録 ■ 過去 3 年間（平成 26 年度～平成 24 年度）		○
寄附行為	◎	

記述の根拠となる資料等	提出資料	備付資料
<p>諸規程集 組織・総務関係 組織規程、事務分掌規程、稟議規程、文書取扱い（授受、保管）規程、公印取扱規程、個人情報保護に関する規程、情報公開に関する規程、公益通報に関する規程、情報セキュリティポリシー、防災管理規程、自己点検・評価に関する規程、SDに関する規程、図書館規程、各種委員会規程</p> <p>人事・給与関係 就業規則、教職員任免規程、定年規程、役員報酬規程、教職員給与規程、役員退職金支給規程、教職員退職金支給規程、旅費規程、育児・介護休職規程、懲罰規程、教員選考基準</p> <p>財務関係 会計・経理規程、固定資産管理規程、物品管理規程、資産運用に関する規程、監査基準、研究費（研究旅費を含む）等の支給規程、消耗品及び貯蔵品管理に関する規程</p> <p>教学関係 学則、学長候補者選考規程、学部（学科）長候補者選考規程、教員選考規程、教授会規程、入学者選抜規程、奨学金給付・貸与規程、研究倫理規程、ハラスメント防止規程、紀要投稿規程、学位規程、研究活動不正行為の取扱規程、公的研究費補助金取扱に関する規程、公的研究費補助金の不正取扱防止規程、教員の研究活動に関する規程、FDに関する規程</p> <p>■ 規程名は省略せず、個々の名称を全て列挙する。</p>		○
B 学長のリーダーシップ		
<p>学長の個人調書</p> <p>■ 教員個人調書 [書式 1]（平成 27 年 5 月 1 日現在）</p> <p>■ 専任教員として授業を担当している場合、「専任教員の個人調書」と同じく、過去 5 年間（平成 26 年度～平成 22 年度）の教育研究業績書 [書式 2]</p>		○
<p>教授会議事録</p> <p>■ 過去 3 年間（平成 26 年度～平成 24 年度）</p>		○
<p>委員会等の議事録</p> <p>■ 過去 3 年間（平成 26 年度～平成 24 年度）</p>		○
C ガバナンス		
<p>監事の監査状況</p> <p>■ 過去 3 年間（平成 26 年度～平成 24 年度）</p>		○
<p>評議員会議事録</p> <p>■ 過去 3 年間（平成 26 年度～平成 24 年度）</p>		○
選択的評価基準		
<p>選択的評価基準の評価を希望する場合</p> <p>■ 自己点検・評価の根拠となる資料・データは備付資料とする。</p>		○

記述の根拠となる資料等	提出資料	備付資料
<ul style="list-style-type: none"> ■ 資料・データ一覧を様式 5 に記載する。 ■ 複数の基準を選択する場合は基準ごとにまとめて記載する。 		

[注]

- 「(1) 記述の根拠となる資料等一覧」記載の資料を準備し、提出資料、備付資料それぞれ一覧表を作成する。
- 一覧表の「資料番号・資料名」には、提出資料、備付資料それぞれに付した通し番号及び資料名（評価校独自の名称等）を記載する。
- 準備できない資料（例えば、取り組み自体を行っていない場合等）については、「該当なし」と記載する。
- 提出資料、備付資料をウェブサイトで公表している場合、一覧表の「資料番号・資料名」には URL も記載する。
- 準備する資料は、特に指定がなければ自己点検・評価を行う平成 26 年度のものとする。ただし、第三者評価を受ける平成 27 年度に学科改組等で大幅な変更があった場合、平成 27 年度のもを備付資料として準備する。
- 「過去 3 年」・「過去 5 年」の指定がある場合、自己点検・評価を行う平成 26 年度を起点として過去 3 年間・過去 5 年間とする。

3. 提出資料・備付資料一覧

＜提出資料一覧表＞

報告書作成マニュアル記載の提出資料	資料番号・資料名
基準Ⅰ：建学の精神と教育の効果	
A 建学の精神	
建学の精神・教育理念についての印刷物	1. 学生便覧 2014 2. ウェブサイト「大学概要」 http://www.aut.ac.jp/
B 教育の効果	
教育目的・目標についての印刷物	1. 学生便覧 2014 3. 2015 大学案内
学生が獲得すべき学習成果についての印刷物	4. 成長ふりかえりシート
C 自己点検・評価	
自己点検・評価を実施するための規程	5. 自己点検・評価委員会規程 6. 評価企画 IR 室規程
基準Ⅱ：教育課程と学生支援	
A 教育課程	
学位授与の方針に関する印刷物	1. 学生便覧 2014
教育課程編成・実施の方針に関する印刷物	1. 学生便覧 2014
入学者受け入れ方針に関する印刷物	7. [平成 27 年度] 2015 学生募集要項 8. [平成 26 年度] 2014 学生募集要項 (AO 入試含む) 9. 平成 27 年度 指定校推薦入学試験学生募集要項 10. 平成 26 年度 指定校推薦入学試験学生募集要項 11. [平成 27 年度] 2015 AO 入学試験学生募集要項 12. 2015 外国人留学生募集要項 13. 2014 外国人留学生募集要項
カリキュラムに対応した授業科目担当者一覧	14. 平成 26 年度 授業科目担当一覧 前期・後期
シラバス	1. 学生便覧 2014 (シラバス)

報告書作成マニュアル記載の提出資料	資料番号・資料名
B 学生支援	
学生便覧等（学則を含む）、学習支援のために配付している印刷物	1. 学生便覧 2014
短期大学案内（2年分）	3. 2015 大学案内 15. 2014 大学案内
募集要項・入学願書（2年分）	7. [平成 27 年度] 2015 学生募集要項 8. [平成 26 年度] 2014 学生募集要項（AO 入試含む） 9. 平成 27 年度 指定校推薦入学試験学生募集要項 10. 平成 26 年度 指定校推薦入学試験学生募集要項 11. [平成 27 年度] 2015 AO 入学試験学生募集要項 12. 2015 外国人留学生募集要項 13. 2014 外国人留学生募集要項
基準Ⅲ：教育資源と財的資源	
D 財的資源	
「資金収支計算書・消費収支計算書の概要（過去 3 年）」[書式 1]、「貸借対照表の概要（過去 3 年）」[書式 2]、「財務状況調べ」[書式 3] 及び「キャッシュフロー計算書」[書式 4]	16. 資金収支計算書・消費収支計算書の概要 17. 貸借対照表の概要（学校法人） 18. 財務状況調べ 19. キャッシュフロー計算書（学校法人）
資金収支計算書・資金収支内訳表・消費収支計算書・消費収支内訳表（過去 3 年間）	20. 資金収支計算書・資金収支内訳表・消費収支計算書・消費収支内訳表（平成 26 年度～平成 24 年度）
貸借対照表（過去 3 年間）	21. 貸借対照表（平成 26 年度～平成 24 年度）
中・長期の財務計画	22. 中・長期財務計画
事業報告書 過去 1 年分（平成 26 年度）	23. 平成 26 年度 財務情報
事業計画書／予算書（平成 27 年度）	24. 平成 27 年度 予算編成に伴う事業計画書について／平成 27 年度 収支予算書
基準Ⅳ：リーダーシップとガバナンス	
A 理事長のリーダーシップ	
寄附行為	25. 学校法人電波学園寄附行為

＜備付資料一覧表＞

報告書作成マニュアル記載の備付資料	資料番号・資料名
基準Ⅰ：建学の精神と教育の効果	
A 建学の精神	
創立記念、周年誌等	1. 学園 50 年史 2. 創立 25 周年記念誌 3. 基本的事項
B 教育の効果	
教育目的・目標	3. 基本的事項 4. 自動車工業学科進路先一覧（平成 26 年度～平成 24 年度）
学習成果	10. 平成 26 年度 各種資格取得状況一覧
C 自己点検・評価	
過去 3 年間（平成 26 年度～平成 24 年度）に行った自己点検・評価に係る報告書等	5. 平成 23・24 年度 自己点検・評価報告書
第三者評価以外の外部評価についての印刷物	6. 平成 22 年度 広島国際学院大学自動車短期大学部と愛知工科大学自動車短期大学との相互評価に関する報告書
基準Ⅱ：教育課程と学生支援	
A 教育課程	
単位認定の状況表	7. 平成 26 年度 卒業者単位認定状況表 8. 平成 26 年度 卒業者の全成績一覧
学習成果を表す量的・質的データに関する印刷物	4. 自動車工業学科進路先一覧（平成 26 年度～平成 24 年度） 9. 2 級ガソリン自動車整備士・2 級ジーゼル自動車整備士合格率 10. 平成 26 年度 各種資格取得状況一覧 11. 学生支援の満足度についての調査結果 12. 卒業生の就労実態等に関する調査
B 学生支援	
進路一覧表等の実績についての印刷物（過去 3 年間）	4. 自動車工業学科進路先一覧（平成 26 年度～平成 24 年度）
入学手続き案内	13. 平成 27 年度 入学手続き案内
入学手続き案内（保護者向け）	14. 保護者のための大学入学ナビ
入学手続き案内（留学生向け）	15. 平成 27 年度 外国人留学生入学手続き案内
入学志願者に対する入学までの情報提供のための印刷物	16. 入学前添削指導資料(2014 年度入学生特別問題綴り)
学生の履修指導（ガイダンス、オリエンテーション）等に関する資料	17. 平成 26 年度 オリエンテーション／ガイダンス実施要領
学生支援のための学生の個人情報記録する様式	18. 学籍簿様式
GPA 等の成績分布	該当無し
学生による授業評価票及びその評価結果	19. 学生による授業評価アンケート様式 20. 学生による授業評価アンケート結果
卒業生アンケートの調査結果	21. 卒業生アンケートの調査結果「満足度調査」

報告書作成マニュアル記載の備付資料	資料番号・資料名
社会人受け入れについての印刷物等	22. 科目等履修生募集要項(社会人受け入れ)
海外留学希望者に向けた印刷物等	23. ソウル・アメリカ研修案内
FD 活動の記録	24. FD 活動 (平成 26 年度～平成 24 年度)
SD 活動の記録	25. SD 活動 (平成 26 年度～平成 24 年度)
職場体験実習報告	26. 職場体験実習報告
基準Ⅲ：教育資源と財的資源	
A 人的資源	
専任教員の個人調書 [書式 1・2]	27. 教員の個人調書
非常勤教員一覧表 [書式 3]	28. 非常勤教員一覧表
教員の研究活動について公表している印刷物等 (過去 3 年間)	29. 愛知工科大学紀要 30. 自動車整備技術に関する研究報告誌
専任教員の年齢構成表	31. 専任教員の年齢構成表
科学研究費補助金等、外部資金の獲得状況一覧表	32. 外部資金獲得状況一覧
研究紀要・論文集 (平成 26 年度～平成 24 年度)	29. 愛知工科大学紀要
教員以外の専任職員の一覧表	33. 教員以外の専任職員の一覧表
防災マニュアル	34. 防災マニュアル
防災カード	35. 防災カード
平成 26 年度組織図	36. 平成 26 年度 組織図
出勤簿	37. 出勤簿
B 物的資源	
校地、校舎に関する図面	38. 校地、校舎に関する図面
図書館、学習資源センターの概要	39. 図書館の概要 (学習資源センター:無)
防災マニュアル	34. 防災マニュアル
防災カード	35. 防災カード
C 技術的資源	
学内 LAN の敷設状況	40. 愛知工科大学ネットワーク概要
	41. キャンパスネットワーク概略図
	42. ネットワーク機器一覧
マルチメディア教室、コンピュータ教室等の配置状況	43. マルチメディア教室、コンピュータ教室等の配置図
D 財的資源	
寄附金・学校債の募集についての印刷物等	該当冊子なし
財産目録及び計算書類 (平成 26 年度～平成 24 年度)	44. 財産目録及び計算書類 (平成 26 年度～平成 24 年度)
中期目標・計画	45. 中期目標・計画
基準Ⅳ：リーダーシップとガバナンス	
A 理事長のリーダーシップ	
理事長の履歴書 (平成 27 年 5 月 1 日現在)	46. 理事長の履歴書
学校法人実態調査表 (写し) (平成 26 年度～平成 24 年度)	47. 学校法人実態調査表
理事会議事録 (平成 26 年度～平成 24 年度)	48. 理事会議事録

報告書作成マニュアル記載の備付資料	資料番号・資料名
<p>諸規程集 1</p> <p>1. 委員会等 運営委員会規程、学長・校長会規程、各種委員会規程、教務委員会規程、就職委員会規程、広報委員会規程、グローバル展開推進委員会規程、評価制度委員会規程、事務委員会規程、卒業生ネットワーク委員会規程、予算委員会規程、将来構想委員会規程</p> <p>2. 組織 組織規程</p> <p>3. 総務 文書・表簿取扱規程、公印取扱規程、財務情報開示取扱規程、個人情報保護規程</p> <p>4. 人事・給与・服務 就業規則、給与規程、給与規程施行規則、自動車通勤に関する規程、賞与に関する細則、出張規程、災害補償規程、退職規程、定年規程、退職手当支給規程、慶弔規程、表彰規程、懲戒規程、懲戒委員会規程、当直規程、職員の勤務成績の評価に関する規程、育児・介護休業規程、嘱託職員に関する就業規程、出向規程、姉妹学園異動規程、職員外国出張規程、年次有給休暇積立規程、衛生管理規程、早期退職優遇制度運用規程、役職定年制度規程、PT・PS 制度規程、役員退職慰労金支給規程、役員報酬規程、理事会業務規則、監事監査規則、常務理事会規則、学長・副学長、学部長選考規程、</p> <p>5. 財務 経理規程、寄付金等取扱規程、施設貸与規程、資産運用規程、内部監査規程、奨学金(恒学基金)規程、奨学金(恒学基金)規程施行規則、留学生特別優遇制度規程、外国人留学生ありがとう奨学生規程、経理事務施行細則</p>	<p>49. 学校法人電波学園諸規程集</p>

報告書作成マニュアル記載の備付資料	資料番号・資料名
<p>諸規程集 2</p> <p>1. 学則関係 学則、学位規程</p> <p>2. 委員会等 総合企画会議規程、委員会規程、入試センター試験実施委員会規程、衛生委員会規程、紀要編集委員会規程、防災対策委員会規程、教授会規程、自己点検・評価委員会規程、教務委員会規程、資格取得指導委員会規程、学生生活指導委員会規程、入試・広報委員会規程、FD 委員会規程、図書委員会規程、個人情報保護委員会規程、知的財産委員会規程、教授会審議事項に係る細則</p> <p>3. 事務組織 事務組織規程、事務分掌規程、評価企画IR 室規程</p> <p>4. 総務 衛生管理規程、文書保存細則、文書取扱細則、公印細則、文書決裁規程、学内規則等の制定に関する規程、学章規程、学旗（式典旗）に関する規程、学章、学旗、スクールカラー、ロゴマークの使用に関する要領、自己点検評価に関する規程、個人情報保護に関する規程、保有個人情報管理規程、公開講座規程</p> <p>5. 人事・サービス 学科長選考規程、教育職員任用及び昇任規程、フェロー制度に関する実施要項、名誉教授称号授与規程、教員選考基準、益通報者保護規程、教職員の兼業及び兼職に関する規程、大学・短期大学の教育職員の勤務に関する規程（学園規程）、大学の教員の授業担当時間数に関する細則（学園規程）ハラスメントの防止・対策等に関する規程（学園規程）、セクシュアル・ハラスメントの防止等のために教職員及び学生等が認識すべき事項についての指針、アカデミック・ハラスメントの防止等のために教職員が認識すべき事項についての指針、講演会の事務に関する申し合わせ、職員研修規程、副学長の設置に伴う公務分掌要項</p>	<p>50. 愛知工科大学自動車短期大学諸規程集</p>

報告書作成マニュアル記載の備付資料	資料番号・資料名
<p>6. 経理・建物施設 授業料等納入に関する規程、校舎等施設の貸与規程、学園設置校出身者の入学諸経費減額に関する規程（学園規程）、学校法人愛知産業大学出身者の入学諸経費減額に関する規程（学園規程）、電波学園職員子女に対する奨学金規程（学園規程）、外国人留学生学納金等取扱規程（学園規程）、職務発明等規程、毒物及び劇物管理要領、危機管理規程、危機管理指針、防災管理規程、防火管理規程</p> <p>7. 教務 授業科目の履修に関する規程、試験及び成績評価に関する規程、定期試験等における不正行為に関する取扱要項、入学前の既修得単位等の認定等に関する規程、他の大学等における授業科目の履修等に関する規程、他の大学等において修得した単位の認定に関する規程、編入学、再入学及び転入学に関する規程、科目等履修生規程、特別聴講生規程、研究生規程、外国人留学生規程、長期にわたる教育課程の履修に関する規程、卒業延期制度に関する規程、授業料等未納者に係る復籍の取扱いに関する規程、社会貢献活動（ボランティア活動）に関する規程、授業科目の履修に関する規程第 16 条に定める留年者に関する申し合わせ、「短期大外又は大学以外の教育施設等における学修」の単位認定に関する規程、社会的・職業的自立に関する指導等取り扱い要項、GPA 制度取扱い要項、成績不振等の学生対応に関する取扱い要項、履修登録単位数の上限設定に関する申し合わせ</p> <p>8. 学生生活 学生規程、授業料の免除に関する規程、授業料の免除に関する選考基準、学生表彰規程、学生表彰に関する取扱要領、ファミリー奨学金規程、教育ローン利子補給奨学金事務取扱規程、体育施設等使用規程、課外活動団体規程、学生相談室規程、保健室規程、学修奨学金規程、学生懲戒規程、学生懲戒等指針、学生寮規程、学生の自動車等通学に関する規程、保健室利用規程、在学生弔慰規程、国民年金学生納付特例の申請に関する事務取扱規程、課外活動クラブ部室利用規程、私費外国人留学生授業料減免に関する規程</p>	

報告書作成マニュアル記載の備付資料	資料番号・資料名
<p>9. 教育研究 電波学園大学教員研究費規程（学園規程）、電波学園大学教育改革・プロジェクト教育研究経費規程（学園規程）、電波学園大学教員研究旅費規程（学園規程）、共同研究取扱規程、インターネット利用規程、ネットワークシステム利用規程、研究助成金使用に関する取扱規程、研究上の不正行為に関する取扱規程、研究倫理規程、講演会開催要項、研究費の管理・監査に関する規程</p> <p>10. 図書館 図書館規程、図書館利用規程、紀要規程、紀要投稿細則、関係資料・保存規程、図書館図書管理細則、図書館図書の不用決定及び除籍に関する処理要領、図書館寄贈図書資料受入要項、図書館逐次刊行物の保存及び廃棄に関する申し合わせ、寄贈資料の資産評価額基準</p> <p>11. 入 試 入学者選考規程</p>	
B 学長のリーダーシップ	
学長の個人調書〔書式1〕（平成27年5月1日現在）	51. 教員個人調書(学長)
教授会議事録（平成26年度～平成24年度）	52. 教授会議事録
委員会等の議事録	53. 委員会等の議事録
C ガバナンス	
監事の監査状況(平成26年度～平成24年度)	54. 監事の監査状況
評議員会議事録(平成26年度～平成24年度)	55. 評議員会議事録
	56. 「Koka TIMES」平成26年10月1日 第14号
選択的評価基準	
地域貢献の取り組みについて	該当無し

[注]

- 「(1) 記述の根拠となる資料等一覧」記載の資料を準備し、提出資料、備付資料それぞれ一覧表を作成する。
- 一覧表の「資料番号・資料名」には、提出資料、備付資料それぞれに付した通し番号及び資料名（評価校独自の名称等）を記載する。
- 準備できない資料（例えば、取り組み自体を行っていない場合等）については、「該当なし」と記載する。
- 提出資料、備付資料をウェブサイトで公表している場合、一覧表の「資料番号・資料名」には URL も記載する。

- 準備する資料は、特に指定がなければ自己点検・評価を行う平成 26 年度のものとする。ただし、第三者評価を受ける平成 27 年度に学科改組等で大幅な変更があった場合、平成 27 年度のを備付資料として準備する。
- 「過去 3 年」・「過去 5 年」の指定がある場合、自己点検・評価を行う平成 26 年度を起点として過去 3 年間・過去 5 年間とする。

【基準Ⅰ 建学の精神と教育の効果】

■ 基準Ⅰの自己点検・評価の概要

本学の建学の精神は、「社会から喜ばれる知識と技術を持ち歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し英知と勤勉な国民性を高め科学技術、文化の発展に貢献する」である。即ち、社会から喜ばれる知識と技術を持ち、特定の主義主張や思想に偏向することなく、健全で中正な社会観と堅実な人生観を持ち合わせ、周囲から愛され、信頼される人材の育成を教育の原点としている。この精神を根本として、教育目標や目的についての見直しを教授会で行い、平成 19 年度に、建学の精神に基づいた教育指針を検討し「心を磨き、技を極め、夢に挑む」とした。

学習成果は、自動車整備技術の修得に集約されるため、国家資格の二級自動車整備士資格の取得としている。また、「就職実績」・「進学実績」、「各種資格取得実績」等も学習成果としている。学習成果の査定は自動車整備士登録試験合格率、進路決定率等から量的・質的に行っている。

建学の精神の「歓迎される人柄を兼ね備えた人材」についての学習成果の査定は平成 26 年度から「ふりかえりシート」（アンケート調査）で行うこととした。

建学の精神に基づいた教育の効果を高めるため、オリエンテーション、ガイダンスを通して、教育指針、教育目標の周知徹底を図っている。建学の精神は、学内外に表明し、学内では、様々な方法で学生に周知しているが、どの程度、学生が認識し、定着しているかは把握しておらず、アンケート調査の実施などで数値的データの収集が必要である。平成 27 年度内に「建学の精神」に関するアンケート調査を実施し、数値的データの収集をし、その結果を基に周知方法等の検討を計画している。

本学は、高等教育機関として、教育の継続的な質の保証を図り、社会的に魅力ある短期大学であり続けるために、自己点検・評価委員会及び評価企画 IR 室を設置し積極的に改善活動に取り組んでいる。学則第 1 条の 4 に自己点検・評価の条文を明記し、そのもとに自己点検・評価委員会規程等を定め、学長、学科長など、大学の管理運営責任者が自己点検・評価に率先して関わり、AL0 の任務を支援し、その体制を構築している。平成 20 年度の一般財団法人短期大学基準協会の第三者評価受審後は、2 か年毎に自己点検・評価報告書を作成し、関係機関に送付すると共にホームページにも公開している。さらに、教育内容が類似する高等教育機関との相互評価も実施し、得られた改善項目も含めた継続的な改善活動に取り組んでいる。

[テーマ 基準 I -A 建学の精神]

[区分 基準 I -A-1 建学の精神が確立している。]

■ 基準 I -A-1 の自己点検・評価

(a) 現状

学園建学の精神

社会から喜ばれる知識と技術をもち
 歓迎される人柄を兼ね備えた
 人材を育成し英知と勤勉な
 国民性を高め科学技術、文化
 の発展に貢献する

本学は、この「学園建学の精神」を学則第 1 条に示し、将来の我が国の産業界において技術開発の原動力となるべき実践的中堅技術者の育成を通して地域社会の産業発展に寄与することを教育理念としている。「建学の精神」は、「学生便覧」【提出資料 1】及び各種印刷物冊子で公表し、さらにホームページの「大学概要」【提出資料 2】サイトで公開している。また、キャンパス内建物全室に、額装した学園建学の精神を掲げている。「建学の精神」については、入学式、卒業証書・学位記授与式における告辞、式辞において学長から、新入生オリエンテーション、年度当初の在学生ガイダンスにおいて学科長から訓示の中で周知している。また、「建学の精神」は教授会で毎年度末に確認している。

(b) 課題

建学の精神は、学内外に表明し、学内では機会がある度に学生に周知しているが、どの程度学生が認識し、定着しているかは把握しておらず、アンケート調査の実施などで数値的データの収集が必要である。

■ テーマ 基準 I -A 建学の精神の改善計画

平成 27 年度内に「建学の精神」に関するアンケート調査を実施し、数値的データの収集をし、その結果を基に周知方法等の検討を計画している。

◆参考資料

資料名	資料番号
・学生便覧 2014	【提 1】
・ウェブサイト「大学概要」 http://www.aut.ac.jp/	【提 2】
・学園 50 年史	【備 1】
・愛知工科大学自動車短期大学創立 25 周年記念誌	【備 2】
・愛知工科大学自動車短期大学基本的事項	【備 3】

[テーマ 基準 I-B 教育の効果]

[区分 基準 I-B-1 教育目的・目標が確立している。]

■ 基準 I-B-1 の自己点検・評価

(a) 現状

教育目的等を「学園建学の精神」に基づき、学則第 1 条、第 1 条の 2 及び第 1 条の 3 に下記のとおり定めている。

愛知工科大学自動車短期大学学則
<p>(目的)</p> <p>第 1 条 愛知工科大学自動車短期大学（以下「本学」という。）は、教育基本法及び学校教育法に基づき、一般教養ならびに産業技術に関する研究と実務的指導を行い、社会から喜ばれる知識技能と歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、もって地域社会の産業発展に寄与することを目的とする。</p>
<p>(使命)</p> <p>第 1 条の 2 本学は、学園建学の精神に則り、未来を創る夢に挑み、夢の実現によって社会に貢献することを使命とする。</p>
<p>(教育研究上の目的)</p> <p>第 1 条の 3 本学は、国土交通省の定める設置基準を満たした自動車に関する学科を有する認定大学として「二級自動車整備士」の国家資格の取得を通して、自動車工学や自動車整備に関係する知識・技術を修得し、専門的知見と併せて日々進化する自動車技術に対応できる応用実践力を持った技術職業人の養成を目的とする。</p>

また、教育目標を学生便覧【提出資料 1】等下記のとおり定めている。

愛知工科大学自動車短期大学の教育目標
<p>愛知工科大学自動車短期大学は、より複雑化、高度化する自動車技術社会において「二級自動車整備士の資格を有し、確かな基礎能力と幅広い教養を持ち、多様な業種に対応できる人材の養成」を行うため、次のことを目標に人材を養成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 国家資格を有する二級自動車整備士を養成する。 2. 社会に柔軟に対応できる幅広い視野と実践力ある心豊かな人材を養成する。 3. 高度に進化を続けるカーテクノロジーをより深く探求し、高機能化、複雑化する自動車整備技術に対応できる人材を養成する。 4. 大学 3 年次編入に対応できる将来の進路に併せた教育を行う。

本学の教育目的・目標は自動車整備技術の修得であり国家資格の二級自動車整備士資格取得、一級自動車整備士資格取得を目指す進学等、自動車整備に特化した学習成果を明確に示している。

本学の教育目的・目標を学内では学生便覧により、学外へは本学ホームページ、大学案内を通して表明している。

(b) 課題

本学の教育目的・目標を平成26年5月の教授会で点検したが、今後も定期的に点検し、時代の趨勢や社会情勢の変化によって見直しを行う必要がある。

[区分 基準 I-B-2 学習成果を定めている。]

■ 基準 I-B-2 の自己点検・評価

(a) 現状

本学の学習成果は、教育目標の大項目である二級自動車整備士資格の取得率としてしている。また、「就職実績」・「進学実績」【備付資料4】及び「各種資格取得実績」【備付資料10】等も学習成果として定め、毎年定期的に点検評価するとともに、ホームページ、大学案内【提出資料3】等で公表している。

(b) 課題

建学の精神の「社会から喜ばれる知識と技術をもち」についての学習成果は、「二級自動車整備士資格の取得率」、「就職実績」・「進学実績」及び「各種資格取得実績」と定めており、量的・質的データとして測定可能にしているが、「歓迎される人柄を兼ね備えた人材」についての学習成果の測定については、平成26年度から「ふりかえりシート（アンケート調査）」【提出資料4】で行い始めたところである。「英知と勤勉な国民性を高め科学技術、文化の発展に貢献する」についての学習成果を測定する仕組みについては確立されておらず、検討する必要がある。

[区分 基準 I-B-3 教育の質を保証している。]

■ 基準 I-B-3 の自己点検・評価

(a) 現状

本学は、学則第1条に「教育基本法及び学校教育法に基づき、一般教養ならびに産業技術に関する研究と実務的指導を行い、社会から喜ばれる知識技能と歓迎される人柄を兼ね備えた人材を育成し、もって、地域社会の産業発展に寄与することを目的とする」と目的を規定し、第1条の3には「国土交通省の定める設置基準を満たした自動車に関する学科を有する認定大学として「二級自動車整備士」の国家資格の取得を通して、自動車工学や自動車整備に関する知識・技術を修得し、専門的知見と併せて日々進化する自動車技術に対応できる応用実践力を持った技術職業人の養成を目的とする」と教育研究上の目的を規定している。文部科学省、国土交通省の定める関係法令を順守し、関係法令の変更等にあっては、その都度、学内規程等の一部改正を行い法令順守に努め授業運営に支障のないようにしている。また、第1条の4には「教育研究水準の向上を図り、その目的及び社会的使命を達成するため、教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。」と規定し、教育研究

水準の向上に取り組んでいる。

平成 14 年度から「授業評価アンケート」を全教員対象に、前期 1 回・後期 1 回の年 2 回実施している。この「授業評価アンケート」をもとに担当教員は、授業内容や指導方法についての改善を行っている。

平成 21 年度から 3 年間、教員個人の授業改善活動として「授業の自己点検」を行った。この活動の目的は「自分の授業をビデオ撮影後、自己点検し、授業改善に役立てる」ことであり、各年度 2 回合計 6 回の「授業の自己点検」活動を行った。授業の自己点検報告書には「話すスピードが少し速いと思われる」、「説明がややくどいことがわかった」、「板書の整理が悪い」、「名称をはっきり言わず、これが、ここが等の表現が多いことがわかった」等々の改善点がわかり一定の成果があった。

成績評価は、「学生便覧」のシラバスに明記している各科目の「成績評価方法」に基づいて行われている。学生にとって予め明確な目標設定がなされており、各科目での学習に対して目的意識を持って取り組めるため、一定の教育水準を担保することも可能となっている。

各委員会において、計画される事項は常に PDCA 活動に沿った取り組みをしている。教育の向上・充実のために、毎年開講科目の見直し、シラバスの見直し、授業方法の見直し等を行って、教育の質の保証に取り組んでいる。

(b) 課題

学習成果を焦点とする査定の手法を構築し、学習成果を査定し始めたところであり、PDCA サイクルを働かせ、さらなる教育の質の向上と充実を目指す必要がある。

■ テーマ 基準 I・B 教育の効果の改善計画

教育目的・目標を平成 26 年 5 月の教授会で点検したが、今後も定期的に点検し、時代の趨勢や社会情勢の変化によって見直しを行う。平成 26 年度は「歓迎される人柄を兼ね備えた人材」についての学習成果の測定方法を確立し実行したところである。平成 27 年度から教員個人の PDCA サイクルを働かせて、教育の質の向上と充実をさらに目指していく予定である。

◆ 参考資料

資料名	資料番号
・ 学生便覧 2014	【提 1】
・ 2015 大学案内	【提 3】
・ 成長ふりかえりシート	【提 4】
・ 愛知工科大学自動車短期大学基本的事項	【備 3】
・ 平成 26 年度 自動車工業学科進路先一覧（平成 26 年度～平成 24 年度）	【備 4】
・ 平成 26 年度 各種資格取得状況一覧	【備 10】

[テーマ 基準 I-C 自己点検・評価]

[区分 基準 I-C-1 自己点検・評価活動等の実施体制が確立し、向上・充実に向けて努力している。]

■ 基準 I-C-1 の自己点検・評価

(a) 現状

本学における自己点検・評価については、学則第 1 条の 4 に自己点検・評価の条文「本学は、教育研究水準の向上を図り、その目的及び使命を達成するため、教育研究活動等の状況について、自ら点検及び評価を行い、その結果を公表する。」と明記し、関係する規程及び組織を整備して活動に取り組んでいる。現在に至る経緯は、平成 12 年度に短期大学および同一敷地内に併設された愛知工科大学工学部との合同の自己点検・評価委員会が設置されたことに始まる。その後、平成 16 年度からの認証評価制度の導入に伴い、工学部と分離した短期大学独自の常設委員会として自己点検・評価委員会を設置し、平成 17 年度に自己点検・評価委員会規程【提出資料 5】を制定している。当委員会は、学長直轄の教授会に次ぐ重要な運営組織として位置づけている。また、下部組織として学科長がチームリーダーとなる推進チームを設置し、自己点検・評価報告書の作成及び資料収集に当たっている。

自己点検・評価の活動報告は、自己点検・評価委員会が統括し、評価企画 IR 室規程【提出資料 6】に基づき、関連する資料作成や保冊等は、学科長補佐 (ALO 兼務) が室長となる短期大学評価企画 IR 室が行い、2 か年をセットにして自己点検・評価報告書【備付資料 5】に纏め、学内教職員や関係機関に送付すると共にホームページにも公開して、更なる改善への助言を得るようにしている。平成 20 年度には第三者評価として、短期大学基準協会より「適格」の認定を受け、平成 22 年度には広島国際学院大学自動車短期大学部との相互評価【備付資料 6】を実施してその結果を公表している。

また、教育職員が教育の質的向上を図るための FD 委員会を設置して組織的な活動を推進している。年間に数回開催する FD 研修会や併設の愛知工科大学との FD セミナーによる教育技法の改善に取り組んでいる。また、「学生による授業評価」は次年度のシラバスや授業の取り組みに反映されている。また、2 か年間の教育に対する「満足度調査」は、次年度以降の教育環境等の改善策の策定に活用されている。加えて、本学の教育の特長の一つであるクラス担任制によるクラス運営である。これらの取り組みは、図 I-C-1 に示す教育の向上・充実のための PDCA サイクルとして、各部署が自己点検・評価活動に組織的かつ日常的に参画することで、改革・改善活動の重要性を共通認識することに繋がり、点検・評価の成果は翌年度や中期計画などに反映されている。

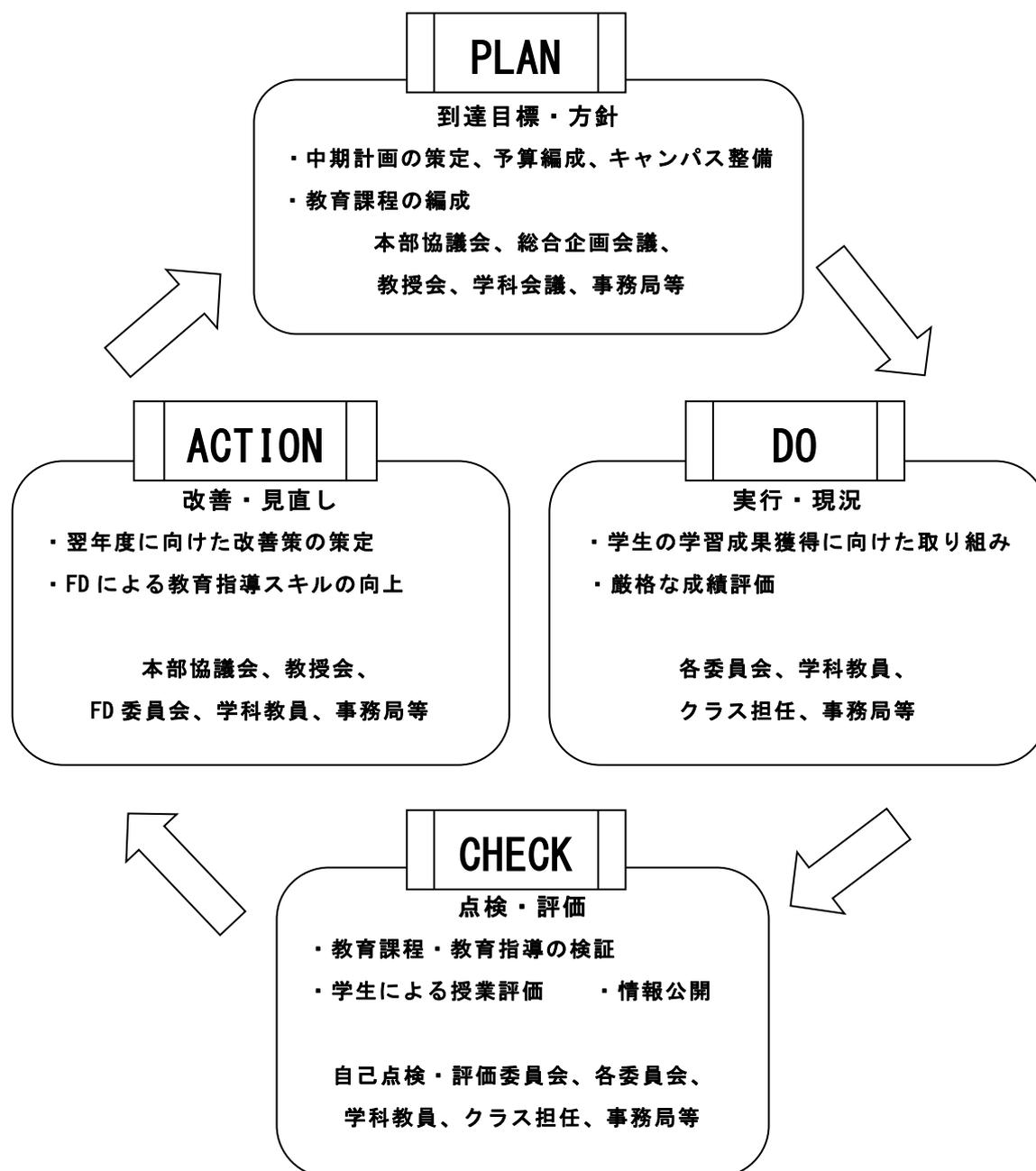


図 I-C-1 教育の向上・充実のための PDCA サイクル

(b) 課題

これまでの点検・評価活動は、常設する他の委員会毎の目標達成における点検活動が中心となっているため、評価から改善に至る PDCA 活動に沿った改善活動に連動するようにして、自己点検・評価活動をさらに充実させる必要がある。

■ テーマ 基準 I-C 自己点検・評価の改善計画

自己点検・評価に基づく改善計画は、平成22年度に策定した中期目標に対して具体的な方策を立て、それらについての点検・評価を通して、年度毎の改善活動に取り組んでいるが、各委員会が取り組む自己点検・評価の成果をさらに活用すると共に、今回の第三者評価受審を通して得られる評価・改善項目も含めた本学中期目標の見直しと将来に向けた中期計画を立案していく予定である。また、教員個人の資質向上を図るための活動に取り組む予定である。

◆参考資料

資料名	資料番号
・「愛知工科大学自動車短期大学自己点検・評価委員会規程」	【提 5】
・「愛知工科大学自動車短期大学評価企画 IR 室規程」	【提 6】
・平成 23・24 年度 自己点検・評価報告書	【備 5】
・平成 22 年度 広島国際学院大学自動車短期大学部と 愛知工科大学自動車短期大学との相互評価に関する報告書	【備 6】

■ 基準 I 建学の精神と教育の効果の行動計画

「建学の精神」における「歓迎される人柄を兼ね備えた人材」については、平成 26 年度から学習成果の測定方法を確立し実行しているところであるが、平成 27 年度に「建学の精神」の理解度に関するアンケート調査を通して、数値的データの収集をし、その結果を基に周知方法等の改善を検討したい。また、教育目的・目標を平成 26 年 5 月の教授会で点検しているが、今後も定期的に点検し、時代の趨勢や社会情勢の変化によって見直しを行いたい。さらには、常設する他の委員会の目標達成に向けた改善活動に連動するようにして、自己点検・評価活動を充実させるとともに、教員個人の教育指導改善に取り組み、教育の質の向上を目指したい。

◇ 基準 I についての特記事項

(1) 以上の基準以外に建学の精神と教育の効果について努力している事項。

- ・ 学生が学習環境に適応し、スムーズな修学ができるよう、学生の相談相手となって勉学・学生生活など必要な指導・助言を与えるために 2 年間一貫してクラス担任制（1 学年 4 クラス、1 クラス約 40 名）を設けている。クラス担任は、入学早々にクラス学生全員と個人面談を実施し学生個々の性格、入学の動機、勉学意欲、基礎的能力、将来の希望等を早期に掌握し、修学、学生生活、進路など様々な相談相手となっている。また、必要に応じて学科教員との情報を交換することで、教育の効果の向上に繋げている。
- ・ 全クラスに学級日誌があり、毎日その日の授業科目、授業内容、反省事項、所感などを当番制で記入させクラス担任が学生の意見等を汲み上げている。また、記入した学生の意見等に関して、クラス担任がコメントを記入すると同時

に、必要に応じて対応している。

- ・ 保護者からの意見を汲み上げる目的で、開学以来、毎年、本学及び地方 15 会場において「教育懇談会」を開催している。平成 26 年度に実施した地方 15 会場は、岐阜県（郡上市、高山市）、滋賀県（長浜市）、富山県（富山市）、沖縄県（石垣市、宮古島市、那覇市）、三重県（熊野市、伊勢市）、長野県（松本市、飯田市）、石川県（金沢市）、福井県（福井市）、静岡県（静岡市、浜松市）である。

懇談会における保護者との面談では、学業に関すること、進路に関すること、学生生活に関する事など保護者からの意見をお聞きしている。また、教員、学生、保護者による三者一体で、本学へ入学した学生の目的意識の再確認、やる気の誘発ばかりでなく、潜んでいる悩みごとの相談などもあり、学習及び学生生活支援に大いに役立てている。教育懇談会への参加者は毎年概ね 60～70% で推移している。過去 5 か年の参加状況を表 I-1 に示す。

表 I-1 教育懇談会参加状況表（人）

項目\年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
在籍数	288	282	248	257	287
本学会場参加数	164	178	131	149	169
地方会場参加数	19	20	14	32	30
参加者合計	183	198	145	181	199
参加率	63.5%	70.2%	58.5%	70.4%	69.3%

- (2) 特別の事由や事情があり、以上の基準の求めることが実現（達成）できない事項。

特になし

【基準Ⅱ 教育課程と学生支援】**■ 基準Ⅱの自己点検・評価の概要**

学位授与の方針は、学則第 26 条に「卒業の要件」及び第 27 条に「卒業及び学位授与」を明示し、卒業に必要な必修科目 60 単位及び選択科目から 8 単位以上を修得した者に対して、短期大学士（自動車工学）の学位を授与している。

入学者受け入れ方針は、オープンキャンパス、進学相談会、高校訪問等を通じて、高校教員、受験生や保護者に説明を行い、また大学案内、学生募集要項、本学ホームページで示している。

学習成果は、自動車整備技術の修得であり国家資格の二級自動車整備士資格取得である。学習成果の評価は、自動車整備士登録試験合格率、進路（就職・進学）決定率、各種資格取得率等から行っている。

平成 18 年度から平成 22 年度までの 5 年間の卒業生を採用した企業 136 社に対して、卒業生の就労実態調査を平成 23 年 4 月に実施し、67 社から回答を得ている。

就職支援は、学生生活指導委員会とキャリア支援課及びクラス担任が緊密に連携をとりながら協力して行っている。キャリアセンターには、キャリア支援課の事務職員 4 名が常駐し、求人開拓、企業との情報交換及び連絡、学生と企業との仲介、会社案内・求人票等の整理・閲覧などの他、資格取得や就職試験対策の支援も行っている。キャリアセンターには 6 台の学生用パソコンが設置されており、大学求人 NAVI により求人情報を検索・閲覧できるようになっている。また、本学には自動車整備関連業界の 126 社が加盟する「愛知工科大学技術後援会（愛技会）」（事務局はキャリア支援課）があり、学生の就職支援（CS 講座等の講師派遣、最新の車両を用いた技術講習会、学内企業説明会の実施）や教育・研究活動の支援（ソーラーカーレース参戦の支援、ウェブ教材「コーカくん」開発の支援）を行っている。

就職内定率は、年度で大きく変化することなく、平成 24 年度 98.9%、平成 25 年度 95.1%、平成 26 年度 99.0%と高く、特別な事情のある学生を除いて、ほぼ満足できる結果となっている。

進学支援は、愛知工科大学工学部（含：一級自動車整備士養成課程）及び他大学への 3 年次編入学希望者に対して、クラス担任を中心に愛知工科大学総合教育センターの協力も受けながら指導にあたっている。進学希望者は、平成 24 年度、平成 25 年度及び平成 26 年度のいずれにおいても 100%の進学決定率であり、学生の希望に応えた結果となっている。

日進月歩する自動車技術に対応した人材を育成するためには、建学の精神に沿った学位授与の方針の見直し、カリキュラムの改編を踏まえた授業内容の精査やさらなる見直し、教員のスキルアップと実習教材等の充実に対する継続的な取り組みが不可欠である。また、定員充足のための PR 方法、入学者受け入れ方針等の見直しが必要である。

企業の求める人材の資質が高くなっていることを踏まえ、社会に送り出す最終の教育機関として、技術のみならず人間力の向上に努める必要がある。この点については、平成 25 年度から夏休みを利用して内定先企業で職場体験実習を実施している。

[テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程]

[区分 基準Ⅱ-A-1 学位授与の方針を明確に示している。]

■ 基準Ⅱ-A-1 の自己点検・評価

(a) 現状

学位授与の方針は、学則第 26 条「卒業の要件」および第 27 条「卒業及び学位授与」を明示し、授業科目の履修に関する規程第 5 条「卒業要件単位数」の中で卒業に必要な必修科目 60 単位及び選択科目から 8 単位以上、合わせて 68 単位以上を修得した者に対して、短期大学士（自動車工学）の学位を授与している。また、成績評価においては、試験及び成績評価に関する規程第 13 条「成績区分」を明示している。情報の公開においては、本学ホームページ内の「在学生の方へ」の中に学則や規程を載せ、学位認定の基準を公開するとともに学生便覧に掲載し学生へ周知している。

学則第 27 条を具体化するためのディプロマ・ポリシーとして、次のような到達目標を掲げ卒業の認定および学位記を授与している。

学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

愛知工科大学自動車短期大学は、次のような到達目標を掲げ卒業の認定及び学位記を授与します。

1. 自動車整備士として活躍するために必要な知識・技術を修得している。
2. 健全で中正な社会観と堅実な人生観を持った、周囲から愛され、信頼される素養を身につけている。
3. 円滑な人間関係が築けるコミュニケーション能力を有し、社会人として地域社会に貢献できる。

これらの目標の達成度を向上するために、平成 25 年度より 2 年次において、夏期休暇期間中に就職内定企業へのインターンシップを実施している。

学習成果の一つは、二級自動車整備士（二級ガソリン自動車、二級ジーゼル自動車）の国家資格の取得にあるため、毎年、二級自動車整備士合格率の状況（表Ⅱ-A-9、10）でその達成度を把握している。

(b) 課題

学位授与の方針は、時代の趨勢と社会からの要望に合わせて検討していく必要がある。

[区分 基準Ⅱ-A-2 教育課程編成・実施の方針を明確に示している。]

■ 基準Ⅱ-A-2 の自己点検・評価

(a) 現状

本学に 2 年以上在学し、カリキュラムに基づいて教育を受け、基礎・教養科目及び

専門科目の必修科目 60 単位、選択科目から 8 単位以上と合わせて 68 単位以上修得し、さらに選択科目 8 単位以上は、基礎・教養科目から 2 単位以上、専門科目から 4 単位以上修得した者に対して、短期大学士（自動車工学）の学位を授与している。教育課程は卒業の要件、卒業及び学位授与を学則第 26 条及び第 27 条に明記し、学位授与の方針に対応している。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）を次のように定め、表Ⅱ-A-1 のように「基礎・教養科目」及び「専門科目」で構成している。その教育課程一覧を表Ⅱ-A-2 に示す。授業科目は基礎的な内容から始まり専門、応用的な内容になるように編成されている。また、各科目間の関連性を意識して学べるように、学生便覧において学年別・科目別履修系統図（表Ⅱ-A-3）を掲載している。教育科目の成績評価については、シラバスで明確にその方法を示し、教育の質の保証に向けて厳格に適用している。

教育課程の編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

自動車の基本的な構造や装置について学び、段階的に各装置の結びつきを理解することで、自動車全体をシステムとして捉えられるように、次のことを意図してカリキュラム（教育課程）を編成しています。

1. 理論学習と実験・実習を繰り返し行う独自の教育システムにより、基礎知識から実践技術までを効率的に修得します。
2. CS 講義やセミナーなどを通してコミュニケーション能力を身につけることにより、豊かな人間性を育成します。
3. インテリジェント化の進む自動車に欠かせないカーエレクトロニクスや自動車の設計・製造に関わる CAD システム、機械工作法など多彩な選択科目を用意し、広く自動車産業界で活躍できる技術職業人になるための学習を支援します。
4. 進学意欲のある学生には、愛知工科大学工学部の 1 級自動車整備士養成課程への 3 年次編入学を支援します。

表Ⅱ-A-1 授業科目の基本構成

基礎・教養科目	基礎・教養科目では、人文、社会、自然科学などの科目を学習し、人間形成に活かす。また、科学技術英語を必要とする取扱い説明書、インターネット英語などに活用できるよう基礎的な英語を学習する。さらに、スポーツ科学、健康及び現代社会の健康問題をさまざまな事例を通して学習する。
専門科目	専門科目は、自動車工学・自動車整備に関係する分野・領域及びそれらと深く関係する工学分野を学習する。

表Ⅱ-A-2 自動車工業学科 教育課程一覧 (平成26年度)

科目の 種別	授業科目名	配当 年次	授業形態				単位	
			講義	演習	実習	実技	必修	選択
基礎 ・ 教 養 科 目	数学Ⅰ	1	○				2	
	就職対策講座	1	○				2	
	法学	2	○				2	
	文章表現法	1	○					2
	物理学	1	○					2
	数学Ⅱ	2	○					2
	ファイナンシャル・マネジメント	2	○					2
	英語Ⅰ	1	○					2
	英語Ⅱ	1	○					2
	体育実技	1				○	1	
	保健体育講義	1	○					2
専 門 科 目	工学基礎	1	○				2	
	自動車工学概論	1	○				2	
	ガソリン・エンジン工学	1	○				2	
	自動車シャシⅠ	1	○				2	
	自動車電気基礎	1	○				2	
	自動車電装Ⅰ	1	○				2	
	機械製図	1	○			○	1	
	ジーゼル・エンジン工学	1	○				2	
	自動車シャシⅡ	1	○				2	
	自動車電装Ⅱ	1	○				2	
	ガソリン・エンジン整備	2	○				2	
	シャシ整備Ⅰ	2	○				2	
	自動車材料	2	○				2	
	自動車法規	2	○				2	
	故障探究法	2	○				2	
	ジーゼル・エンジン整備	2	○				2	
	シャシ整備Ⅱ	2	○				2	
	自動車検査	2	○				2	
	自動車工学実習Ⅰ	1			○		5	
	自動車工学実習Ⅱ	1			○		4	
	自動車工学実習Ⅲ	2			○		5	
	自動車工学実習Ⅳ	2			○		4	
	パソコン演習Ⅰ	1		○				1
	パソコン演習Ⅱ	1		○				1
	CADシステム	1	○			○		1
	販売管理	1	○					2
	カーエレクトロニクス	2	○					2
	熱力学	2	○					2
	機械運動学	2	○					2
	自動車整備士対策講座	2		○				1
流体工学	2	○					2	
材料力学	2	○					2	
機械工作法	2	○					2	
ハイブリッドカー	2	○					2	
OMS	2		○				1	

表Ⅱ-A-3 自動車工業学科 学年別・科目別履修系統図

科目間の関連性<平成26年度生>

1年前期		1年後期		2年前期		2年後期	
学科名	自動車工学実習Ⅰ ○前期5日間 □後期6日間	学科名	自動車工学実習Ⅱ 9日間	学科名	自動車工学実習Ⅲ ○前期5日間 □後期6日間	学科名	自動車工学実習Ⅳ 9日間
専門科目	必・自動車シャシⅠ	必・自動車シャシⅡ	必・自動車シャシⅡ	必・シャシ整備Ⅰ	必・シャシ整備Ⅱ	必・シャシ整備Ⅱ	必・シャシ整備Ⅱ
	必・自動車工学概論	必・自動車電装Ⅱ	必・自動車電装Ⅱ	必・自動車材料	必・ジーゼル・エンジン整備	必・ジーゼル・エンジン整備	必・ジーゼル・エンジン整備
	必・ガソリン・エンジン工学	必・自動車電装Ⅱ	必・自動車電装Ⅱ	必・ガソリン・エンジン整備	必・自動車検査	必・自動車検査	必・自動車検査
	必・自動車電気基礎	必・自動車電装Ⅱ	必・自動車電装Ⅱ	必・故障探査法	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー
	必・自動車電装Ⅰ	必・ジーゼル・エンジン工学	必・ジーゼル・エンジン工学	必・自動車法規	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー
	必・機械製図	選・CADシステム	選・CADシステム	選・ガソリン・エンジン整備	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー
	必・工学基礎	選・物理学	選・物理学	選・ガソリン・エンジン整備	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー
	必・数学Ⅰ	選・販売管理	選・販売管理	選・ガソリン・エンジン整備	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー
	選・英語Ⅰ	選・英語Ⅱ	選・英語Ⅱ	選・ガソリン・エンジン整備	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー
	必・体育実技	選・保健体育講義	選・保健体育講義	選・ガソリン・エンジン整備	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー
選・パソコン演習Ⅰ	選・パソコン演習Ⅱ	選・パソコン演習Ⅱ	選・ガソリン・エンジン整備	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー	
基礎・教養科目	選・英語Ⅰ	選・英語Ⅱ	選・英語Ⅱ	選・ガソリン・エンジン整備	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー
	必・体育実技	選・保健体育講義	選・保健体育講義	選・ガソリン・エンジン整備	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー
	選・パソコン演習Ⅰ	選・パソコン演習Ⅱ	選・パソコン演習Ⅱ	選・ガソリン・エンジン整備	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー
	選・数学Ⅱ	選・文章表現法	選・文章表現法	選・ガソリン・エンジン整備	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー
	選・英語Ⅱ	選・文章表現法	選・文章表現法	選・ガソリン・エンジン整備	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー
	選・英語Ⅲ	選・文章表現法	選・文章表現法	選・ガソリン・エンジン整備	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー
	選・英語Ⅳ	選・文章表現法	選・文章表現法	選・ガソリン・エンジン整備	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー
	選・英語Ⅴ	選・文章表現法	選・文章表現法	選・ガソリン・エンジン整備	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー
	選・英語Ⅵ	選・文章表現法	選・文章表現法	選・ガソリン・エンジン整備	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー
	選・英語Ⅶ	選・文章表現法	選・文章表現法	選・ガソリン・エンジン整備	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー	選・ハイブリッドカー

学習評価の基準については、学則第21条に規定されており、表Ⅱ-A-4のようになっている。基準に沿って、各科目担当者は試験、レポート審査などにより成績評価を行っており、これが学習者個人の学習成果を表している。

表Ⅱ-A-4 本学の成績評価基準

評価	秀	優	良	可	不可
得点	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	59～0点
単位	認定				不認定

シラバスには授業の概要、到達目標、授業内容、授業を受けるにあたって、教科書・参考書、成績評価方法、受講者への指示／メッセージを明示して学習成果があげられるよう配慮している。

本学は国土交通省の二級自動車整備士養成施設としての認定大学であり、専門科目のうち特に二級認定科目の担当者については指定基準に即した学科指導員、実習指導員を配置する必要があるため、表Ⅱ-A-5に示すように専門科目の専任率は高くなっている。また、教養科目についても教員の資格・経歴・業績を基にした適切な配置を行っている。

表Ⅱ-A-5 専任教員の配置

年度	年次	基礎科目			専門科目			科目全体			備考
		科目数	専任教員	専任教員率%	科目数	専任教員	専任教員率%	科目数	専任教員	専任教員率%	
24	1	7	3	43	15	14	93	22	17	77	
	2	3	3	100	18	18	100	21	21	100	
	合計	10	6	60	33	32	97	43	38	88	
25	1	8	3	38	16	15	94	24	18	75	
	2	3	3	100	19	19	100	22	22	100	
	合計	11	6	55	35	34	97	46	40	87	
26	1	8	3	38	16	15.3	96	24	18.3	76	
	2	3	3	100	19	19	100	22	22	100	
	合計	11	6	55	35	34.3	98	46	40.3	88	

注)平成26年度専門科目の専任教員1年次の専任教員数15.3はパソコン演習Ⅰが専任2名、兼任1名、CADシステムが専任2名、兼任1名であるため0.3の端数が生じている。

教育課程の見直しは、毎年度学科方針として掲げられており、適宜内容の見直し・検討を教務委員会が中心になり行っている。また、その際には学習成果に対応した授業科目を編成するよう留意している。

平成25年度からは就職のためのスキルアップ及び履歴書における文章力を養成するために選択科目として「文章表現法」を開講した。また、本学が目指す外国語教育について見直し、学則第23条の2の規定に基づき、短期大学又は大学以外の教育施設等における学修のうち「その他文部科学大臣が定める学修」について、「実用英語技能検定試験」、「TOEFL (Test of English as a Foreign Language)」、「TOEIC (Test of English for International Communication)」で、表Ⅱ-A-6に定める成績基準を満たすものに、本学における外国語科目を履修したものとみなして単位を与えることにした。

表Ⅱ-A-6 外国語単位認定の成績基準

成績基準 (スコア/級)	授業科目及び認定単位数
英検 2級以上 TOEFL (iBT) 50点以上 TOEIC 550点以上	外国語科目の 「英語Ⅰ」及び「英語Ⅱ」の4単位を 認定する。
英検 準2級 TOEFL (iBT) 40点以上 TOEIC 450点以上	外国語科目の 「英語Ⅰ」を2単位認定する。

注) TOEFL iBT (TOEFL Internet-based testing)

さらに、実習科目の後期における学生の学習意欲を高め、出席率を向上するために、通年で開講していた「自動車工学実習Ⅰ」(1年生)及び「自動車工学実習Ⅱ」(2年生)を平成25年度からは半期ごとにし、「自動車工学実習Ⅰ」(1年生前期)、「自動車工学実習Ⅱ」(1年生後期)、「自動車工学実習Ⅲ」(2年生前期)、「自動車工学実習Ⅳ」(2

年生後期)に変更した。これに伴い「自動車工学実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」における単位を、前期5単位、後期4単位とした。さらに、卒業要件単位数の必修科目単位数を60単位から62単位に変更した。

選択科目の履修率を向上するために、平成25年度からは選択科目の卒業要件単位数を5単位以上から8単位以上に変更し、さらに、「一般教育科目」、「外国語科目」、「保健体育科目」から2単位以上、「専門教育科目」から4単位以上に変更した。

上述の必修科目及び選択科目の卒業要件単位数の変更により、平成25年度からは卒業要件単位数を65単位以上から70単位以上に変更した。

平成26年度からは教育課程の編成をよりわかりやすくするために、「一般教育科目」、「外国語科目」、「保健体育科目」及び「専門教育科目」から「基礎・教養科目」及び「専門科目」に名称を変更した。これに伴い、平成26年度からは選択科目の卒業要件単位数を「基礎・教養科目」から2単位以上、「専門科目」から4単位以上に変更した。

また、「パソコン演習Ⅰ」は、パソコンの代表的なソフトの使い方をマスターすることを目的とし、「パソコン演習Ⅱ」は、マイクロソフト オフィス スペシャリスト(MOS)の認定資格取得を目標とするため、両科目の関係を考慮し、平成26年度からは「パソコン演習Ⅰ」を1年後期から1年前期へ移動した。

さらに、「文章表現法」については、「就職対策講座」との連携による教育効果を考慮し、平成26年度からは1年前期から1年後期へ移動した。

また、「英語Ⅰ」を必修科目から選択科目へ変更し、「英語Ⅰ」は、英会話を重視するのに対し、「英語Ⅱ」は文法や技術英語についても学ぶようにした。これに伴い、平成26年度からは卒業要件単位数を70単位以上から68単位以上に変更した。

平成25(2013)年度、平成26(2014)年度の教育課程表を表Ⅱ-A-7及び表Ⅱ-A-8に示す。(改訂箇所を網掛け)

表Ⅱ-A-7 平成25(2013)年度 教育課程表

区分		授業科目	授業形態				単 位 数	履修スケジュール			
			講 義	演 習	実 習	実 技		1年		2年	
								前	後	前	後
一 般 教 育	必修	数学Ⅰ	○				2	1			
	必修	就職対策講座	○				2		1		
	必修	法学	○				2				1
	選択	文章表現法	○				2	1			
	選択	物理学	○				2		1		
	選択	数学Ⅱ	○				2			1	
外国語	必修	英語Ⅰ	○				2	1			
	選択	英語Ⅱ	○				2		1		
保健 体育	必修	体育実技				○	1	1			
	選択	保健体育講義	○				2		1		
専 門 教 育	必修	工学基礎	○				2	1			
	必修	自動車工学概論	○				2	1			
	必修	ガソリン・エンジン工学	○				2	1			
	必修	自動車シャシⅠ	○				2	1			
	必修	自動車電気基礎	○				2	1			
	必修	自動車電装Ⅰ	○				2	1			
	必修	機械製図	○			○	1	1			
	必修	ジーゼル・エンジン工学	○				2		1		
	必修	自動車シャシⅡ	○				2		1		
	必修	自動車電装Ⅱ	○				2		1		
	必修	ガソリン・エンジン整備	○				2			1	
	必修	シャシ整備Ⅰ	○				2			1	
	必修	自動車材料	○				2			1	
	必修	自動車法規	○				2			1	
	必修	故障探究法	○				2			1	
	必修	ジーゼル・エンジン整備	○				2				1
	必修	シャシ整備Ⅱ	○				2				1
	必修	自動車検査	○				2				1
	必修	自動車工学実習Ⅰ			○		5	8			
	必修	自動車工学実習Ⅱ			○		4		8		
	必修	自動車工学実習Ⅲ			○		5			8	
	必修	自動車工学実習Ⅳ			○		4				8
	選択	パソコン演習Ⅰ		○			1		1		
	選択	パソコン演習Ⅱ		○			1		1		
	選択	CADシステム	○			○	1		1		
	選択	販売管理	○				2		1		
	選択	カーエレクトロニクス	○				2			1	
	選択	熱力学	○				2			1	
	選択	機械運動学	○				2			1	
	選択	自動車整備士対策講座		○			1			1	
選択	流体工学	○				2				1	
選択	材料力学	○				2				1	
選択	機械工作法	○				2				1	
選択	ハイブリッドカー	○				2				1	
選択	OMS		○			1				2	
週あたりコマ数合計								19	19	19	18

表Ⅱ-A-8 平成26(2014)年度 教育課程表

区分		授業科目	授業形態				単 位 数	履修スケジュール			
			講 義	演 習	実 習	実 技		1年		2年	
								前	後	前	後
基 礎 ・ 教 養 科 目	必修	数学Ⅰ	○				2	1			
	必修	就職対策講座	○				2		1		
	必修	法学	○				2				1
	選択	文章表現法	○				2		1		
	選択	物理学	○				2		1		
	選択	数学Ⅱ	○				2			1	
	選択	ファイナンス・マネジメント	○				2			1	
	選択	英語Ⅰ	○				2	1			
	選択	英語Ⅱ	○				2		1		
	必修	体育実技				○	1	1			
	選択	保健体育講義	○				2		1		
専 門 科 目	必修	工学基礎	○				2	1			
	必修	自動車工学概論	○				2	1			
	必修	ガソリン・エンジン工学	○				2	1			
	必修	自動車シャシⅠ	○				2	1			
	必修	自動車電気基礎	○				2	1			
	必修	自動車電装Ⅰ	○				2	1			
	必修	機械製図	○			○	1	1			
	必修	ジーゼル・エンジン工学	○				2		1		
	必修	自動車シャシⅡ	○				2		1		
	必修	自動車電装Ⅱ	○				2		1		
	必修	ガソリン・エンジン整備	○				2			1	
	必修	シャシ整備Ⅰ	○				2			1	
	必修	自動車材料	○				2			1	
	必修	自動車法規	○				2			1	
	必修	故障探究法	○				2			1	
	必修	ジーゼル・エンジン整備	○				2				1
	必修	シャシ整備Ⅱ	○				2				1
	必修	自動車検査	○				2				1
	必修	自動車工学実習Ⅰ			○		5	8			
	必修	自動車工学実習Ⅱ			○		4		8		
	必修	自動車工学実習Ⅲ			○		5			8	
	必修	自動車工学実習Ⅳ			○		4				8
	選択	パソコン演習Ⅰ		○			1	1			
	選択	パソコン演習Ⅱ		○			1		1		
	選択	CADシステム	○			○	1		1		
	選択	販売管理	○				2		1		
	選択	カーエレクトロニクス	○				2			1	
	選択	熱力学	○				2			1	
	選択	機械運動学	○				2			1	
	選択	自動車整備士対策講座		○			1			1	
選択	流体工学	○				2				1	
選択	材料力学	○				2				1	
選択	機械工作法	○				2				1	
選択	ハイブリッドカー	○				2				1	
選択	OMS		○			1				2	
週あたりコマ数合計							19	19	19	18	

(b) 課題

日進月歩する自動車技術に対応するため、カリキュラムの改編を踏まえ授業内容の精査やさらなる見直しを定期的に行う必要がある。学生の学習意欲の向上を図るため、授業以外でも学生とのコミュニケーションを保ち、学生の学習支援に取り組む必要がある。入学生の学力格差が年々顕著になり、教育方法の改善を通して、より分かりやすい授業を提供することで質の向上に継続的に取り組む必要がある。

[区分 基準Ⅱ-A-3 入学者受け入れの方針を明確に示している。]

■ 基準Ⅱ-A-3 の自己点検・評価

(a) 現状

入学者受け入れ方針（アドミッション・ポリシー）はオープンキャンパス、進学相談会、高校訪問等を通じて、受験生、保護者、高校教員に説明を行い、募集要項、ホームページ等でその方針を明確に示している。また、二級自動車整備士の資格を有し、確かな基礎学力と幅広い教養をもち、多様な業種に対応できる人材の育成の観点から、外国人留学生試験も実施している。

入学者受け入れ方針については、次のように示し、入学前の能力、基礎学力及び向上心の把握・評価は、「学生募集要項」【提出資料 7】に沿った入学試験によって行われている。

愛知工科大学自動車短期大学の入学者受け入れ方針
(アドミッション・ポリシー)

愛知工科大学自動車短期大学は、自動車に興味を持ち、これからの自動車産業界をリードする意欲と情熱を燃やし続けることのできるような人の入学を求めています。

1. 自動車整備に興味があり、自動車整備士を目指す人
2. 自動車、自動二輪車などの開発技術に興味を持つ人
3. 自動車産業において求められる知識・技術を習得したい人
4. カー・エンジニアとして社会への貢献を目指す人
5. 自動車に関する各種の資格取得を目指す人
6. 愛知工科大学自動車短期大学での修学に備え、入学まで継続して勉学する意欲のある人（入学前に勉学する範囲は、本学の一般入学試験における出題科目・範囲が望ましい。）

入学試験は、各高校から出された調査書、推薦書、志望理由書、面接、筆記試験等によって総合的に選考している。面接時には、数学の問題を課すことで、基礎学力を有する者を確認している。また、いずれの入学試験においても、入学者受け入れ方針に基づいて、適性がある入学者の選抜を行っている。

各入学試験の選抜方法は、次のとおりである。

1. 指定校推薦入学試験【提出資料 9】

入学を志願する者の適性をはかるため、基準とする評定平均値に該当し、さらに出身学校長の推薦があった者の中から、調査書、面接試験を通して総合的に選考している。

2. 公募制推薦入学試験・女子特別推薦入学試験【提出資料 7】

学修に強い意欲を持つ者を判定するため、調査書、推薦書、志望理由書、面接試験を通して総合的に選考している。

3. 自己推薦入学試験【提出資料 7】

自動車工学に対する向学心を持つ者を判定するため、調査書、自己推薦書、面接試験を通して総合的に選考している。

4. 一般入学試験・大学入試センター利用入学試験【提出資料 7】

入学者受け入れ方針に基づいた基礎学力と自動車に強い関心を持つ者を選考するため、調査書、学力試験、面接試験を通して総合的に選考している。

5. 社会人入学試験【提出資料 7】

多様な経験を持つ者の中で、自動車工学に対する向学心を持つ者を判定するため、調査書、自己推薦書、面接試験を通して総合的に選考している。

6. A0 入学試験【提出資料 8】【提出資料 11】

講義・実習とレポート作成、面接試験によって、学力だけでは伝わらない自動車に対する熱意などを含めて多面的に選考している。

7. 外国人留学生入学試験【提出資料 12】

面接試験（日本語による個人面接）、学力試験を行い、日本語能力、自動車に対する熱意などを含めて多面的に選考している。

(b) 課題

自動車に興味を持ち、これからの自動車産業界をリードする意欲と情熱を燃やし続けることができるような人の入学を求めている観点から、複数の入試制度を実施しているが、定員充足率をいかに高めるかがここ数年間の一番の課題である。その一方、多様な学習経験を持つ学生は、学力格差が大きくなっていることから、入学前添削指導に加えて、特別補講等の方策を講じる必要がある。

[区分 基準Ⅱ-A-4 学習成果の査定（アセスメント）は明確である。]

■ 基準Ⅱ-A-4 の自己点検・評価

(a) 現状

学習成果の一つは、自動車整備技術の修得に集約されるため、国家資格の二級自動車整備士資格の取得がこれにあたる。従って、学習成果の評価は、自動車整備士登録試験合格率【備付資料9】、進路（就職・進学）決定率、各種資格取得率【備付資料10】等から行っている。

二級自動車整備士登録試験は、二級ガソリン自動車整備士資格と二級ジーゼル自動車整備士資格の2種類があり、両資格を取得することにより、上級の資格である一級自

自動車整備士資格の受験が可能になるため、卒業予定者には両方の資格を取得するよう指導している。過去5年間の二級ガソリン自動車整備士資格の合格率を表Ⅱ-A-9、二級ジーゼル自動車整備士資格の合格率を表Ⅱ-A-10、自動車整備士資格の取得状況を表Ⅱ-A-11に示す。二級ガソリン自動車整備士資格と二級ジーゼル自動車整備士資格の2種類のうち、どちらか一つを取得すれば、自動車整備士として認定されるため、本学の自動車整備士率は毎年ほぼ100%であり、国内トップレベルの取得率を維持している。

また、過去5年間の年度末（3月31日現在）の進路決定の状況を表Ⅱ-A-12に示す。進路決定については、毎年決定率100%を目標にクラス担任、キャリアセンター職員を中心に短期大学全教職員で指導にあたっているが、学生個人の職業選択の意思を尊重していることもあり、毎年数名の未決定者があるが、卒業後もキャリアセンターを通じた進路支援を行うことで、決定率100%の達成を目指している。進学者の大半は愛知工科大学への3年次編入（一級自動車整備士養成課程）である。

表Ⅱ-A-9 二級ガソリン自動車整備士合格率

項目\年度	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
受験者数	134	119	121	101	123
合格者数	133	110	118	99	119
合格率%	99.3	92.4	97.5	98.0	96.7

表Ⅱ-A-10 二級ジーゼル自動車整備士合格率

項目\年度	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
受験者数	133	117	120	102	123
合格者数	130	107	118	100	122
合格率%	97.7	91.5	98.3	98.0	99.2

表Ⅱ-A-11 二級自動車整備士取得率

項目\年度	平成 22 年	平成 23 年	平成 24 年	平成 25 年	平成 26 年
整備士率%	100	95	100	100	99.2

表Ⅱ-A-12 過去5年間の年度末（3月31日現在）の進路決定の状況

項目\年度	平成 22 年度	平成 23 年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
卒業者数	138	123	123	106	126
就職者数	105	82	88	78	102
進学者数	31	36	31	24	22
未決定者数	2	5	4	4	2
進路決定率%	98.6	95.9	96.7	96.2	98.4

(b) 課題

日進月歩の自動車技術に対応した教育を実施するためには、教員のスキルアップと実習教材等の充実が不可欠である。そのため、学内外で実施される技術講習会には、積極的に参加し、教員のスキルアップを図っていく必要がある。また、最新の実習教材を計画的に導入していく必要がある。さらには、2年後期に開講している「OMS（ワン・モア・セミナー）」において、学生の整備技術のスキルアップとプラスワンの技術を修得させているが、自動車業界のニーズに合わせたメニューも検討する必要がある。

[区分 基準Ⅱ-A-5 学生の卒業後評価への取り組みを行っている。]

■ 基準Ⅱ-A-5 の自己点検・評価

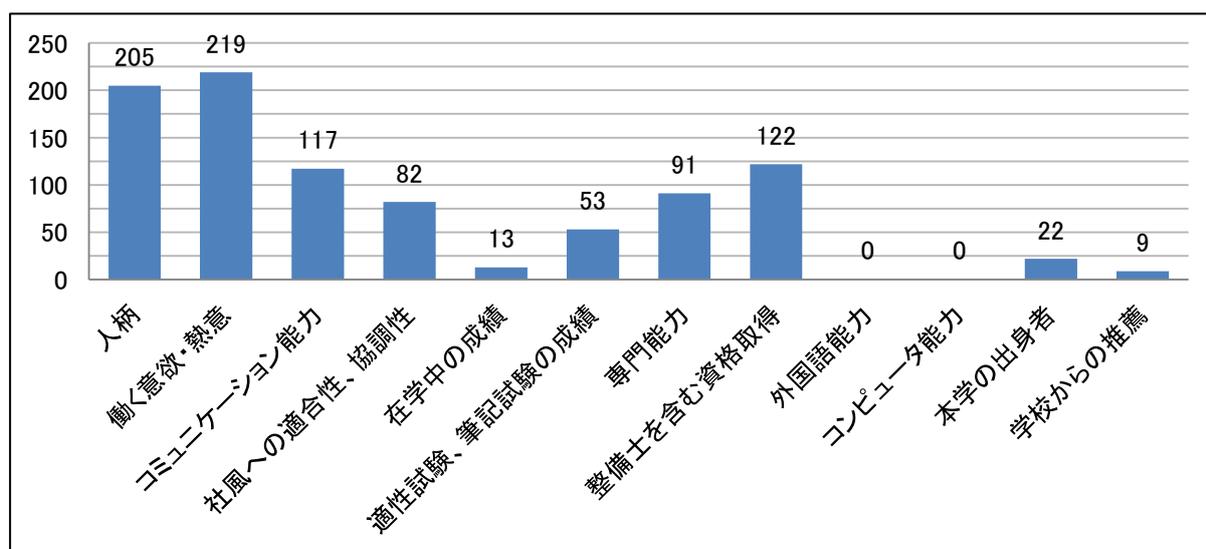
(a) 現状

平成 18 年度から平成 22 年度までの 5 年間の採用企業 136 社を対象に、「卒業生の就労実態等に関する調査」【備付資料 12】を平成 23 年度に実施し、67 社（回収率 49%）から回答を得ている。

本学の学生を採用した理由について、上位 5 つを選び「1 位から 5 位まで」順位が付記されたものに対して、高い順位から「5 点・4 点・3 点・2 点・1 点」のポイントを与えて集計した。その結果を表Ⅱ-A-13 に示す。

「働く意欲・熱意」が最も高く、次いで「人柄」（2 位）、「資格取得」（3 位）、「コミュニケーション能力」（4 位）、「専門能力」（5 位）である。「適性・筆記試験の成績」（7 位）、「在学中の成績」（9 位）は、採用条件としてのウエイトが低い結果となっている。これにより、面接等による人物重視の採用が行われていることが分かる。

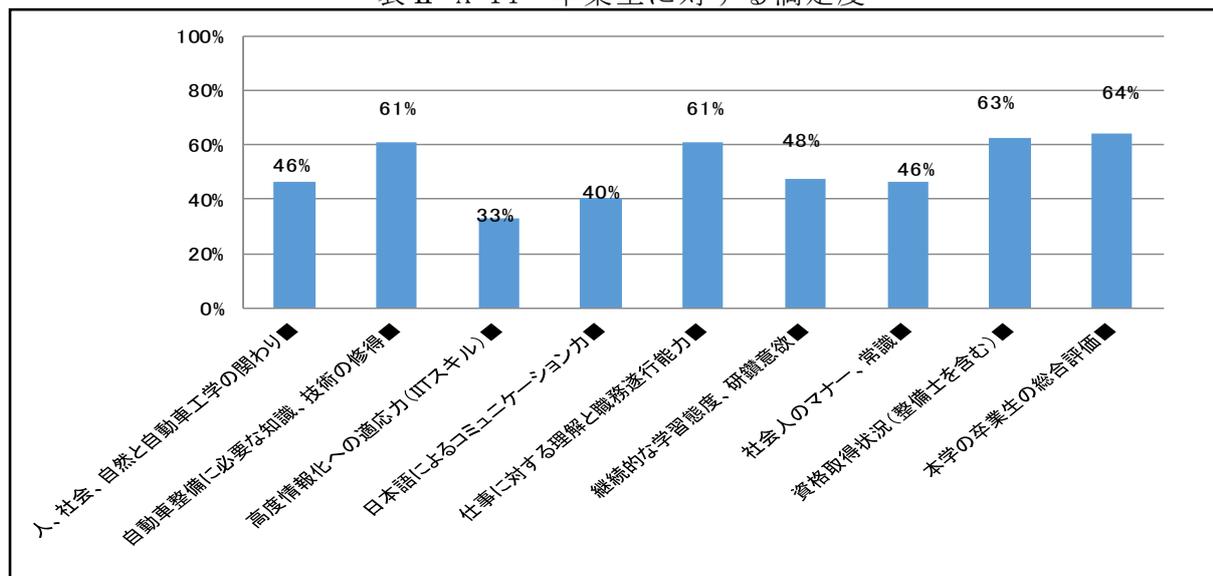
表Ⅱ-A-13 学生を採用した理由



また、本学卒業生に対する満足度の評価については、「満足」「どちらかといえば満足」「普通」「どちらかといえば不満」「不満」の 5 段階で評価してもらい、「満足」及び「どちらかといえば満足」の合計を比率で表した。その結果を表Ⅱ-A-14 に示す。

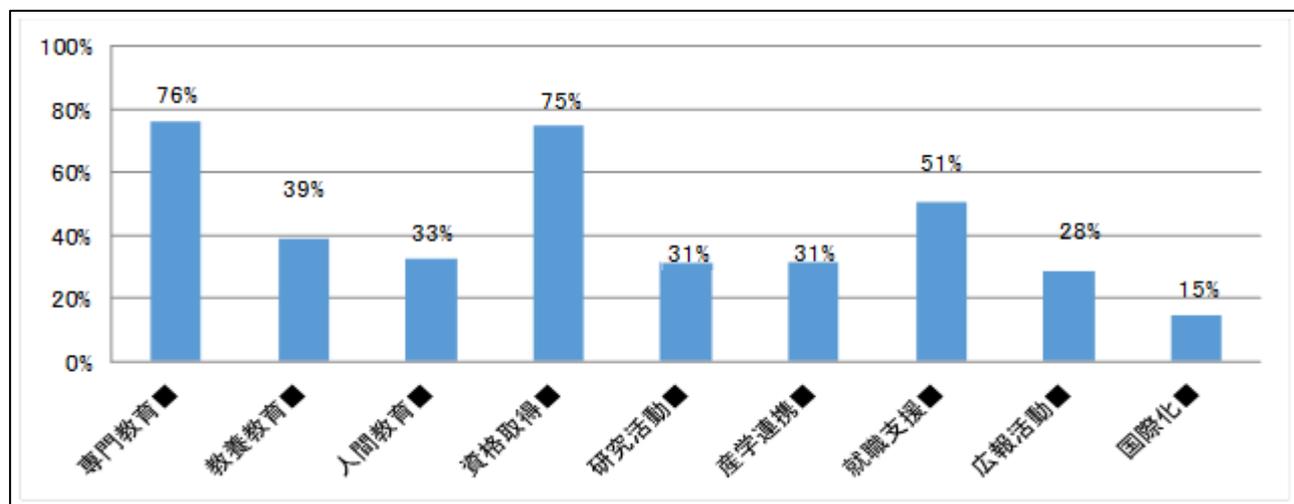
「資格取得」(63%)、「整備知識・技術の修得」(61%)、「仕事理解と職務遂行能力(61%)、さらに、「卒業生の総合評価」(64%)では、3分の2の事業所から一定の満足評価を得ている。一方、高度情報化への適応力(33%)、日本語によるコミュニケーション力(40%)、「社会人のマナー・常識」(46%)については、満足度が低い。この結果を受け、平成25年度からコミュニケーション力を向上させるため、教育科目に「文章表現法」を導入した。また、社会人のマナー・常識を向上させるため、CS教育講座やビジネスマナー講演会の内容に力を入れている。

表Ⅱ-A-14 卒業生に対する満足度



さらに、本学の教育活動・学生支援に抱くイメージを、「優れている」「どちらかといえば優れている」「普通」「どちらかといえば劣る」「劣る」の5段階で評価してもらい、「優れている」及び「どちらかといえば優れている」の合計を比率で表した。その結果を表Ⅱ-A-15に示す。「専門教育」(76%)、「資格取得」(75%)、「就職支援」(51%)の順で、印象が高く、その他の項目は概ね30%前後であり、特に「国際化」(15%)の印象は低い。

表Ⅱ-A-15 教育活動・学生支援に抱くイメージ



また、採用者側ではなく、卒業後 3 年経過した卒業生による本学在学中の学習内容や学生支援に対する評価についてのアンケートは、平成 23 年度から実施し始めたが、アンケートの回収率が極めて低く、データとして活用できない状況である。

(b) 課題

卒業生による本学在学中の学習内容や学生支援についての評価アンケートの回収率改善については、在学中に、卒業後このようなアンケートを実施する旨を説明し、母校を良くするために協力がいただけるよう啓蒙に努める必要がある。

■ テーマ 基準Ⅱ-A 教育課程の改善計画

学位授与の方針にあわせて、カリキュラムを編成し取り組んでいるが、年々入学生の学力格差が大きくなっているため、基礎教育科目群のさらなる検討を行い、専門科目群については、進化する自動車技術に対応するために、授業内容の精査やさらなる見直しを定期的に行う計画である。

ここ数年間の課題であった定員充足率向上については、年々改善されつつあるが、入学者受け入れ方針に準拠した入学試験制度を見直し、多様な学習経験を持つ入学生に対応していく計画がある。また、入学前に学力格差が緩和できるような特別補講等の方策を講じる計画である。

◆参考資料

資料名	資料番号
・ 学生便覧 2014	【提 1】
・ [平成 27 年度] 2015 学生募集要項	【提 7】
・ [平成 26 年度] 2014 学生募集要項 (AO 入試を含む)	【提 8】
・ 平成 27 年度 指定校推薦入学試験学生募集要項	【提 9】
・ 平成 26 年度 指定校推薦入学試験学生募集要項	【提 10】
・ [平成 27 年度] 2015 AO 入学試験学生募集要項	【提 11】
・ 2015 外国人留学生募集要項	【提 12】
・ 2014 外国人留学生募集要項	【提 13】
・ 平成 26 年度 授業科目担当一覧 (前期・後期)	【提 14】
・ 自動車工業学科進路先一覧 (平成 26 年度～平成 24 年度)	【備 4】
・ 平成 26 年度 卒業者単位認定状況表	【備 7】
・ 平成 26 年度 卒業者の全成績一覧	【備 8】
・ 2 級ガソリン自動車整備士・2 級ジーゼル自動車整備士合格率	【備 9】
・ 平成 26 年度 各種資格取得状況一覧	【備 10】
・ 学生支援の満足度についての調査結果	【備 11】
・ 卒業生の就労実態等に関する調査	【備 12】

[テーマ 基準Ⅱ-B 学生支援]

[区分 基準Ⅱ-B-1 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて教育資源を有効に活用している。]

■ 基準Ⅱ-B-1 の自己点検・評価

(a) 現状

成績評価については学則第21条、試験及び成績評価に関する規程第13条に定めている。

試験及び成績評価に関する規程

(成績区分)

第13条 成績の評価は次のとおりとし、可以上を合格とする。

1. 秀…100点～90点
2. 優… 89点～80点
3. 良… 79点～70点
4. 可… 69点～60点
5. 不可… 59点以下

また、シラバスには各科目の成績評価方法が記載されており、試験結果以外にも日常の授業態度なども成績評価に反映させることで、下記の学位授与方針にも対応している。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

愛知工科大学自動車短期大学は、次のような到達目標を掲げ卒業の認定及び学位記を授与します。

1. 自動車整備士として活躍するために必要な知識・技術を修得している。
2. 健全で中正な社会観と堅実な人生観を持った、周囲から愛され、信頼される素養を身につけている。
3. 円滑な人間関係が築けるコミュニケーション能力を有し、社会人として地域社会に貢献できる。

教員は単位取得状況、二級自動車整備士等の各種資格取得状況、就職状況について学科会議の資料等で周知されており、適宜学習成果を適切に把握している。また、入学時より機会あるごとに授業や行事で学生と接して、挨拶や言葉遣い、生活態度等の人間的な成長を見ており、日常生活などの状況から教育目的・目標の達成状況を把握・評価している。

各学期のオリエンテーションが学生に対する履修説明の機会となっている。日常的にはクラス担任が中心となり、すべての教員がそれぞれの立場で個々の学生に対して

履修及び卒業に至る指導をきめ細かく行っている。

各学期末に「学生による授業評価」を実施しているが、質問項目は「あなた（学生）自身のことについて」、「授業担当者について」、「授業全体について」の3部構成になっている。

平成26年度授業評価の質問内容と授業評価アンケート用紙【備付資料19】を表Ⅱ-B-1, 2に示す。

表Ⅱ-B-1 平成26年度授業評価質問内容

区分	No.	質問項目
あなた自身のことについて	1	あなたはこの授業にどの程度出席しましたか
	2	あなたはこの授業のためにどのくらい予習・復習しましたか
	3	あなたはこの授業に意欲的に取り組みましたか
	4	あなたはこの授業内容をどの程度理解できましたか
	5	あなたはこの授業によって自分の能力（考え方・知識・技術）を伸ばすことができたと思いますか
授業担当者について	6	授業内容は理解しやすいように配慮されていましたか
	7	板書・パワーポイント・DVDなどの使い方は適切でしたか
	8	学生の質問に対する対応は適切でしたか
	9	教え方（話し方、声の大きさ等）は分かりやすかったですか
	10	教員の熱意は感じられましたか
授業全体について	11	この授業はあなたの学習意欲を高める内容でしたか
	12	授業はよく準備されていましたか
	13	授業環境は学習に適した状態に保たれていましたか
	14	この授業を総合的に判断すると良い授業だと思いますか
	15	この授業を受けて、どの程度満足していますか
自由記述		

授業評価の集計結果と回答用紙は学期ごとに学務課より担当教員に配付され、教員見解を記入後返却することになっている。授業評価集計結果【備付資料 20】の例を表Ⅱ-B-3に示す。

表Ⅱ-B-3 授業評価集計結果の例



集計結果を通して授業評価を客観的かつ効率よく知ることができ、回答用紙の自由記述欄からは個々の学生の授業に対する意見、感想も分かり、次年度以降の授業改善のために活用している。

FD委員会が中心となったFD活動【備付資料24】の一つとして、平成25、26年度は関連した科目の連携を深め、より効果的な学習成果を得ることを目的として、下記の5つの専門分野ごとの分科会活動を行っている。

専門分野

エンジン系、シャシ系、電装系、点検整備系、基礎教育系

また、愛知工科大学工学部との共同も含めて平成24～26年度は、表Ⅱ-B-4のFD研修会を開催した。

表Ⅱ-B-4 FD研修会の概要

年度	開催日	演題	講師
平成24年度	8月31日	主体的な学びへ導くためには～ 大学1年間でいかに成長感を持たせるか～	荒木裕一郎 (㈱ベネッセコーポレーション)
	10月30日	コーチング～相手の意欲、自立性を引き出すには	安達理恵(愛知工科大学准教授)、坂倉洋治(愛知工科大学 会計課長)
		1年生に修学習慣を定着させる クラス担任の役割	田宮直(愛知工科大学 講師) 鵜飼達也 (愛知工科大学自動車 短期大学 助教)
		学生に興味を持たせる基礎教育 の工夫	三品明博 (愛知工科大学自動車 短期大学 講師)
		心を磨く所作の作法	高橋義則 (愛知工科大学 教授)
	11月28日	コーチング～学生との面談を活かすには?～	鈴木佳代子 (生涯学習開発財団)
	2月6日	学生の学力と人間関係力を高める 協同学習のすすめ	江利川春雄 (和歌山大学教育学部教授)
	3月7日	教育目標達成に向け主体的な学 びに導く教育を目指す	杉浦伸明 (愛知工科大学 教授)
		学生参画授業を目指して～FDセ ミナー及び関西国際大学の参観 から	安達理恵 (愛知工科大学 准教授)
		ルーブリックの紹介と導入に向 けて	大竹才人 (愛知工科大学 准教授)
		AUT教育改革に向けた授業改善 計画	加藤高明 (愛知工科大学 准教授)

年度	開催日	演題	講師
平成24年度	3月7日	学生参画授業の実情紹介と改善課題	永野佳孝 (愛知工科大学 准教授)
		AUT教育法の構築に向けて	高橋義則 (愛知工科大学 教授)
平成25年度	6月13日	iPadを活用した授業方法について (1)	岩瀬正幸 (愛知工科大学自動車短期大学助教)
	8月30日	学年別基礎力調査の結果報告と学生支援	鈴木 拓 (㈱ベネッセコーポレーション)
	10月1日	前期の授業公開を総括ー実りある授業への取り組みに向けてー	杉浦伸明 (愛知工科大学教授)
		山形大学FD合宿セミナーに参加して	大竹才人 (愛知工科大学准教授)
	10月29日	キャリア教育「体験型プログラム」のすすめ～学生たちに起業家マインドを育てよう～	柴田朋子 (JUNO代表)
		企業との連携を図る教育の実践に向けて～今年度インターンシップを振り返る～	杉浦伸明 (愛知工科大学教授)
	11月19日	より良い授業を目指して身近な事例から学ぶ	名和靖彦 (愛知工科大学准教授) 大迫尚行 (愛知工科大学准教授) 加藤高明 (愛知工科大学教授) 大竹才人 (愛知工科大学准教授)
	12月3日	関西国際大学の教育改革について～KUIS学修ベンチマークを中心に～	上村和美 (関西国際大学教授)
	2月5日	授業力向上のためのワークショップ『アクティブラーニングに向けた授業を自らデザインする』	安達理恵 (愛知工科大学准教授)
	2月7日	資格取得サイト「コーカくん」を活用した授業方法について	平野博敏 (愛知工科大学自動車短期大学講師)
3月19日	グループワーク体験研修「グループ名を決めよう」、「自立とは何か考えよう」	村上新 (愛知工科大学教授)	

年度	開催日	演題	講師
平成26年度	5月10日	スズキ新技術勉強会	(株)スズキ自販東海
	8月29日	主体的な学びへ導くためには ～大学1年間でいかに成長感を持たせるか～	鈴木 拓 (株)ベネッセコーポレーション)
	10月28日	『超』弱体化時代の大学生の精神構造～生い立ちから探る彼らの深層～	石原峰志 (長縄塾長)
	11月28日	CAN通信について	鈴木宏和 (愛知工科大学自動車短期大学教授)
	3月9日	大学教育における「対話」の可能性	渡部吉規 (愛知工科大学講師)
		反転授業により学生の能動的な学びへの転換をはかる	高橋義則 (愛知工科大学教授)
		小規模大学における学修支援	森 勝行 (愛知工科大学自動車短期大学教授)
		大学図書館からの学習支援の工夫～連携を視座に～	村上 新 (愛知工科大学教授)

事務職員は単位取得状況や二級自動車整備士等の各種資格試験の結果について、各種会議資料等で周知されており、学習成果を認識している。また、所属部署を問わず、窓口での応対や日常生活において入学時から学生と接しており、挨拶や言葉遣い、生活態度等の人間的な成長を通して学習成果を認識している。

所属部署の職務から学習成果への係わりが大きい部署は、学務課とキャリア支援課であり、下記の通り学習成果の獲得に向けて貢献している。

<p>◆学務課 成績の管理、履修等の相談、教育懇談会の開催、課外活動の支援、奨学金の相談、寮生の生活指導など</p> <p>◆キャリア支援課 就職支援、各種資格取得支援など</p>
--

事務職員のSD活動【備付資料25】は、愛知県私大教務研究会、私立短期大学協会等の各種研修(表Ⅲ-A-7)に積極的に参加することで職務の充実を図っている。また、表Ⅱ-B-5に示すように学園本部主催の教職員研修会にも参加し、学生支援のための各職務のスキルアップを目指している。

表Ⅱ-B-5 教職員研修会の概要（学園本部主催）

年 度	実施日	研修項目	研修担当者
平成24年度	8月1,2日	広報関連セミナー	リクルート（村田）
		Word2010・Excel2010の効果的な使い方	法人事務局 （山田、渡邊、渡邊）
	8月1日	発達障害のある生徒への支援	愛知県臨床心理士会 （前田）
		職員力向上研修	テンプスタッフ・ピープル （山崎）
		生涯生活設計セミナー	教職員生涯福祉財団 （鈴木、高橋）
		効果的な写真撮影と写真データの加工	サンメッセ
	8月2日	救急救命講習	あいちビジネス専門学校 （平野）、東海工業専門学校金山校（鈴木）
		ビジネス英会話	名古屋外国語専門学校（坂口、マクミラン）
平成25年度	12月24日	発達障害についての理解と関わり方	りんくす名古屋 （小川真紀）
		思春期・青年期の問題行動	愛知県臨床心理士会 （堀英太郎）
		生徒・集団を自立させる「関わり方の極意」	TEAM・VISION （井坂直人）
		クレーム対応研修	インソース （中根きみ絵）
		ハラスメント防止について	西脇法律事務所 （西脇明典）
		広報用写真撮影テクニック	サンメッセ （井戸義知）
		募集イベント企画の考え方	リクルート マーケティングパートナーズ （村田陽一）
		個人情報保護	富士通エフ・オー・エム （金澤小夜子）
	12月24,25日	PowerPointを使用した効果的な教材作成	法人事務局管理部 （山田栄二）

愛知工科大学自動車短期大学

年度	実施日	研修項目	研修担当者
平成25年度	12月25日	CS向上のためのビジネスマナー	テンプスタッフ・ピープル (山崎直美)
		本当に伝わる話し方	LIBRA (平野裕加里)
		ソーシャルメディア活用	(株)WWG (薫田芳史)
		生活設計と生命保険	生命保険文化センター (牛境信治)
		学校の魅力を学生募集につなげるための視点(管理監督者対象)	リクルート マーケティング パートナーズ (村田陽一)
		メタボ予防セミナー	スポーツクラブ アクトス (小川寿恵)
平成26年度	12月24日	本当に伝わる話し方	LIBRA(平野裕加里)
		広報用写真撮影テクニック	サンメッセ (井戸義知)
		生涯生活設計(退職後の人生設計)	教職員生涯福祉財団 (木曾長)
		創造の視点と、創造手法の獲得～貴学の永続的發展のために～(管理監督者対象)	リクルート マーケティング パートナーズ (村田陽一)
		ハラスメントの予防	インソース (根本章代)
		Access初級編(テーブル・クエリー編)	法人事務局管理部 (山田栄二)
	12月24, 25日	生徒・集団を自立させる「関わりの極意」	TEAM・VISION (井坂直人)
		救命講習(普通救命講習Ⅰ)	名古屋市消防局
		効果的なプレゼンテーション	インソース (中根きみ絵)
	12月25日	Access初級編(フォーム・レポート編)	管理課 (山田栄二)
		発達障害についての理解と関わり方	りんくす名古屋 (小川真紀)
		ママ目線から見た、こんな先生は嫌だ!	LIBRA (麦沢圭子)

年度	実施日	研修項目	研修担当者
平成26年度	12月25日	学生募集 スマホ時代に対応した募集広報とそのヒント	リクルート マーケティングパートナーズ (村田陽一)
		奨学金利用のテクニック	オリエントコーポレーション
		コミュニケーションスキル	インソース (根本章代)
		健康づくり体感	スポーツクラブアクトス
		e-ネット安心講座 体験・体感！スマホ教室	e-ネットキャラバン 縁(ゆかり)エキスパート

図書館からの情報提供は、図書館入口に掲示板を設けて、掲示のレイアウトに工夫を凝らして新刊書籍の表紙を掲示し、興味・関心を喚起している。

本学では、自動車工学実習のテーマごとにレポート課題を課している。教科書の内容だけに留まらず、多岐に亘って考察しなければならない。その場合は、図書館の活用を促している。

また、自動車整備に関わる各自動車メーカーの整備要領書を図書館に配備することで、個々が所有する自動車の整備情報を補うことができるようになっている。

本学の選択科目にパソコン演習Ⅰ、パソコン演習Ⅱがある。この教科は、個人のパソコンを使用するのではなく、学内のコンピュータールームまたはLL教室のパソコンを利用している。その他として、2次元CADソフトウェアを利用したCADシステムの授業も開講し、コンピュータの利用を促進している。

本学では、自動車整備士資格取得のためにeラーニングを活用している。このeラーニングシステムは、本学独自のシステムであり、「コーカくん」(図Ⅱ-B-1)の愛称で親しまれている。「コーカくん」は、パソコン、携帯電話(スマートフォン含む)に対応し、過去に出題された自動車整備士登録試験問題を何度も繰り返し反復することができるシステムである。また、問題だけに留まらず、教員による解説も備わっているために、多くの学生が利用している。

「コーカくん」開設当初は自動車整備士登録試



図Ⅱ-B-1
コーカくんのトップ画面

験問題サイトのみであったが、本学が推奨しているその他の資格取得にも対応できるように低圧電気試験、中古車査定士試験、ガス溶接試験の3講座を追加し、随時改良を続けて今日に至っている。「コーカくん」の主な取り組みを表Ⅱ-B-6に示す。

表Ⅱ-B-6 「コーカくん」の変遷

平成 21 年度	<p>学生に最も身近で手軽なモバイルコンピュータとして使用されているケータイ電話を利用し、いつでもどこでも気軽に自動車整備士試験の学習をさせるために平成 21 年に整備士試験問題サイト（ケータイサイト）「コーカくん」を作成し学生に公開した。</p> <p>主な機能</p> <p>①年月により問題を検索し解答する機能</p> <p>②問題を分類別に検索して解答する機能</p>
平成 22 年度	<p>①前年度は問題に対する解説がなかったために、より理解度を深めるため問題解答後解説が表示される機能を追加した。そのため学科の教員の協力を得て問題解説を作成し公開した。</p> <p>②学生へ連絡事項を明示する連絡掲示板を作成した。</p>
平成 23 年度	<p>①自動車整備士試験問題サイトのシステムを応用して他の資格を学習できるシステムを作成しコーカくんを総合資格サイトとした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低圧電気試験問題サイト ・中古車査定士試験問題サイト ・ガス溶接試験問題サイト ・危険物乙4試験問題サイト（未公開） <p>②スマートフォンの急激な普及に対しスマートフォンでもコーカくんが便利に行えるようにコーカくんスマホサイトの作成を行った。</p>
平成 24 年度	<p>①平成 23 年度に作成した「低圧電気試験問題サイト」「ガス溶接試験問題サイト」に問題を入力し学生に公開した。</p> <p>②PCにて学習を行えるようにコーカくん学生用PCサイト（自動車整備士試験問題サイトのみ）を作成し公開した。PC独自の機能としては問題を40問続けて行い採点できる「テスト」機能を追加した。</p> <p>③教員用のためのサイトを作成した。主な機能は問題の検索、学生の学習履歴の閲覧である。</p> <p>③コーカくん管理者用のサイトを作成した。主な機能は問題の管理と学生データの管理である。</p>
平成 25 年度	<p>①理解度を高めるために、難易度の高い問題に対しては解説動画を作成し学生に公開した。問題解答後に解説動画を閲覧できる仕組みとなっている。</p>

平成 26 年度	<p>①平成 23 年度に作成した「中古車査定士試験問題サイト」に問題を入力し学生に公開した。</p> <p>②解答した問題に対して「理解度」を記録する機能を追加した（自動車整備士試験問題サイト）。問題を検索する時などに活用できる。</p>
----------	--

教室及び実習室には、専用のパソコンとプロジェクターが備わっている。そのために、本学ではパワーポイントの作成方法などの教員の技術向上のため FD 活動を行っている。最近では、タブレット端末の普及もあり、教員が自らタブレットを利用した授業を展開している。

(b) 課題

学生による授業評価は次年度以降の授業改善のために有効に活用されているが、教職員、学生への開示は現在のところ行われていない。授業評価の結果を他の教員や学生に開示することを含めて授業評価の在り方を検討する時期に来ている。

自動車工学実習は、テーマごとにレポート課題を課しており、図書館の利用を促しているが、インターネット等で簡単に色々な事柄を調べることができるため、図書館を利用する学生は少ない。ネット時代における有効な図書館の利用方法を検討する必要がある。

[区分 基準Ⅱ-B-2 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学習支援を組織的に 行っている。]

■ 基準Ⅱ-B-2 の自己点検・評価

(a) 現状

各学期初めのオリエンテーションにおいて、学習の動機付けに焦点を合わせた学習の方法や科目の選択など、学修全般について説明を実施している。

学習支援のための印刷物として、教育目標・方針、履修方法、授業概要（シラバス）、学生生活全般にわたる支援事項等が記載されている学生便覧を発行している。なお、学生便覧はホームページでも閲覧できるようにしている。

入学試験の面接の中で数学の口頭試問を行い、学習支援が必要であると判断した者に対しては入学前に数学の通信添削指導を行っている。入学時に実施する数学と工学基礎の素養試験により「数学Ⅰ」と「工学基礎」の2科目は習熟度別のグループ編成とし、各々のレベルに適した授業内容としている。また、「数学Ⅰ」では習熟度の低い3グループで4回の習得度の確認を実施し、成績不振者には補習授業を行い基礎学力の向上を図っている。なお、「数学Ⅰ」と「工学基礎」は科目担当者が中心となり3段階の難易度別の練習問題を取り入れた独自のテキストを作成し、出身高校での学習内容の違いや個々の習熟度に対応できるように配慮している。

クラス担任制度及びオフィスアワーにより学生個々の修学上の悩みなどの相談にのり、生活・学習・進路指導をきめ細かく行っている。また、学生相談室には臨床心理

士が常駐し、学習面以外の相談にも対応し、心のサポートを行っている。

自動車工学実習関係については、経験ある専門担当者が対応し、実習中あるいは授業後に指導を受けられるように対応している。全体的には、授業内容を教材や進度で段階的に修得できるように工夫し、学生の反応を考慮しながら、それぞれの学生レベルに応じた対応ができるように配慮している。

4年制大学編入を目指す学生に対しては、「英語Ⅱ」「数学Ⅱ」「物理学」「材料力学」「熱力学」「流体工学」等、4年制大学工学部への編入に役立つ教養科目と機械系科目を選択科目として設定している。

平成25年度より留学生対象の入学試験を実施しているが、平成26年度はネパールからの留学生が1名入学した。平成26年度より短期留学生の派遣・受入を検討するための国際交流委員会を愛知工科大学と共同で開催している。

授業科目の満足度は半期ごとの授業評価アンケートで調査しているが、2年間全体の「満足度調査」【備付資料21】は卒業時に実施している。平成26年度満足度調査の質問内容と集計結果を表Ⅱ-B-7,8に示す。また、「満足」と「どちらかといえば満足」を合わせた質問内容別満足度を平成26年度までの5年間集計した結果を表Ⅱ-B-9及び図Ⅱ-B-2に示す。学習支援に関する質問内容は③④⑤⑦であるが、いずれも満足度が8割以上を占めている点から学習支援に対する評価は概ね良いものと判断している。

表Ⅱ-B-7 平成26年度 満足度アンケート質問内容

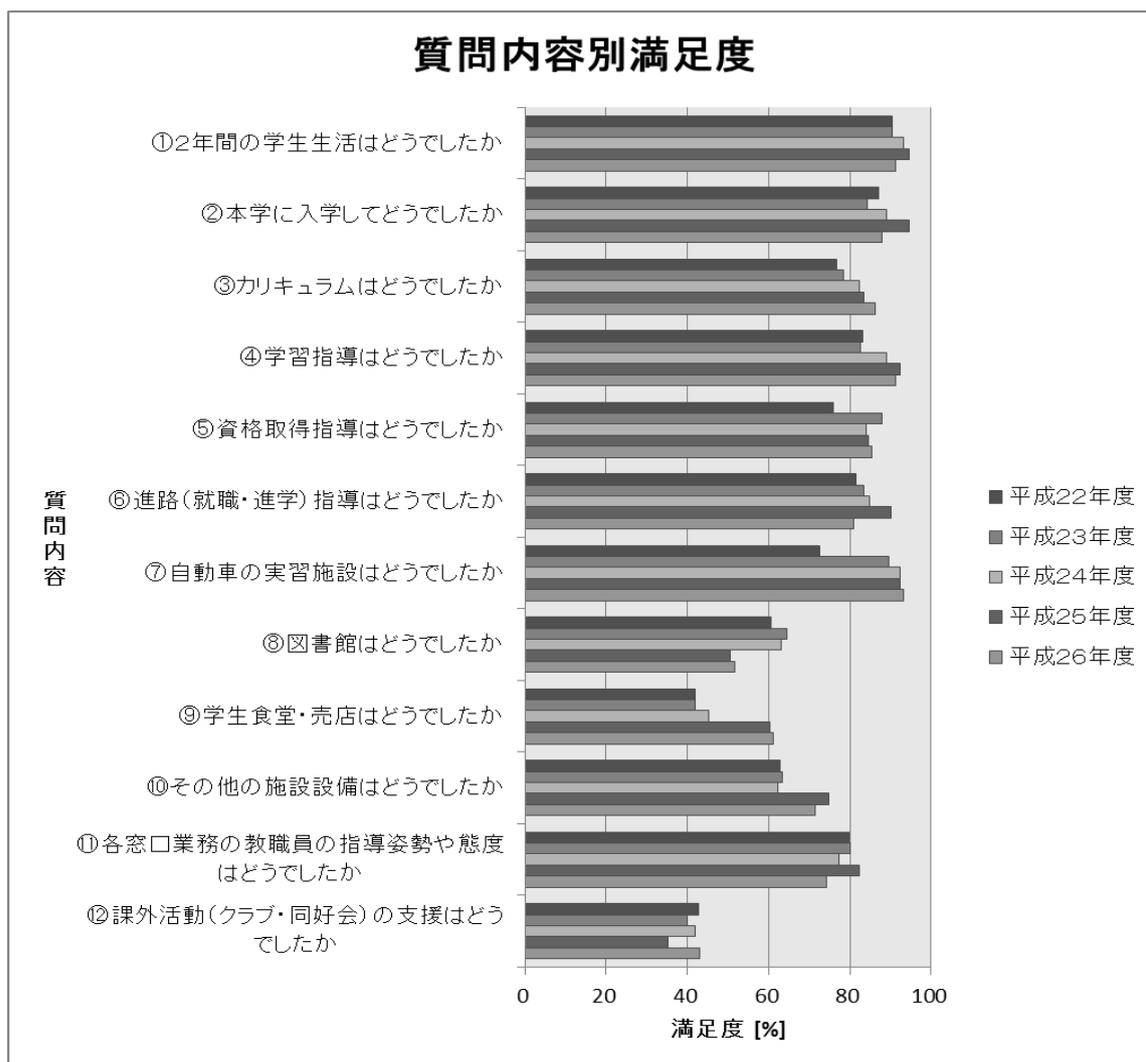
質問内容	回答
①2年間の学生生活はどうでしたか。	1 満足
②本学に入学してどうでしたか。	
③カリキュラムはどうでしたか。 (カリキュラムとは、2年間で習う科目、および科目配列)	2 どちらかといえば満足
④学習指導はどうでしたか。	3 どちらかといえば不満
⑤資格取得指導はどうでしたか。	
⑥進路(就職・進学)指導はどうでしたか。	4 不満
⑦自動車の実習施設はどうでしたか。	
⑧図書館はどうでしたか。	5 該当なし
⑨学生食堂・売店はどうでしたか。	
⑩その他の施設設備はどうでしたか。	
⑪各窓口業務の教職員の指導姿勢や態度はどうでしたか。	
⑫課外活動(クラブ・同好会)の支援はどうでしたか。	

表Ⅱ-B-8 平成26年度 満足度アンケート調査結果

質問	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫
1 [%]	37.1	43.1	25.9	30.2	36.2	37.1	61.2	19.8	17.2	27.6	22.4	17.2
2 [%]	54.3	44.8	60.3	61.2	49.1	44.0	31.9	31.9	44.0	44.0	51.7	25.9
3 [%]	6.9	10.3	12.1	7.8	6.9	14.7	5.2	9.5	15.5	10.3	10.3	6.9
4 [%]	1.7	1.7	1.7	0.9	3.4	4.3	0.9	5.2	19.0	7.8	9.5	3.4
5 [%]	0.0	0.0	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	33.6	4.3	9.5	6.0	46.6
空白 [%]	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0	0.9	0.0	0.0

表Ⅱ-B-9 質問内容別満足度（満足+どちらかといえば満足）

質問内容	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
①2年間の学生生活はどうでしたか	90.3	90.5	93.3	94.5	91.4
②本学に入学してどうでしたか	87.1	84.4	89.1	94.5	87.9
③カリキュラムはどうでしたか	76.7	78.3	82.4	83.5	86.2
④学習指導はどうでしたか	83.1	82.7	89.1	92.3	91.4
⑤資格取得指導はどうでしたか	75.9	87.8	84.0	84.6	85.3
⑥進路（就職・進学）指導はどうでしたか	81.4	83.4	84.9	90.1	81.0
⑦自動車の実習施設はどうでしたか	72.5	89.6	92.4	92.3	93.1
⑧図書館はどうでしたか	60.5	64.4	63.0	50.5	51.7
⑨学生食堂・売店はどうでしたか	41.9	41.8	45.4	60.4	61.2
⑩その他の施設設備はどうでしたか	62.9	63.5	62.2	74.7	71.6
⑪各窓口業務の教職員の指導姿勢や態度はどうでしたか	79.8	80.0	77.3	82.4	74.1
⑫課外活動（クラブ・同好会）の支援はどうでしたか	42.7	40.0	42.0	35.2	43.1



図Ⅱ-B-2 質問内容別満足度（満足＋どちらかといえば満足）

(b) 課題

「数学Ⅰ」は平成25年度より、「工学基礎」は平成26年度から練習問題を3段階の難易度に分けたテキストを作成して、習熟度別授業に対応できるものにしたが、今後はテキストの内容をさらに吟味し、習熟度別授業により適したものにする必要がある。

これまでも国内在住の外国籍の学生は存在したが、留学生入学試験で海外から直接留学生を受け入れる状況になったことで、留学生への学習面、生活面での対応を向上させる必要がある。

[区分 基準Ⅱ-B-3 学科・専攻課程の学習成果の獲得に向けて学生の生活支援を組織的に行っている。]

■ 基準Ⅱ-B-3の自己点検・評価

(a) 現状

学生の生活支援のための教職員の組織は、学生生活指導委員会の教員（学生指導、

厚生補導、就職支援、奨学金を含む生活支援）と学務課職員で構成している。

また、クラブ・同好会活動、ボランティア活動、校友会(同窓会)など、学生や卒業生が主体的に参画する活動が行われるよう支援体制も整備されている。クラブ・同好会活動への参画状況を表Ⅱ-B-10に示す。学生食堂、売店(コンビニエンスストア)、書店の設置等キャンパス・アメニティにも配慮している。遠方からの入学者のため、宿舍を設置するとともに、アパート等の紹介を行っている。通学の利便性を高めるため、図Ⅱ-B-3に示す無料スクールバスの運行を行うとともに、自車通学する学生のために駐輪場・駐車場を設置して便宜を図っている。

表Ⅱ-B-10 クラブ・同好会活動への参画状況

1. 部	団体名	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
		会員数	会員数	会員数
	学生会	2	0	2
体育系	団体名	部員数	部員数	部員数
	バスケットボール部	12	4	9
	野球部	11	12	6
	剣道	1	1	
	AUT サッカー部	6	4	8
	ソーラーカー部			10
	ヨット部		0	2
文化系	団体名			
	ロボ部		0	0
	ソーラーカー部	7	6	
	吹奏楽	6		
	電音部		6	6
	軽音楽部	4	1	1
	蒲郡フリーダム研究部	1	0	0
	映像研究		0	
	シュークリーム	7		
	シュークリーム女子部		11	6
	STELA		0	0
	プログラミング研究部		0	0

2. 同好会	団体名	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
		会員数	会員数	会員数
体育系	剣道			0
	ビリヤード	7	14	9
	サバイバルゲーム	4		
	クルージング	3		

2. 同好会	団体名	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
		会員数	会員数	会員数
体育系	KATO JAPAN	10		
	バドミントン		0	0
	バレーボール		7	8
	パフォーマンス		0	0
	硬式テニス		0	0
	卓球		0	0
	陸上競技		0	
	ボウリング		0	0
	ULTRA☆SEVEN		0	
	AUT 走友会		1	1
	球技		0	
	K 耐久			0
	ダンス			0
	文化系	ものづくり		
ラジコン		8	4	11
歴史研究会		1		
FRC			0	0
航空研究会			0	
フォトサークル			0	0
鉄道			0	1
エンジン制御			0	
エンジン制御研究				0
蒲郡 Fan			1	0
青春時代(女子軽音楽)			0	0
世界への飛躍			0	0
カードゲーム			0	
メディアコンテンツ研究			0	
DTM			0	
自動車			6	
ボードゲーム			0	
PJE(ハルスジェットエンジン)				0
自動車文化			0	0
音響			3	1
ライティング			3	3
AUT プラモデル				0
TRGP				0
談話室@PT・JT			0	

2. 同好会	団体名	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
		会員数	会員数	会員数
文化系	材料力学研究			0
	ネクストメディア研究会			0

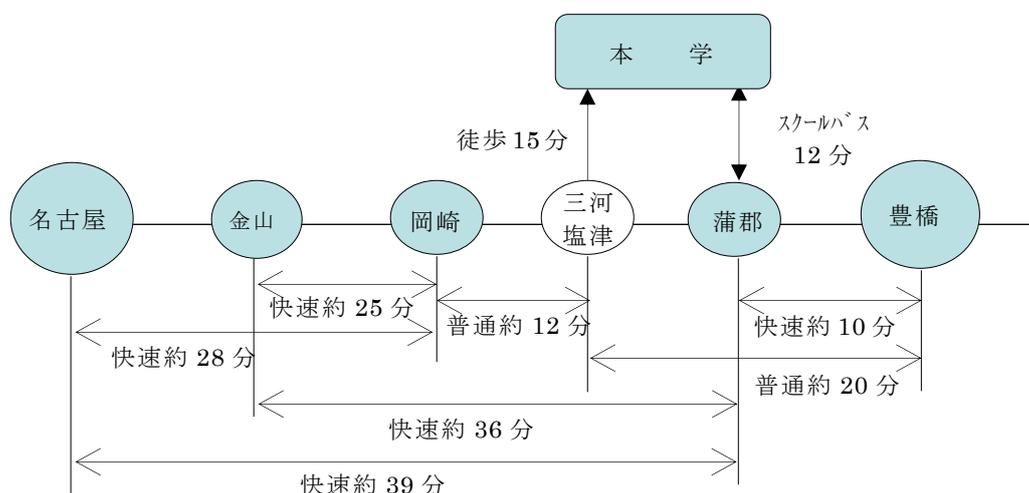


図 II -B-3 公共交通機関とスクールバスを利用する通学所要時間

学生への経済的支援は表 II -B-11 に示すように、公的機関である日本学生支援機構の奨学金、文部科学省の外国人留学生学習奨励費給付金の他、本学独自の奨学生制度として、学校法人電波学園奨学金（恒学基金）、学修奨学金制度、教育ローン利子補給奨学金、ファミリー奨学金や授業料免除制度を設けている。学生の健康管理、メンタルヘルスやカウンセリングについては常勤の臨床心理士を配置し対応している。学生相談室の利用状況を表 II -B-12 に示す。

学生生活に関する学生の意見・要望・提案等については、学内に「ご意見・ご提案箱」を設置し、提出された意見等に速やかに対処できる体制をとっている他、卒業時にアンケートを実施し学生時代の満足度等を調査し改善を図っている。

留学生については、平成 26 年度はネパールからの入学生が出てきたため、学生生活指導委員会と学務課が協力してサポート体制をとっている。また、平成 27 年度は、中国とベトナムから 3 名の留学生の入学が予定されている。

学生の社会的活動（地域活動、地域貢献、ボランティア活動）については、一定の期間活動した者に対し「社会貢献活動」の科目を単位認定する規程を設け評価する体制を整えるとともに、平成 26 年度からは学業だけでなく、ボランティア活動、課外活動、資格取得、各種講座の受講、インターンシップ、大学祭の運営などに積極的に参加した者や取り組んだ者に対し、PYE 表彰制度を設けた。PYE とは (Points for Your Efforts) 「努力の成果」の意味である。学生の社会的活動状況を表 II -B-13 に示す。

表Ⅱ-B-11 各種奨学金等利用者数（人）

年度／項目	日本学生 支援機構	授業料免除	恒学基金	教育ローン 利子補給	ファミリー 奨学金	学修奨学金
平成 24 年度	56	5	0	1	0	4
平成 25 年度	69	13	1	1	1	4
平成 26 年度	53	12	5	0	5	4

表Ⅱ-B-12 学生相談室利用状況（人）

項目／年度	平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度	
	1 年	2 年	1 年	2 年	1 年	2 年
相談内容						
学業	5(1)	3(3)	1(1)	-	-	-
進路	2(1)	18(9)	4(1)	34(3)	4(2)	-
対人	-	53(8)	52(4)	2(1)	1(1)	1(1)
学生生活	31(3)	49(7)	4(2)	9(4)	2(1)	9(2)
適応(疾病障がい)	34(3)	-	3(1)	9(3)	12(5)	4(1)
その他	1(1)	-	-	-	1(1)	23(1)
合計	73(9)	123(27)	64(9)	54(11)	20(10)	37(5)

※数値は利用回数、() 内の数値は利用者数

表Ⅱ-B-13 学生の社会的活動状況

年度	催事名	会場・実施日	開催団体	目的・内容	担当者
24	福寿稲荷ごりやく市	蒲郡市中央通り商店街 H24. 4/22, 5/27, 9/23 10/28, 11/25, H25. 3. 24	蒲郡商店街 振興組合	蒲郡市中央通 りにて市街地の 活性化	小林職員及び 学生会ほか 各クラブ・同好 会
	第 12 回森の文化祭	さがらの森 H24. 4/29	森の文化祭 実行委員会	地域交流推進	小林職員及び 学生会
	「ガマゴリ・ネバー アイランド」 蒲郡凱旋上映会	蒲郡市民会館 H24. 5. 27	蒲郡市・蒲郡 商工会議所	地域交流推進	小林職員及び 学生会

愛知工科大学自動車短期大学

年度	催事名	会場・実施日	開催団体	目的・内容	担当者
24	自家用車の日常点検講習会	愛知工科大学自動車短期大学 H24. 7/28, 10/13	蒲郡市民企画公募による「車の点検整備を推進する会」	蒲郡市等の住民に車の点検を通して交通安全の啓蒙	竹内講師、斉藤助教、亀井助教、鈴木拓助手、河合教授、学生9名
	「どえらいうまいもん祭り」	蒲郡市民会館 H24. 9. 8	蒲郡青年会議所	地域交流推進	小林職員及び学生会
25	オリジナルホバークラフトをつくろう	蒲郡市生命の科学館 H25. 2. 16	市民まるごと赤い電車応援団	地域交流推進	小林職員及び学生会
	第13回森の文化祭	さがらの森 H25. 4. 28	森の文化祭実行委員会	地域交流推進	小林職員及び学生会
	福寿稲荷ごりやく市	蒲郡市中央通り商店街 H25. 5/26, 9/22, 10/27, 11/24, H26. 3/23	蒲郡商店街振興組合	蒲郡中央通りにて市街地の活性化	小林職員及び学生会と各クラブ・同好会
	～愛知工科大学バスボムづくり～	蒲郡市生命の海科学館 H26. 2. 22	蒲郡市生命の海科学館	蒲郡市生命の海科学館ワークショップ	小林職員及び学生会
26	幸田町町村合併60周年記念事業 わくわくキッズフェスティバル	ハピネス・ヒル・幸田 H26. 5. 3	幸田町・幸田町文化振興協会	地域交流推進	中島教授、高田教授、河合教授、掛布准教授、竹内講師、鶴飼助教、加藤助教、甲村助教、学生5名
26	第14回森の文化祭	さがらの森 H26. 4. 27	森の文化祭実行委員会	地域交流推進	小林職員及び学生会
	福寿稲荷ごりやく市	蒲郡市中央通り商店街 H26. 5/26, 9/22, 10/27, 11/24, H27. 3/23	蒲郡商店街振興組合	蒲郡中央通りにて市街地の活性化	小林職員及び学生会と各クラブ・同好会
	全国ご当地うどんサミット2014in蒲郡	ラグーナ蒲郡 H26. 11. 9	第4回全国ご当地うどんサミット2014 in 蒲郡開催委員会	地域交流推進	学生会
	～キラキラスライムを作ろう～	蒲郡市生命の海科学館 H27. 2. 21	蒲郡市生命の海科学館	蒲郡市生命の海科学館ワークショップ	小林職員及び学生会

学内の国際化への対応については、韓国の龍仁松潭大学と姉妹校提携を結び相互訪問を開始したことや、電波学園内の設置校である外国語学校から今後留学生の入学増加が見込まれることで、学内の国際化が進むことが考えられる。学生の海外研修【備付資料 23】への参加状況を表Ⅱ-B-14 に示す。海外からの留学生の受け入れは、卒業後に海外で活躍する機会が増えている日本人学生にとっても、良い刺激となる。現在 4 月期に学内で「留学生を囲む会」を開催して、学生とのコミュニケーションを深める場としているが、留学生の支援体制をさらに強化する必要があると受け止めている。

障がい者用の施設については随時設置しているが、自動車整備を中心とした教育を行っているため、危険を伴う作業や実習が多く、障がい者の受け入れは制限せざるを得ない状況であり、今後も状況を踏まえた整備をしていく必要がある。

表Ⅱ-B-14 海外研修(学生間交流)参加状況

行き先(研修先)	韓国(龍仁松潭大学)	米国(ペンシルベニア工科大学)
平成 24 年度	10 名	2 名
平成 25 年度	12 名	2 名
平成 26 年度	3 名	0 名

(b) 課題

本学学生の文化系クラブ・同好会への加入率は、3 か年平均で 13.6%、体育系クラブ・同好会への加入率は、3 か年平均で 18.9%である。少ない会員数であっても活発に活動しているクラブ・同好会はあるものの、全般には加入状況は芳しくない。課外活動等は人間形成に大切なものであり、今後参加しやすい工夫や支援が必要である。加入者増加対策の一つとして、クラブ・同好会の活動拠点の環境整備を進め活性化につなげたい。

[区分 基準Ⅱ-B-4 進路支援を行っている。]

■ 基準Ⅱ-B-4 の自己点検・評価

(a) 現状

就職支援は、学生生活指導委員会とクラス担任及びキャリア支援課が緊密に連携をとりながら協力して行っている。キャリアセンターにはキャリア支援課の事務職員が常駐し、求人開拓、企業との情報交換及び連絡、学生と企業との仲介、会社案内・求人票等の整理・閲覧などの他、資格取得や就職試験対策の支援も行っている。キャリアセンターには 6 台の学生用パソコンが設置されており、大学求人 NAVI により求人情報を検索・閲覧できるようになっている。また、本学には自動車整備関連業界の 126 社(平成 26 年度)が加盟する「愛知工科大学技術後援会」、通称「愛技会」があり、学生の就職支援(CS 講座等の講師派遣、最新の車両を用いた技術講習会、学内企業説明会の実施、就職内定者全員に対する夏休み期間中の職場体験実習【備付資料 26】)や教育・研究活動の支援(ソーラーカーレース参戦の支援、ウェブ教材コーカくん開発の支援)

を行っており、この事務局はキャリア支援課となっている。会員数は毎年順調に増加（表Ⅱ-B-15）している。平成26年度の「愛技会」加盟企業一覧を表Ⅱ-B-16に示す。

また、自動車に関する最新技術や社会人のマナーそして級友間や教職員とのコミュニケーション力を高めるため、毎年2年生に対し全員参加で1泊2日の社会研修会（研修旅行）を実施している。宿泊するホテルは、ホテルマナー等の研修目的もあって通常学生が利用するものよりもワンランク上のホテルを利用している。就職率は、平成24年度98.9%、平成25年度95.1%、平成26年度99.0%と高く、4月上旬の自動車整備士登録試験の合格発表を待って就職活動する等の特別な事情のある学生を除いて、ほぼ満足できる結果となっている。中でも自動車ディーラーや自動車メーカーなどへの専門性を活かした就職率の高いことが本学の特長である。就職・進学状況を表Ⅱ-B-17に示す。

進学支援は、愛知工科大学工学部3年次への編入（一級自動車整備士養成課程含む）及び他大学への3年次編入であるが、一級自動車整備士養成課程への編入はクラス担任を中心に指導し、他大学への3年次編入は愛知工科大学総合教育センターの協力を受けながら指導にあたっている。

表Ⅱ-B-15 愛知工科大学技術後援会会員企業数

項目\年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
会員数(社)	98	111	126

表Ⅱ-B-16 愛知工科大学技術後援会「愛技会」加盟企業一覧（平成26年度）

	会社名		会社名		会社名
1	愛知自動車(株)	46	スバル東愛知販売(株)	91	ネットヨタ浜松(株)
2	愛知スズキ販売(株)	47	瀬戸いすゞ自動車(株)	92	ネットヨタ東名古屋(株)
3	愛知トヨタ自動車(株)	48	(株)千賀自動車	93	浜松日産自動車(株)
4	愛知日産自動車(株)	49	(株)ダイハツ三重	94	(株)ビーシーエス
5	愛知日野自動車(株)	50	太平オート(株)	95	東愛知日産自動車(株)
6	愛和機械(株)	51	太陽建機レンタル(株)	96	(株)ビッグモーター
7	(株)五十鈴工作所	52	(株)タクティール	97	ファーレン名古屋中央(株)
8	いすゞ自動車近畿(株)	53	中京・愛知クライスラー(株)	98	フォード名古屋(株)
9	いすゞ自動車東海北陸(株)	54	中部資材(株)	99	フジ自動車工業(株)
10	いすゞ自動車販売(株)	55	中部三菱自動車販売(株)	100	古河機械金属(株)
11	(株)ウィン	56	つしまオート(株)	101	碧南運送(株)
12	(株)エアスト	57	(株)テラダパーツ	102	(株)ボディーションョップ杉浦
13	大阪トヨタ自動車(株)	58	東海自動車工業(株)	103	(株)ホワイトハウス
14	(株)オートボックスセブン	59	東海マツダ販売(株)	104	(株)ホンダカーズ愛知
15	岡崎ヤナセプランニング(株)	60	富山ダイハツ販売(株)	105	(株)ホンダカーズ蒲郡
16	神奈川トヨタ自動車(株)	61	トヨタL&F中部(株)	106	(株)ホンダカーズ東海
17	刈通オートテクノ(株)	62	トヨタカローラ愛知(株)	107	(株)ホンダカーズ三重
18	(株)ガレージ新和	63	トヨタカローラ愛豊(株)	108	(株)ホンダカーズ三重東
19	岐阜スズキ販売(株)	64	トヨタカローラ大阪(株)	109	(株)ホンダカーズ三河
20	岐阜トヨタ自動車(株)	65	トヨタカローラ中京(株)	110	(株)ホンダクリオ東海
21	キムラユニティー(株)	66	トヨタカローラ東海(株)	111	(株)ホンダ四輪販売三重北
22	キリックスリース(株)	67	トヨタカローラ名古屋(株)	112	(株)前田製作所
23	(株)クスハラ自動車	68	(株)トヨタレンタリース名古屋	113	三重いすゞ自動車(株)
24	(株)クライム	69	豊橋三菱ふそう自動車販売(株)	114	三重ダイハツ販売(株)
25	(株)クリエイト	70	豊橋ヤナセ(株)	115	三重トヨタ自動車(株)
26	(株)ケーユーホールディングス	71	長野トヨタ自動車(株)	116	三重日産自動車(株)
27	(株)元気屋	72	名古屋スバル自動車(株)	117	三河ダイハツ(株)
28	(株)コバック	73	名古屋ダイハツ(株)	118	三河日産自動車(株)
29	コマツリフト(株)	74	名古屋トヨペット(株)	119	(株)ヤナセ名古屋営業本部
30	サーラカーズジャパン(株)	75	西尾レントオール(株)名古屋支店	120	(株)ヤマト
31	坂井モーター(株)	76	ニチユMH I 中部(株)	121	UDトラック(株)
32	サンアイ自動車(株)	77	日産プリンス静岡販売(株)	122	ユタカコーポレーション(株)
33	(株)三州一色	78	日産プリンス名古屋販売(株)	123	吉田自動車販売(株)
34	静岡スバル自動車(株)	79	(社)日本自動車機械工具協会	124	(株)レッドバロン
35	静岡ダイハツ販売(株)	80	(社)日本自動車連盟中部本部	125	レンテック大敬(株)
36	静岡トヨタ自動車(株)	81	(株)ネクステージ	126	(株)渡辺自動車
37	静岡トヨペット(株)	82	ネットヨタ愛知(株)		
38	静岡日野自動車(株)	83	ネットヨタ静岡(株)		
39	静岡マツダ(株)	84	ネットヨタ静浜(株)		
40	新明工業(株)	85	ネットヨタ中央大阪(株)		
41	(株)スズキ自販中部	86	ネットヨタ中京(株)		
42	(株)スズキ自販東海	87	ネットヨタ中部(株)		
43	(株)スズキ自販浜松	88	ネットヨタ東海(株)		
44	(株)スズキ自販三重	89	ネットヨタ富山(株)		
45	(株)スズキマリン	90	ネットヨタ名古屋(株)		

表Ⅱ-B-17 就職・進学状況

項目\年度	平成 24 年度	平成 25 年度	平成 26 年度
卒業者数	123	106	126
進学希望者数	31	24	22
進学者数	31	24	22
進学率	100	100	100
就職希望者数	89	82	103
就職者数 (a)	88	78	102
就職率	98.9%	95.1%	99.0%
専門職就職者数 (b)	86	71	99
専門職就職率 (b/a) × 100	97.7%	91.0%	97.1%

(専門職就職とは自動車整備などの自動車工学の専門性を活かす就職を意味する。)

(b) 課題

進路未決定者をゼロにすることが最も重要な課題となる。そのためには進路に関する情報提供をさらに進め、就職活動などの不活発学生への働きかけを強める対策の検討が課題である。

[区分 基準Ⅱ-B-5 入学者受け入れの方針を受験生に対して明確に示している。]

■ 基準Ⅱ-B-5 の自己点検・評価

(a) 現状

学生募集要項には、巻頭に「建学の精神」、「教育指針」、「教育目標」とともに「アドミッション・ポリシー」を掲げ、広く受験生に対し入学者受け入れ方針を公示している。加えて、ホームページ内の入学情報のページにも記載されており、適宜、受験生が容易に認識できるように配慮している。

外部からの受験に関する問い合わせは、主に事務局の入試広報課が対応している。資料請求の媒体は、広告や受験関連印刷物などによる業者企画の媒体と、オープンキャンパスや出向説明会などの本学が主導する企画の媒体とに大別される。近年、急激な伸張を示したリクルートやマイナビなどの業者が運営する進学サイトからのアプローチはとどまるところを知らず、高校生のスマートフォン所持率が約 90%という情報通信社会の発展を裏付けるものとなっている。よって、電話やファックスによる問い合わせ・資料請求の数の割合は減少の一途をたどり、メールによる問い合わせが激増しているのが特徴的である。このような電子媒体による問い合わせが煩雑にならないように、入試広報独自のアドレス「nyushi@aut.ac.jp」に集約し、遺漏のないようにしている。また、問い合わせのあった受験生に対しては、SNS を使用し、本学からの情報発信も行っている。資料請求者の各媒体に対する内訳を表Ⅱ-B-18 に示す。

表Ⅱ-B-18 資料請求者の各媒体からのアクセス数（件）

年度	業者企画HP・ネット	本学HP・携帯	業者企画雑誌等
平成25年度募集	258 (328)	129 (32)	417 (321)
平成26年度募集	542 (278)	148 (62)	871 (217)

※（ ）内は、大学・短大 両校希望者

広報活動および入試事務の業務は、事務局の入試広報課で遂行している。また、委員会組織として入試・広報委員会を設けており、内訳は委員長、副委員長、委員 5 名の計 7 名で、入試関連業務として A0 入試の立案・運営、各種入学試験に関する業務を、また広報関連業務として、パンフレットの作成及び校正、模擬授業への出向、オープンキャンパスのメニュー作成などを行っている。入試・広報委員会と入試広報課は、随時、綿密な連絡を取りながら業務を進めている。平成 25 年度、26 年度に行った入学試験は次のとおりである。

1. 指定校推薦入学試験（前期）【提出資料 9】
2. 指定校推薦入学試験（後期）【提出資料 9】
3. 公募制推薦入学試験（前期）【提出資料 7】
一般推薦・専門高校推薦・女子特別推薦・自己推薦
4. 公募制推薦入学試験（後期）【提出資料 7】
一般推薦・専門高校推薦・女子特別推薦・自己推薦
5. 一般入学試験（前期）【提出資料 7】
6. 一般入学試験（中期）【提出資料 7】
7. 一般入学試験（後期）【提出資料 7】
8. 大学入試センター利用入学試験（前期）【提出資料 7】
9. 大学入試センター利用入学試験（後期）【提出資料 7】
10. 社会人入学試験【提出資料 7】
11. A0 入学試験（前期）【提出資料 8】【提出資料 11】
12. A0 入学試験（後期）【提出資料 8】【提出資料 11】
13. 外国人留学生試験（1、2、3 期）【提出資料 12】【提出資料 13】

ここで、外国人留学生試験については、平成 27 年度（2015）外国人留学生募集要項に示すように、平成 25 年度から新しく取り組みを始めた。これは、外国人留学生に対して広く学びの門戸を広げ、自動車業界の国際的な発展に寄与することを目的としている。平成 26 年度は 1 名の留学生がこの試験区分を利用し入学している。

推薦入試群においては、入学願書、調査書、推薦書、志望理由書（指定校推薦入学試験及び自己推薦入学試験は除く）に加え、面接試験の結果を基に選考する。一般入試群に関しては、入学願書、調査書、筆記試験及び面接試験を基に選考する。大学入試センター利用入学試験は、入学願書、センター試験及び面接試験の結果を基に選考する。社会人入学試験は、入学願書、調査書、自己推薦書に加え、面接試験の結果を基に選考する。A0 入学試験については、学力に現れることの少ない自動車に対する熱

意や情熱などを評価するため、受講態度とレポート、面接試験などで多面的に受験者を捉えて選考する。このようにすべての入学試験に対して面接試験を課し、アドミッション・ポリシーを理解し、賛同しているかを確認した後、試験の可否を教授会の議に付して判断することとしており、どの試験区分も厳正かつ正確に選抜試験を実施している。

入学試験合格者に対しては、「入学手続き案内」【備付資料 13】を送付し、入学までに授業や学生生活についての情報を提供している。また、ホームページに「ニュース&トピックス」と題して、学内行事の情報を随時写真入りで簡潔にまとめている。これにより次年度 4 月からの学校生活の細かい情報を得ることができ、新生活に対する不安を取り除き、希望と期待を抱かせるようにしている。同じく、ホームページ内には「ウェブマガジン」や「蒲郡体験レポート」などのコンテンツを準備し、主に女子学生の日常の学校生活の紹介や、本学周辺の観光スポットを紹介するなどして、少人数ではあるが本学に入学する女子の受験生に有益な情報を提供するとともに、下宿予定の受験生には蒲郡の町の様子を事前に知ることが出来るようになっている。

加えて、女子特別推薦入試奨学金制度により、女子学生の勧誘に力を入れている。また、ホームページ内には工学実習のムービーが見られるコーナーを設け、臨場感のある実習授業も疑似体験できるようになっている。

入学後は、入学式の翌日から 3 日間、オリエンテーションを行い、各部署からのきめの細かい指導や、担任からの今後の大学生活に関する実際の動き、実習授業に関するガイダンスなどを通して、就学環境への無理のない適応を図っている。また、受験生だけでなく受験生の保護者に対しても様々な情報提供をする目的で、「保護者のための大学入学ナビ」【備付資料 14】を作成し、主にオープンキャンパスに生徒と共に来校される保護者に対して配布し、本学の学生支援体制について紹介している。

(b) 課題

資料請求・問い合わせなどについて、電子媒体によるものであれば、校舎閉鎖日や長期休暇期間中であっても遠隔地より作業が可能であるが、実際の訪問や、電話に関しては依然として長期休暇中が手薄になっていることが否めない。よって、今後、人員配置や担当人数の増加などの更なる工夫が必要である。また、今後とも一定量の入学者が見込める学園設置の高等課程の生徒に対して、より一層の連携を図っていく必要がある。加えて、留学生からの問い合わせが少しずつではあるが増えており、今後増えることが予想される。よって、法人事務局の国際交流室との連携を図りながら、ホームページやパンフレット、募集要項の多言語化などの留学生受け入れのための体制を強化する必要がある。

■ テーマ 基準Ⅱ・B 学生支援の改善計画

学生による授業評価は次年度以降の授業改善のために有効に活用されているが、教職員、学生への開示は現在のところ行われていない。今後は授業評価の結果を他の教員や学生に開示することを含め、授業評価の在り方を改めて検討する必要がある。

レポート課題を課すことで、図書館の利用を促しているが、インターネット等で簡単に色々な事柄を調べることができるため図書館を利用する学生は少ない。ネット時代における有効な図書館の利用方法を学科全体で検討する必要がある。

「数学Ⅰ」は平成25年度、「工学基礎」は平成26年度から練習問題を3段階の難易度に分け習熟度別授業に対応したテキストを作成して使用している。今後はテキストの内容を吟味し、習熟度別授業により適したものに改善するため毎年改訂を行う。

これまで国内在住の外国籍の学生は存在したが、留学生入学試験で海外から直接留学生を受け入れる状況になったことで、留学生の受け入れについて組織的な体制を整える必要がある。

生活支援で改善の必要性が高いのは、食堂や売店などであり、原因は価格であったりメニューの内容であったりしている。学内の食堂や売店の運営は外部業者に委託しているが、満足度調査の結果を踏まえ、業者に改善の申し入れをしていきたい。クラブ活動や同好会については、愛知工科大学と合同で実施しているが、授業時間や資格取得の講座などによりゆとりがないため加入者は少ない。しかし、人間形成の場であり、加入者を増加させる必要がある。ボランティア活動などの地域貢献については、学生会が窓口となっているが、ボランティアに参加の意思はあるものの、情報が行き届いてないため参加できない者もあるので、ボランティア専用の掲示板を設け、ボランティア希望者の登録制度を設けることを検討したい。留学生の支援については平成27年度から4名が在学する予定となっており、学生生活指導委員会と学務課が協力して支援に当たるが、愛知工科大学も含めた先輩の留学生を活用するチューター制度なども検討したい。進路支援での改善は、多様な希望に対する支援が必要となっている。勿論、自動車整備士の就職を支援するための後援会（愛技会）はこれまで以上に会員を増加させ充実させるが、自動車メーカー等製造業の技術部門への就職希望者が増加しており、これに対応する学生生活指導委員会の体制も強化したい。進学については、国公立を含めた他大学への編入に対しては、愛知工科大学総合教育センターを活用して学力の向上に努めたい。

入学者に対する今後の改善は、女子学生の入学数増加のための方策の検討である。女性の整備士は、年々企業からの要望も高くなってきている。これは慢性的な整備士の不足を、従来の男性にとどまらず、女性の人材を開拓することで整備士の安定的な供給を実現しようとする狙いがある。この社会的な要望に対応するためにも女子生徒への手厚いプレゼンテーションを構築する必要がある。

◆参考資料

資料名	資料番号
・学生便覧 2014	【提 1】
・2015 大学案内	【提 3】
・平成 27 年度 学生募集要項	【提 7】
・平成 26 年度 学生募集要項 (A0 入試含む)	【提 8】
・平成 27 年度 指定校推薦入学試験学生募集要項	【提 9】
・平成 26 年度 指定校推薦入学試験学生募集要項	【提 10】

・平成 27 年度 A0 入学試験学生募集要項	【提 11】
・2015 外国人留学生募集要項	【提 12】
・2014 外国人留学生募集要項	【提 13】
・2014 大学案内	【提 15】
・自動車工業学科進路先一覧(平成 26 年度～平成 24 年度)	【備 4】
・平成 27 年度 愛知工科大学自動車短期大学入学手続き案内	【備 13】
・保護者のための大学入学ナビ	【備 14】
・平成 27 年度 外国人留学生入学手続き案内	【備 15】
・入学前添削指導資料(2014 年度入学生特別問題綴り)	【備 16】
・平成 26 年度 オリエンテーション／ガイダンス実施要領	【備 17】
・学籍簿様式	【備 18】
・学生による授業評価アンケート様式	【備 19】
・学生による授業評価アンケート結果	【備 20】
・卒業生アンケートの調査結果 「満足度調査」	【備 21】
・科目等履修生募集要項(社会人受け入れ)	【備 22】
・ソウル・アメリカ研修案内	【備 23】
・FD 活動(平成 26～平成 24 年度)	【備 24】
・SD 活動(平成 26～平成 24 年度)	【備 25】
・職場体験実習報告	【備 26】

■ 基準Ⅱ 教育課程と学生支援の行動計画

学生食堂や売店等の改善については、委託業者との話し合いの場をもち、早期に改善できるよう働き掛けたい。クラブ活動等の支援については、地域の特性を生かしたクラブ・同好会の設立と育成に力を入れたい。ボランティア活動に対しては、掲示板による啓蒙や参加希望者の登録制度などを検討したい。留学生への支援体制は、留学生の入学状況を見ながら適切に対応したい。就職支援においては、後援会会員企業数の増加を図るとともに、その連携を強化したい。また、就職後の離職者を少しでも減らせるよう、在学中にメンタル面に関する講座を開講し、悩みなどに対処できるようなカリキュラムを追加する予定である。多様化する進路指導への対応は、学生生活指導委員会で検討し、キャリア支援課と愛知工科大学総合教育センターとの連携協力の下、学生の夢の実現に継続して取り組むたい。

女子生徒へのプレゼンテーションの一方策として、オープンキャンパスに参加した女子生徒が安心して入学に推移できるように、在学している女子学生にボランティアを募り、オープンキャンパスに参加した女子生徒自身が将来像を容易に想像できる環境づくりを計画している。

◇ 基準Ⅱについての特記事項

- (1) 以上の基準以外に教育課程と学生支援について努力している事項。

①職業教育への取り組み

本学は自動車整備士養成を中心とした教育を行っている短期大学であり、卒業生の殆どが本学で学んだ技術や資格を活かして自動車関連の企業に就職している。就職率は毎年 98%程度となっており、就職率および専門性を活かした就職という点からもほぼ満足できる結果となっている。これは、本学に設置された愛知工科大学技術後援会「愛技会」と連携し、企業が必要とする人材を育成するため、最前線で活躍する企業人による自動車の最新技術の紹介や CS(顧客満足度)教育講座、ビジネスマナー等の講座を開催していただいていることに支えられている部分大きい。こうした教育は、就職対策講座として 1 年生後期に正規科目で実施している他、入学当初(5月)よりフレッシュマンセミナーを開催して自動車整備への意識付けを行い、さらに学期の初めのオリエンテーション時や就職活動の開始時期に合わせて、職業意識向上への取り組みを実施している。これらにより、自動車整備士を中心とした自動車技術者としての技術面や人格面の向上とともに、社会が求める人材の育成に努めている。

職業教育指導は、学生生活指導委員会の教員とキャリア支援課の事務職員が連携して、職業教育の企画・計画を立案し教授会に諮った後、クラス担任と協力しながら実行している。平成 26 年度の職業教育の取り組み内容について下記の表に示す。

表 1-1 平成 26 年度職業教育の取り組み (1 年生)

実施日	行事名	内容	備考
5月19日(月)	マツダフレッシュマンセミナー	新生に自動車整備士の心構えと夢を与えるセミナー	マツダ本社の技術者が最新車両6台を用いて最新技術の紹介と夢を語る
7月31日(木)	スズキ技術講習会	フレッシュマンセミナーから2か月経過した学生に対し、より実践的な整備技術講習会	スズキ系ディーラーで働く多数の技術者(殆どが本学卒業生)がスズキ車を多数持参して実施
9月22日(月)	第1回就職ガイダンス	就職活動を開始するにあたり、心構えや対応などについての講演	就職対策講座の開始や自動車メーカーの講演会を前に、その意義を説明
9月24日(水)~26日(金)	国内自動車メーカー12社による講演会	主要自動車メーカー12社の人事担当者を迎え、各社のポリシーや望む人材などについての講演	学生が就職先を選定するための要素として、各メーカーの状況を人事担当者から直接聴く

愛知工科大学自動車短期大学

実施日	行事名	内容	備考
10月3日(金)	後援会会長の東海マツダ販売(株)人事総務部部長小島茂雄様による講演会	就職は社会人として大きな意味を持つが、その前に人間としてどう生きるかを考えるための講座 テーマは「自分の人生を考える」	人生の先輩として、また多くの学生が就職するディーラーの人事担当者としての講演は示唆に富み、人生を考える機会となった
10月31日(金)	東海マツダ販売(株)CS推進部長伊藤謙治様によるCS講演会	「CSについて考える」のテーマで講演	カーディーラーの最前線のCS活動を紹介し、日頃からの心掛けることについて学んだ
11月7日(金)	就職対策講座の中で(株)ベネッセコーポレーション本間英彦様による「面接対策講座」の講演会	多様化する面接試験で如何に対応し、自分の良い面を表現するかをロールプレイング方式により実践指導	プロの面接官を招いての講演は、学生の迷いを取り除き、自分自身に自信を持つことができるようになった
12月4日(木)	メーカー系ディーラー等で働く卒業生7名を招いてパネルディスカッション	午後開催する学内企業説明会に向けて、各企業内の様子を卒業生がディスカッションして在学生に紹介	トヨタ、日産、スズキ、ヤナセ、日野、JAFに勤務する卒業生の話は、就職先を考える上で大いに参考になった
12月4日(木)～5日(金)	学内企業説明会	後援会「愛技会」加盟会社のうち123社が参加。体育館で各社相談ブースを設置して開催	一年生全員が参加。一人当たり5社以上を訪問して、説明を聞く中で応募予定先の情報を収集した

表 1-2 平成 26 年度 職業教育の取り組み(2 年生)

実施日	行事名	内容	備考
4月4日(金)	就職活動状況調査	2年進級時の就職内定状況の確認と未決定者を掌握することで、指導今後の指導法を決定	自動車整備士としてカーディーラーを希望する者はほぼ全員が内定。未決定者は試験時期が遅いメーカー系希望者が中心

実施日	行事名	内容	備考
7月31日(木)	就職内定先で実施する職場体験実習の事前説明会	夏季休暇中に内定者全員(一部開発系企業への内定者を除く)が実施する体験実習先での注意事項などを説明	就職に対する意識を高め、企業が求める技術や人間性などについて、就職内定先現場での体験を通して、後期授業への取り組みを充実させる
8月上旬～9月上旬	職場体験実習	内定先企業43社に対して88名が参加	後援会と本学とが「良い人材を育てよう」を合言葉に両者協力により実現
9月5日(金)	(株)ベネッセコーポレーション室町めぐみ様による「社会人のマナーを考える」のテーマで講演会	敬語の使い方やビジネスマナーについて、ロールプレイングによる実践的な講演	学生は職場体験実習を終え、敬語の使い方やビジネスマナーの必要性を痛感している者が多く効果的であった

②職場体験実習

本学では、平成25年度より2年生を対象に夏期休暇を利用して、3日～5日程度の就職内定先企業における職場体験実習を実施している。

目的は、企業活動の一端に触れ、現場で必要な知識、技術、コミュニケーション、思考力を身に付け、職場で働く人々に触れることで、働くことの意義ややりがいを理解し、就職後のキャリア形成について考える機会にするためである。

本学を支援してくださる就職先企業の後援会組織として「愛知工科大学技術後援会」があり、大半の学生は、例年、2年生の6月頃までに後援会組織の企業に内定している。企業も学生の入社前に会社の雰囲気や伝えられることや、内定者との意思疎通が図れることから、いずれの企業も協力的である。平成26年度は、88名の学生がそれぞれの内定先43社で職場体験実習を実施した。

職場体験実習後の報告書によるアンケートでは、図Ⅱ-1、図Ⅱ-2に示すように、9割以上の学生が実習に参加して「大変よかった及びよかった」、実習先についても「大変よかった及びよかった」という回答があり、一定の成果を得たと考えている。

学生の感想の一部を紹介すると、「今回の職場体験実習を通じて学んだことは、仕事のやりがいや、大変さ、難しさを学びました。やりがいは、お客様の自動車を清掃して、お客様には満足して頂いたことです。大変さや難しさでは、点検などの作業はお客様に渡す時間が決まっているということです。その時間内に作業を終わらせるために効率よく作業することを学びました。」、「4日間の実習を通して、社会に出た時の礼

儀やマナーを学びました。それから作業の内容や1つ1つの部品の役割も教えてもらいとてもよかったです。学校では学べないことも学べられたのでとてもいい経験になりました。」「4Sの大切さ、作業着を汚さない使い方、効率の良い作業の仕方など学ばせていただきましたが、一番大切だと思ったのは、コミュニケーションの大切さです。自分の意見もしっかり聞いていただき返答をしてもらったり、他の人と作業が被らないように話し合っって順番を変えたりするのを見て大切だと学びました。」などと記載されている（詳細については、備付資料 26 参照）。

このことより、学生は、入社前に企業（職場）の雰囲気、仕事の内容、社会人として何が大切かなどを肌で学ぶことができ、意義のある職場体験になっているものと捉えている。学生アンケートを取りまとめた「職場体験報告」は、毎年開催される「愛技会・総会」時に配布し、企業にも報告している。3日～5日という短い期間ではあるが、この職場体験実習の取り組みは、現場でビジネスの仕組みを直に学び、第一線で働く社会人と接した経験は、学生たちにとっては貴重な財産となるばかりでなく、卒業までの残り半年間の学業に向けた目的意識の向上につながるものと考えます。今後はこの体験がより一層学生生活に生かせるように改善に努めたい。

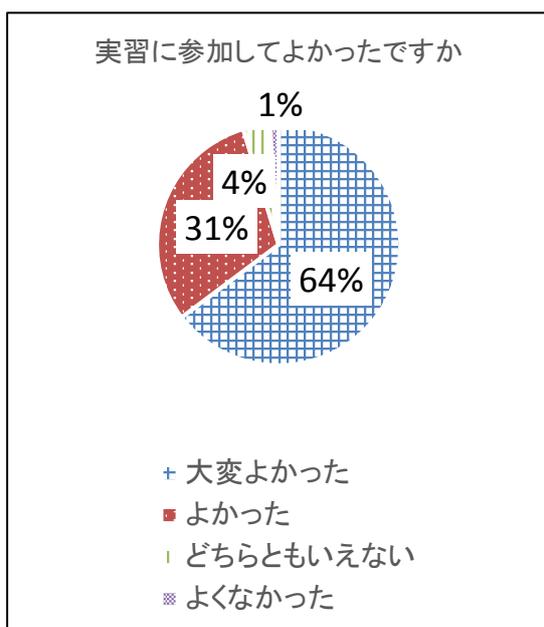


図 II-1 学生の印象

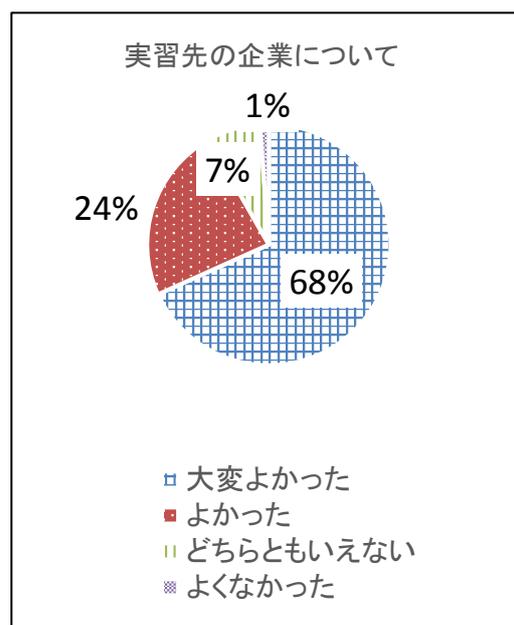


図 II-2 企業の印象

(2) 特別の事由や事情があり、以上の基準の求めることが実現（達成）できない事項。

特になし

【基準Ⅲ 教育資源と財的資源】

■ 基準Ⅲの自己点検・評価の概要

本学は、専任教員 23 名、助手 3 名、専任事務員 4 名で構成され短期大学設置基準を準拠すると同時に、国土交通省が定める基準にも準拠している。また、二級ガソリン自動車整備士及び二級ジーゼル自動車整備士の国家試験の実技試験免除のための講習会が 2 年次の 10 月から 3 月まで実施されているが、これについても、専任教員及び愛知工科大学の一部の教員（指導員有資格者）が所定時間担当している。

教員研究活動は、所属学会、愛知工科大学紀要、自動車整備技術に関する研究報告誌等で公表され、その経歴、研究業績等は、「教員の個人調書」にて毎年更新している。

事務組織の責任体制は、学校法人電波学園組織規程、愛知工科大学自動車短期大学事務組織規程及び事務分掌規程により、事務の円滑かつ適正な運用が図られている。また、事務職員は、事務局長のもとに各部署を超え協働することが重要であると自覚し職務を遂行している。SD 活動についても、積極的に活動している。また、教職協働体制の中で学習成果を向上させるため、必要に応じて各委員会に参加し、課題の共有、解決に取り組んでいる。

施設設備の維持管理は、学校法人電波学園経理規程及び学校法人電波学園資産運用規程などに基づいた処理が適切に行われている。

火災・地震対策、防災対策については、愛知工科大学・愛知工科大学自動車短期大学危機管理規程等を整備し、「防災マニュアル」、「防災カード」の配布、緊急地震警報設備の設置をしている。平成 25 年度からは、災害時の学生、教職員の安否確認メールの配信サービスを導入し、安全確保と安否確認が取れる体制となっている。

技術的資源の整備状況は、愛知工科大学メディア基盤センターが中心となり、技術支援、維持管理を行い、将来計画を策定し、学内 LAN も整備されている。また、e ラーニングを利用した自学自習システム「コーカくん」を活用し、資格取得対策など学習成果向上のための教育環境整備も行っている。

【テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源】

【区分 基準Ⅲ-A-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教員組織を整備している。】

■ 基準Ⅲ-A-1 の自己点検・評価

(a) 現状

本学は、単科の短期大学であり、教員構成は表Ⅲ-A-1に示すとおり、短期大学設置基準を踏まえて必要な専任教員を配置するとともに、専任教員の学位・業績等の資格要件は、短期大学設置基準に基づき整備された愛知工科大学自動車短期大学教員選考基準の規程に定められている。短期大学設置基準の教員数を充足していることはもちろんであるが、さらに、国土交通省の認定大学であることから「自動車整備士養成施設の指定等の基準」に基づく必要な教員数（学科指導員や実習指導員）を適切に配置している。従って、専門分野の主要な授業科目は、学習成果を高めるため専任教員が担当している。また、学科の教育課程編成・実施の方針に即した教員を補助教員も含

めて配置している。【備付資料28】 教員研究活動は、所属学会、愛知工科大学紀要【備付資料29】、自動車整備技術に関する研究報告誌【備付資料30】等で公表され、その経歴、研究業績等は、「教員の個人調書」【備付資料27】にて毎年更新している。

教員の採用・昇任は、平成25年度は准教授に1名と助教に1名、平成26年度は准教授に1名を、それぞれ職員任用及び昇任規程に基づき設置された諮問委員会に諮問し、学長は、教授会の承認を経て理事長に推薦し、任用・昇任を行っている。

表Ⅲ-A-1 教員組織の概要（人）（平成26年度）

学科等名	専任教員数					設置基準 で定める 教員数 〔イ〕	短期大学全体 の入学定員に 応じて定める 専任教員数 〔ロ〕	設置基準 で定める 教授数	助手	非常勤 教員	備考
	教授	准教授	講師	助教	計						
自動車工業学科	7	3	4	9	23	10		3	3	5	
（小計）	7	3	4	9	23	10		3	3		
〔その他の組織 等〕											
短期大学全体の 入学定員に 応じて定める 専任教員数〔ロ〕							4	2			
（合計）	7	3	4	9	23		14	5	3		

(b) 課題

現在のところ設置基準に準拠した教員数を満たしており、特に問題はないが構成年齢【備付資料31】が高くなっているため、定年に伴う補充計画においては、若手教員の採用を計画的に行う必要がある。

[区分 基準Ⅲ-A-2 専任教員は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて教育研究活動を行っている。]

■ 基準Ⅲ-A-2 の自己点検・評価

(a) 現状

専任教員は、単独あるいはグループで研究活動等を行い、愛知工科大学紀要、自動車整備技術に関する研究報告誌、その他の学会講演会等の発表の機会を利用して、研究成果等を公表しており、それらの研究成果等は愛知工科大学紀要巻末に業績リストとして掲載し、毎年度公開されている。表Ⅲ-A-2 に専任教員の研究実績を示す。

表Ⅲ-A-2 平成 24 年度～26 年度の専任教員の研究実績

学科名	氏名	職名	研究業績				国際的 活動の 有無	社会的 活動の 有無	備考
			著作 数	論文 数	学会等 発表数	その他			
自動車 工業学 科	中島守	教授	9	3	4		有	有	学科長
	橋本孝明	教授		2	4	3	無	有	
	河合末利	教授	1				無	有	
	森勝行	教授	4		2		無	有	
	高田富男	教授	3				有	有	
	永田英雄	教授	2	1	1		無	有	
	鈴木宏和	教授		1			無	有	
	服部幸廣	准教授	2	4			無	有	
	掛布知仁	准教授	2		2		無	有	
	吉田昌央	准教授	4	1	5		有	有	
	竹内嗣昇	講師					無	有	
	三品明博	講師			2		無	有	
	平野博敏	講師	3	1	1		無	有	
	高田浩充	講師	5	1	1		無	有	
	長谷川康和	助教		1	4	2	無	有	
	鶴飼達也	助教		1		1	無	有	
	齋藤健	助教					無	有	
	加藤寛	助教		1		1	無	有	
	鈴木規文	助教			2		無	有	
	小野淳一	助教		1	1		無	有	
	岩瀬正幸	助教		2	1		無	有	
亀井幹雄	助教					無	有		
甲村一貴	助教		2			無	有		
小野秀文	助手	3	1	1		無	有		
川村貴裕	助手	3	1			無	有		
鈴木拓也	助手					無	有		

研究活動に関する経費として、個人研究費、教育改革・特別研究推進プロジェクト経費、研究旅費が設けられている。個人研究費については、電波学園大学教員研究費規程に定められている。専任教員の個人研究費としては、教授 10 万円、准教授 8 万円、講師・助教 5 万円、助手 3 万円となっている。教育改革・特別研究推進プロジェクト経費については、電波学園大学教育改革・プロジェクト教育研究経費規程を設け、1 件当たりの支給限度額は 200 万円となっている。研究旅費については、電波学園大学教員研究旅費規程があり、教授 7 万円、准教授 7 万円、講師・助教 5 万円、助手 3 万

円となっている。

専任教員は、外部研究費等の獲得に努力しているが、獲得状況は必ずしも十分ではない。表Ⅲ-A-3 に専任教員の外部研究費等の獲得実績を示す。【備付資料 32】

表Ⅲ-A-3 外部研究資金の申請・採択状況

外部資金調達先等		平成 24 年度		平成 25 年度		平成 26 年度	
		申請数	採択	申請数	採択	申請数	採択
科学研究費助成事業		0	0	0	0	0	0
その他の外部研究資金	(財)東京自動車 技術普及協会	1	1	1	1	1	1
合計		1	1	1	1	1	1

専任教員が研究を行う教員室、研究室等が整備されている。さらに、教務関係、学生関係の校務分掌のため、愛知工科大学と共有の学務課教員室及び自動車工業学科関係の校務分掌のための自動車工業学科教員室が設置されている。これらの教員室も一部教員は研究のためにも活用している。教員室の概要を表Ⅲ-A-4 に示す。また、助教以上の教員については、個室の研究室が与えられており、各自の研究活動や教育準備を行っている。また、助手については校務分掌のため、自動車工業学科教員室にて自席が確保されている。教員個人の研究室の状況を表Ⅲ-A-5 に示す。

表Ⅲ-A-4 教員室一覧

名称	場所	広さ(m ²)	備考
学務課教員室	2号館1階(2102)	163.2	
自動車工業学科教員室	自動車棟2階(3253)	161.3	

表Ⅲ-A-5 研究室一覧

氏名	職名	号室	広さ(m ²)	備考
中島守	教授	2308	38.8	学科長
橋本孝明	教授	6401	23.3	
河合末利	教授	2304	38.8	
森勝行	教授	2305	38.8	
高田富男	教授	2307	38.8	
永田英雄	教授	2303	38.8	
鈴木宏和	教授	2402	38.8	
服部幸廣	准教授	2403	38.8	
掛布知仁	准教授	2306	38.8	
吉田昌央	准教授	2404	38.8	

氏名	職名	号室	広さ(m ²)	備考
竹内嗣昇	講師	2405	38.8	
三品明博	講師	2408	38.8	
平野博敏	講師	2406	38.8	
高田浩充	講師	2409	38.8	
長谷川康和	助教	5501	19.3	
鵜飼達也	助教	5502	19.3	
齋藤健	助教	5503	19.3	
加藤寛	助教	5504	19.3	
鈴木規文	助教	5506	19.3	
小野淳一	助教	5507	19.3	
岩瀬正幸	助教	5508	19.3	
亀井幹雄	助教	5509	19.3	
甲村一貴	助教	5510	19.3	
小野秀文	助手	3253	161.3	自動車工業学科教員室
川村貴裕	助手	〃	〃	〃
鈴木拓也	助手	〃	〃	〃

専用の研究設備や研究機器は十分ではないが、本学の特性上、教育設備を活用しての研究も実施されている。自動車工業学科に関する実験室、実習室の状況を表Ⅲ-A-6に示す。

表Ⅲ-A-6 実験室、実習室一覧

名称	場所(号室)	広さ(m ²)	備考
教員室	3号館1階(3108)	51.8	研究及び実習準備等に使用
工具室	3号館1階(3107)	51.8	
溶接室	3号館1階(3106)	51.8	
排気ガス分析室	3号館1階(3104)	51.8	
エンジン性能実験室	3号館1階(3103)	103.5	
電装実習室	3号館2階(3205)	124.9	
実習準備・工具室	3号館2階(3204)	83.3	
電子制御実習室	3号館2階(3203)	124.9	
ゼミナール室	3号館3階(3304)	47.3	現在教材保管庫として使用
機構整備実習室	3号館3階(3303)	207.0	別に準備室(3302)23m ² を併設
CAD/CAM実習室	6号館1階(6104)	230.0	
第3自動車実習場	5号館1階(5104)	819.7	
第1講義室(実習)	5号館1階(5103)	100.0	
第2講義室(実習)	5号館1階(5102)	100.0	
電気基礎実験室	1号館2階(1207)	77.5	

名 称	場 所 (号室)	広 さ (m ²)	備 考
第 1 製図室	1 号館 4 階 (1407)	212.6	
第 1 自動車実習場	自動車棟 1 階 (3151)	720.9	
車両検査場	自動車棟 1 階 (3152)	126.0	
走行性能実験室	自動車棟 1 階 (3154)	76.0	
第 2 自動車実習場	自動車棟 2 階 (3251)	671.6	
エンジン実習室	自動車棟 2 階 (3252)	230.1	

専任教員の研究、研修等を行う時間は、専任教員の職制に応じて確保している。大学・短期大学の教育職員の勤務に関する規程及び大学の教員の授業担当時間数に関する細則により、「1週目の授業担当責任時間数は、教授7コマ、准教授8コマ、講師・助教9コマ以上、助手9コマ以上」を原則として、担当することとなっている。これ以外の勤務時間は、各教員の校務分掌等の業務状況に応じて、学内研修・研究の時間に当てることができるようにしている。しかし、正規の教育課程に補習授業や資格取得のための講習時間等を加味すると研究時間を確保することが厳しい状況にある。

専任教員の留学、海外派遣、国際会議出席等に関する規程は、職員外国出張規程で定められているが、日常の教育指導や関連業務のこともあり活発ではない。FD活動については、愛知工科大学自動車短期大学FD委員会規程があり、規程に基づいて、関係部署とも連携しFD活動を適切に行っている。平成24年度から平成26年度に開催したFD研修会、FDセミナーを表Ⅱ-B-4に示す。

取り組みの一つとしては、月別目標を決めて学生指導に当たることで、学生とのコミュニケーションを深くし、また、教室ルールを定めることで授業効果の向上を図っている。さらに、学生による授業評価アンケート結果を基に、授業の工夫や教員の教授手法への改善に繋げている。

(b) 課題

必ずしも十分な研究費や研究旅費及び研究時間が確保されているとはいえない現状であるため、専任教員間で研究活動の取組みに差が生じている。グループ研究等を活発化するなどの対策が必要である。また、専任教員自身も外部研究費等の獲得、研究時間の捻出等に努力することは必要である。専用の研究設備や研究機器が十分でなく、教育用設備や機器を流用して研究しているのが現状であるため、専用の研究設備や研究機器の整備の必要性がある。

[区分 基準Ⅲ-A-3 学習成果を向上させるための事務組織を整備している。]

■ 基準Ⅲ-A-3 の自己点検・評価

(a) 現状

事務組織の責任体制については、学校法人電波学園組織規程、愛知工科大学自動車短期大学事務組織規程及び事務分掌規程により事務の円滑かつ適正な運営が図られるよう必要な事務組織を整え、それぞれの権限に関する分掌事務を定めるとともに、必

要な職とその職務について規定している。

また、本学事務組織は事務局及び学務課、キャリア支援課、自動車課（学務課以下を「学務課等」という）を置き、事務局には庶務課、会計課、入試広報課、図書・情報サービス課及び地域・産学研究協力室を設置している。【備付資料 36】

事務局には局長を置き、事務局職員の指揮監督を行ない、事務局次長はその補佐をする。また、事務局及び学務課等には、課長・室長・統括長を置き管轄の主任以下の職員業務を掌握する体制になっている。

専任事務職員【備付資料 33】の専門性については、所掌する業務の専門的な職能を備え、必要なパソコン技能や事務能力を発揮して、計画的に業務をこなしている。また、各部署には会計経理事務、学務事務に専門性を有する者、キャリアデベロップメント・アドバイザー資格を有しキャリアカウンセラーの職に従事する者、司書資格を有する者等、職域に応じ専門的な職能を有する事務職員を配置している。

事務関係諸規程については、学校法人電波学園組織規程、学校法人電波学園経理規程、愛知工科大学自動車短期大学事務組織規程、愛知工科大学自動車短期大学事務分掌規程等が整備されており、各規程に従い事務処理を行っている。

事務部署については、必要な事務室を整備し、事務職員それぞれにパソコンを付与している。また各部署には必要な備品等を適正に配備している。

防災対策については、大学・短期大学の防災、防火管理規程を設けており、定期的な防災訓練等の実施と学生と教職員の各人に防災マニュアル【備付資料 34】、防災カード【備付資料 35】を配布して、緊急時に対応できるようにしている。

情報セキュリティ対策として、個人情報については愛知工科大学自動車短期大学個人情報保護に関する規程、保有個人情報管理規程を整備している。コンピュータ情報セキュリティ対策は、併設する愛知工科大学のメディア基盤センターが中心となって、ファイアーウォールや不正侵入検知ソフトの導入、メールフィルタリング装置でのウイルスメールの除去、アクセス権限の設定等により外部からの不正侵入や不正プログラムの活動を防いでいる。

なお、平成 24 年度課題であったノートパソコン等のセキュリティ対策については、新規機器購入等により Windows の OS システムに対策が採られ改善した。

SD 活動に関する規程については、学校法人電波学園事務委員会規程、愛知工科大学自動車短期大学職員研修規程を整備して、事務職員の能力及び専門性の向上に努めている。SD 活動の内容については、表Ⅲ-A-7 に示すとおりである。

日常的な業務の見直しや事務処理の改善については、学内外の研修会に参加し業務の課題を把握・発見しつつ見直し改善を図っている。

また、事務職員は、教職協働体制の中で学習成果を向上させるため、教授会、自己点検・評価委員会等に委員として参加し、課題の共有・解決に取り組んでいる。

表Ⅲ-A-7 SD活動の内容（平成24年度～平成26年度）

① 外部機関でのSD活動

年度	開催日・主催	研修名・対象	研修内容
24	9月5日～7日 (独)日本学生支援機構	平成24年度 就職・キャリア支援研修会(基礎コース)	キャリア支援担当者に必要なコミュニケーション及びカウンセリングスキルの修得
	9月13日～14日 愛知県学生就職連絡協議会	平成24年度愛知県学生就職連絡協議会研修会	「買い手市場&ゆとり世代への学生対応を考える」講演
	10月2日 愛知県私大事務局長会	平成24年度職員研修会	東日本大震災に学ぶ、東海大震災に対する備えと対応
	10月3日～5日 日本私立大学協会	平成24年度(通算第49回)「大学経理部課長相当者研修会」	私学経営環境を巡る動向と諸課題の共通認識等の「基本研修」・「総合研修」・「設定課題別研修」
	10月17日～19日 日本私立大学協会	平成24年度「大学教務部課長相当者研修会(通算第50回)」	学生の能動的な学習の促進と支援の他、教員養成制度改革の動向や教職協働型FD・SDの実践。
	11月7日～9日 一般財団法人私学研修福祉会	平成24年度(通算第37回)就職部課長相当者研修会	グローバル化社会における就職支援とキャリア教育のあり方・自立・挑戦
	11月20日～22日 日本私立短期大学協会	平成24年度 私立短大経理事務等研修会	当面する諸問題の理解と基本的知識の修得及び参加者相互の交流。
	12月3日 文部科学省	公的研究費の管理・監査に関する研修会	公的研究費の管理におけるリスクや不正対策について
25	4月26日 日本高等教育評価機構	平成25年度大学・短大評価セミナー	自主的な質保証機能の向上
	6月4日 愛知県私大教務研究会	平成25年度総会・春季研究会	教務事務・学生指導等に係る諸問題
	6月26日 日本私立学校振興・共済事業団	平成25年度私立大学等経常費補助金事務責任者向け研修会	平成25年度の変更点・申請上の留意点
	7月5日 パソナグループ	平成26年度新卒採用の深層分析・企業が求める普通の社会人	短期決戦の就職活動において、企業から求められる学生の素養・大学の支援体制
	7月10日～12日 私学研修福祉会	平成25年度学生生活指導主務者研修会	学生の学ぶ場、学ぶ環境を学内においてどのように構築していくかを検討する
	8月6日 リコージャパン	平成25年度CISセミナー	学校経営に活かす予算管理と財務会計システム、システムによる校納金請求・収納事務と延納者管理

愛知工科大学自動車短期大学

年度	開催日・主催	研修名・対象	研修内容
25	8月23日 日本学生支援機構	平成25年度日本学生支援機構奨学金事務新任者研修会	新任者対象の奨学金事務を円滑な実施を図る
	8月24日 愛知県	東三河地域人材育成事業キックオフセミナー	東三河地域での6次産業化や若者の地域での雇用、起業を促進
	9月5日～6日 愛知県学生就職連絡協議会	平成25年度愛知県学生就職連絡会研修会	改めて就職支援、キャリア教育を見直す
	10月3日 愛知中小企業家同友会	愛知県中小企業振興基本条例学習会	条例の理念とその活用法の報告を基に、だれのための条例であるかを理解
	10月9日～11日 日本私立大学協会	平成25年度事務局長相当者研修会	私立大学の管理運営と大学事務の在り方・当面する大学運営上の諸問題
	10月23日～25日 日本私立大学協会	平成25年度大学経理部課長相当者研修会	私立大学の経営管理における会計・経理・財務に関する諸問題
	10月30日～11月1日 日本私立短期大学協会	平成25年度私立短大経理事務等研修会	学校法人会計基準一部改正・動向、第三者評価等について
	11月6日～8日 日本私立大学協会	平成25年度就職部課長相当者研修会	大学教育における就職支援とキャリア教育のあり方
26	4月21日 日本高等教育評価機構	平成26年度大学・短大大学評価セミナー	自主的な質保証機能の向上
	6月3日 愛知県私大教務研究会	平成26年度総会・春季研究会	教務事務・学生指導等に係る諸問題
	6月10日 日本私立学校振興・共済事業団	平成26年度私立大学等経常費補助金研修会	平成26年度の変更点及び会計検査院の現地検査状況
	7月2日 私学研修福祉会	平成26年度学生生活指導主務者研修会	キャンパスコミュニティの形成とし、学生を中心とした人をつなぐ学生生活指導について
	8月18日 愛知中小企業家同友会	平成26年度インターンシップキックオフセミナー	インターンシップで何を学ぶのか
	8月26日 中部学生就職連絡協議会連合会	平成26年度中部学就連研修会	採用・就職活動時期の大幅な変更に伴う企業と大学の対応
	9月4日～5日 愛知県学生就職連絡協議会	平成26年度愛知県学生就職連絡協議会研修会	採用環境の変化について
	10月7日 愛知県私大事務局長会	平成26年度職員研修会	PDCAサイクルの浸透システムを活かせる人材育成

愛知工科大学自動車短期大学

年度	開催日・主催	研修名・対象	研修内容
26	10月15日～17日 日本私立大学協会	平成26年度経理部課長相当者研修会	学校法人会計基準、中長期計画と予算編成管理、経常費補助金一般補助の仕組みについて
	11月5日 日本私立大学協会	平成26年度就職部課長相当者研修会	雇用環境の変化と多様化する学生への就職支援
	11月7日 日本学生支援機構	平成26年度日本学生支援機構奨学金適格認定返還指導研修会	適格認定と返還指導について
	11月12日～14日 日本私立短期大学協会	平成26年度私立短大経理事務等研修会	経理・総務等担当者の業務水準を向上の為、諸問題の理解と基本的知識の修得

① 学園内でのSD活動

年度	開催日・主催	研修名・対象	研修内容
24	4月2日 愛知工科大学	平成24年度 「新任教職員説明会」	新任教職員が教育・研究活動等に取り組むに当たり本学の建学の精神(教育理念、教育体勢、教育・研究支援体勢)等の基礎的な知識を理解する。
	4月18日 学校法人電波学園	平成24年度第1回部課長研修会	就業規則変更について
	4月25日 学校法人電波学園	平成24年度第1回事務委員会	平成24年度会計マニュアルについて他2項目
	5月16日 学校法人電波学園	平成24年度第2回部課長研修会	パーソナルコーチング説明について
	5月23日 学校法人電波学園	平成24年度第2回事務委員会	平成24年度予算の考え方について他7項目
	6月20日 学校法人電波学園	平成24年度第3回部課長研修会	パワーハラスメント研修
	6月27日 学校法人電波学園	平成24年度第3回事務委員会	授業料の規程について他8項目
	7月18日 学校法人電波学園	平成24年度第4回部課長研修会 メンタルヘルスについて	メンタルヘルスについて
	7月25日 学校法人電波学園	平成24年度第4回事務委員会	学校経営判断について他5項目

愛知工科大学自動車短期大学

年度	開催日・主催	研修名・対象	研修内容
24	9月19日 学校法人電波学園	平成24年度第5回部課長研修会	評価制度研修
	9月26日 学校法人電波学園	平成24年度第5回事務委員会	中間決算について他3項目
	10月17日 学校法人電波学園	平成24年度第6回部課長研修会	前期の体験入学を振り返って
	11月21日 学校法人電波学園	平成24年度第7回部課長研修会	予算作成説明について
	11月28日 学校法人電波学園	平成24年度第6回事務委員会	入学選考料の納入について他1項目
	12月19日 学校法人電波学園	平成24年度第8回部課長研修会	海外研修企画説明について
	1月16日 学校法人電波学園	平成24年度第9回部課長研修会	各校相談状況報告 高校・高等課程、専門課程の相談状況について
	2月20日 学校法人電波学園	平成24年度第10回部課長研修会	評価制度改定委員会報告 平成25年度人事評価制度の変更点について
25	3月13日 学校法人電波学園	平成24年度第7回事務委員会	平成24年度決算等について他2項目
	4月2日 愛知工科大学	平成25年度「新任教職員説明会」	新任教職員が教育・研究活動等に取り組むに当たり本学の建学の精神(教育理念、教育体勢、教育・研究支援体勢)等の基礎的な知識を理解する
	4月17日 学校法人電波学園	平成25年度第1回部課長研修会	管理監督者のための労務管理マニュアルにより労働法関連の説明
	4月24日 学校法人電波学園	平成25年度第1回事務委員会	事務業務に関する平成24年度の反省と平成25年度に向けて他5項目
	5月15日 学校法人電波学園	平成25年度第2回部課長研修会	ありがとうと言われる退学抑止について
	5月22日 学校法人電波学園	平成25年度第2回事務委員会	事務職員研修項目について他2項目
6月19日 学校法人電波学園	平成25年度第3回部課長研修会	管理監督者のための安全衛生管理マニュアルによる労務管理上の注意点の説明	

愛知工科大学自動車短期大学

年度	開催日・主催	研修名・対象	研修内容
25	6月26日 学校法人電波学園	平成25年度第3回事務委員会	経理に関する学園会計課への質問に関する回答他2項目
	7月17日 学校法人電波学園	平成25年度第4回部課長研修会	心の健康づくりの為、自分の心を知り他人の心を知る
	7月24日 学校法人電波学園	平成25年度第4回事務委員会	ありがとう奨学金及び恒学基金の督促方法について他1項目
	9月18日 学校法人電波学園	平成25年度第5回部課長研修会	心の健康づくりの為、ストレスと仲良くなる
	9月25日 学校法人電波学園	平成25年度第5回事務委員会	目的別管理機能M目の追加に伴う事務処理について他1項目
	10月16日 学校法人電波学園	平成25年度第6回部課長研修会	職業実践専門課程・平成26年度学園予算編の流れについて
	10月23日 学校法人電波学園	平成25年度第6回事務委員会	学生生徒が授業及び学校行事中に負傷した場合の初診料支払いについて他3項目
	11月20日 学校法人電波学園	平成25年度第7回部課長研修会	いじめの構造と対応について
	11月27日 学校法人電波学園	平成25年度第7回事務委員会	入寮・入館手続きについて他2項目
	12月18日 学校法人電波学園	平成25年度第8回部課長研修会	学生募集に関する一考察について (成功例の共通点)
	1月22日 学校法人電波学園	平成25年度第8回事務委員会	勘定科目の明細及びM目Ⅱの追加等と会計処理の訂正について他2項目
	2月19日 学校法人電波学園	平成25年度第9回部課長研修会	リスク管理について(裁判事例より)
	2月26日 学校法人電波学園	平成25年度第9回事務委員会	会計士監査指摘事項について他1項目
	3月19日 学校法人電波学園	平成25年度第10回部課長研修会	平成25年度振り返りおよび平成26年度迎えるにあたり、学生生徒相談センター・企画広報課・経営企画課より報告等
3月26日 学校法人電波学園	平成25年度第10回事務委員会	学校法人電波学園会計処理取扱い要項について他1項目	

愛知工科大学自動車短期大学

年度	開催日・主催	研修名・対象	研修内容
26	4月2日 愛知工科大学	平成26年度「新任教職員説明会」	新任教職員が教育・研究活動等に取り組むに当たり本学の建学の精神(教育理念、教育体勢、教育・研究支援体勢)等の基礎的な知識を理解する
	4月23日 学校法人電波学園	平成26年度第1回部課長研修会	就業規則および労働法について①
	5月21日 学校法人電波学園	平成26年度第2回部課長研修会	就業規則および労働法について②
	5月28日 学校法人電波学園	平成26年度第1回事務委員会	東海工業専門学校熱田校1号館の電気代(削減)について他4項目
	6月18日 学校法人電波学園	平成26年度第3回部課長研修会	学生生徒相談活動報告と、事例紹介
	6月25日 学校法人電波学園	平成26年度第2回事務委員会	平成27年度キャンパス整備維持計画のヒアリングについて他4項目
	7月17日 学校法人電波学園	平成26年度第4回部課長研修会	教育訓練給付金制度の講座指定申請について
	7月23日 学校法人電波学園	平成26年度第3回事務委員会	学園奨学金(減免・貸費)について他1項目
	9月17日 学校法人電波学園	平成26年度第5回部課長研修会	租税教育の現状について
	9月24日 学校法人電波学園	平成26年度第4回事務委員会	見積書等の管理について他4項目
	10月15日 学校法人電波学園	平成26年度第6回部課長研修会	奨学金セミナー①主な奨学金について説明
	10月22日 学校法人電波学園	平成26年度第5回事務委員会	学校法人電波学園寄付金等取扱規程(案)について他2項目
	11月19日 学校法人電波学園	平成26年度第7回部課長研修会	奨学金セミナー②学費サポートプランについて
	11月26日 学校法人電波学園	平成26年度第6回事務委員会	学費未納の対応について他2項目
	1月21日 学校法人電波学園	平成26年度第8回部課長研修会	評価制度について
	1月28日 学校法人電波学園	平成26年度第7回事務委員会	(株)セディナ学費ローンの提案について他2項目

年度	開催日・主催	研修名・対象	研修内容
26	2月18日 学校法人電波学園	平成26年度第9回部課長研修会	リスク管理について（裁判事例より）
	2月25日 学校法人電波学園	平成26年度第8回事務委員会	新会計基準について
	3月18日 学校法人電波学園	平成26年度第10回部課長研修会	今年度の報告と実際のケース（学生・生徒相談センター）
	3月25日 学校法人電波学園	平成26年度第9回事務委員会	各校から平成26年度の事例報告 他4項目

(b) 課題

今後大規模地震等の災害発生が想定される中、防災対策委員会を通じてより一層防災意識を高める必要がある。

[区分 基準Ⅲ-A-4 人事管理が適切に行われている。]

■ 基準Ⅲ-A-4 の自己点検・評価

(a) 現状

教職員の就業に関する諸規程は、学園就業規則をはじめとして、嘱託職員に関する就業規程、育児・介護休業規程、定年規程、退職手当支給規程、給与規程等を整備している。

また、教員の採用・昇任については、愛知工科大学自動車短期大学教育職員任用及び昇任規程及び愛知工科大学自動車短期大学教員選考基準に照らして実施している。なお、規則及び規程は、学園及び短期大学のイントラネットにて全教職員に公開されるとともに、事務局において、規程集として常時備え付け、いつでも閲覧可能である。規程の制定は、学内イントラネットにより即時周知されるようになっている。

学園就業規則をはじめ、その他関連規程に基づき、教職員の勤務、休暇、休職、退職等の服務に関する事項について、出勤簿【備付資料37】等を備え適正に管理している。

(b) 課題

今後の収容定員充足状況によっては、人件費率を勘案して教職員の人数を圧縮する必要があり、教育の質を落とさず、効率的な教育を提供できるかが課題となっている。

■ テーマ 基準Ⅲ-A 人的資源の改善計画

研究活動のグループ化を実現し、一年に一度はグループ研究の報告を実施することで、活動の活発化を図りたい。また、現有の研究設備、研究機器の整備と整理を進めると共に、外部研究費を調査して、獲得のために積極的な取り組みが必要である。

専任教員の留学、海外派遣、国際会議出席等に関する規程の整備を検討したい。

◆参考資料

資料名	資料番号
・教員の個人調書 [書式 1・2]	【備 27】
・非常勤教員一覧表 [書式 3]	【備 28】
・愛知工科大学紀要	【備 29】
・自動車整備技術に関する研究報告誌	【備 30】
・専任教員の年齢構成表	【備 31】
・外部資金獲得状況一覧	【備 32】
・教員以外の専任職員の一覧表	【備 33】
・防災マニュアル	【備 34】
・防災カード	【備 35】
・愛知工科大学自動車短期大学 平成 26 年度組織図	【備 36】
・出勤簿	【備 37】

[テーマ 基準Ⅲ-B 物的資源]

[区分 基準Ⅲ-B-1 学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて校地、校舎、施設設備、その他の物的資源を整備、活用している。]

■ 基準Ⅲ-B-1 の自己点検・評価

(a) 現状

校地については、表Ⅲ-B-1 のとおり学生収容定員 360 人の必要面積 3,600 m²に対して、7,463 m²の校地を有していることから短期大学設置基準を充足している。運動場用地については 7,008 m² (大学と共用) のほか、テニスコート 2 面を有しており、体育の講義のほか、クラブ活動や地元市民にも開放している。

表Ⅲ-B-1 短期大学設置基準と校地面積の比較 (単位：m²)

区分	校地面積			設置基準上 必要面積	備考
	専用	共用	計		
短期大学	7,463	0	7,463	3,600	
大学	53,697	0	53,697	9,900	
運動場用地	0	7,008	7,008	—	
計	61,160	7,008	68,168	13,500	

校舎面積については、表Ⅲ-B-2 のとおり短期大学設置基準の必要面積 4,250 m²に対して、14,478 m²を有しており、短期大学設置基準を充足している。【備付資料 38】

表Ⅲ-B-2 短期大学設置基準と校舎面積の比較 (単位：㎡)

区分	校舎面積			設置基準上 必要面積	備考
	専用	共用	計		
短期大学	14,478	1,713	16,191	4,250	
大学	25,682	4,276	29,958	13,437	
計	40,160	5,989	46,149	17,497	

建物内外はバリアフリー化に努め、身障者用トイレ、エレベーター、スロープ、車椅子利用者用駐車場等を設置し、障がい者に配慮している。

学科は、教育課程編成・実施の方針に基づき授業を行うための教室、講義室、実習室を備え、機器・備品を整備している。また、経年劣化が生じる機器・備品類は、年度予算に計上し適時点検・整備を行っている。

図書館は大学と共用しており、蔵書数 37,858 冊、座席数 255 席を有し、閲覧室を合わせた面積は 1,291 ㎡である。【備付資料 39】 147 種の国内外の定期購読雑誌や AV 資料、技術資料を収集保管し、閲覧・貸し出し・レファレンスサービス等が効率的に行えるようになっている。

表Ⅲ-B-3 図書館所蔵資料数 (平成 27 年 3 月 31 日現在)

図書		定期購読雑誌		視聴覚資料	楽譜
37,858		147			
和書	洋書	国内雑誌	外国雑誌		
31,478	6,380	107	40		

図書の購入については、教員、学生による選書を行い、図書委員会による審議のうえで利用者のニーズに合わせた蔵書構築を行っている。さらに科学技術振興機構、国立情報学研究所のデータベース検索サービスの利用により、学習・研究のためのインターネットによる学術文献情報取得の要望に応じている。受入図書の登録・除籍については、電波学園経理規程並びに愛知工科大学自動車短期大学図書館資料の不用決定及び除籍に関する処理要領に基づき適正に管理している。

体育館の延べ床面積は、2,836 ㎡ (大学と共用) で授業及び課外活動に充分活用している。また、多種多様なトレーニングマシンを導入した多目的体育室 (トレーニングルーム) を備え、学生に開放している。

(b) 課題

障がい者に対応した施設整備を目指しているが、一部の建物に限られており、車椅子利用者にとってはバリアとなる部分が残されているので、一層のバリアフリー化を目指す。

[区分 基準Ⅲ-B-2 施設設備の維持管理を適切に行っている。]

■ 基準Ⅲ-B-2 の自己点検・評価

(a) 現状

学校法人電波学園経理規程及び同経理規程施行規則により、会計処理並びに計算書類の作成等経理業務に関する基準が定められている。固定資産会計、物品会計、内部監査の各章における固定資産管理、物品管理等の取り扱いにより、備品台帳等を整備し適正に維持管理している。

火災・地震対策、防災対策については、愛知工科大学・愛知工科大学自動車短期大学危機管理規程及び、愛知工科大学・愛知工科大学自動車短期大学防災管理規程を整備し、防災マニュアルの作成や防災カードの作成等による防災教育の実施、防災訓練や安全対策等の防災活動を実施している。また委託業者による防火設備の定期点検を実施し、非常時対応に備えている。防犯対策としては、警備会社と委託契約を結び、学内主要箇所にセキュリティ設備を導入するとともに、市内の警察署、消防署とも連携を図っている。

コンピュータシステムのセキュリティ対策については、愛知工科大学メディア基盤センターが中心となり、情報セキュリティ対策に関する情報提供やファイアウォールの設定、ウィルス対策ソフトウェアの提供等、対策を講じている。学内ネットワークにおいては、教職員用と学生用の環境設定を設け、セキュリティに配慮するとともに、個人情報保護に関する規程、大学保有個人情報管理規程、ネットワークシステム利用規程等を定め、適切な管理を行っている。

省エネルギー・省資源対策については省エネ温度の設定、エレベーターの部分停止、タイマー設定や人感センサーによる照明・空調管理等を実施している。またソーラー発電による夜間外灯の設置や LED 照明への切り替えを順次行い対応しているほか、バイオ燃料によるスクールバスの運行を行っており、地球環境保全へも一役を担っている。

(b) 課題

コンピュータのセキュリティ対策として、個人所有のノートパソコンの学内使用におけるルールの設定や、スマートフォンやタブレット端末などへの対応が課題である。

■ テーマ 基準Ⅲ-B 物的資源の改善計画

建物によっては建築後 25 年を経過しているものがあり、一部改修の時期に来ている。これに併せ、学内施設のバリアフリー化に一層努めていく。

図書館の利用環境は概ね良好であるが、学生の利用は少ないままである。引き続き授業において推薦図書を紹介や学生からの希望図書の購入、図書館から学内の電子掲示板を通して周知する等、学生の利用向上に努める。

今後古くなった装置・設備については、毎年見直しをして、計画的に整備、維持、廃棄管理等をしていく。また、コンピュータシステムのセキュリティを一層安定的に

確保するとともに、新しいデバイスに対応したネットワークの整備を行う。

◆参考資料

資料名	資料番号
・防災マニュアル	【備 34】
・防災カード	【備 35】
・校地、校舎に関する図面	【備 38】
・図書館の概要	【備 39】

[テーマ 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源]

[区分 基準Ⅲ-C-1 短期大学は、学科・専攻課程の教育課程編成・実施の方針に基づいて学習成果を獲得させるために技術的資源を整備している。]

■ 基準Ⅲ-C-1 の自己点検・評価

(a) 現状

自動車整備に係る測定機器がネットワーク化された最新の検査ラインをはじめ、トラックの整備が可能な大型リフト、安全で快適な実習環境を提供するための排出ガス屋外排出システム等を整備した自動車棟を平成 23 年 1 月に完工している。また、実習車両も最新の装置を搭載した新車（トラック、乗用車）を計画導入し、乗用車については、故障診断機及びパソコン用診断ソフトウェアを平成 26 年 9 月に導入したことにより、自動車整備士を養成する短期大学としては最先端設備を有する施設となっている。

情報ネットワーク【備付資料 40】は、愛知工科大学メディア基盤センター運営委員会及び愛知工科大学メディア基盤センターが中心となり技術支援、施設の設置、維持管理、将来計画を行っており、必要な環境整備を常に実施している。パソコン室【備付資料 43】の施設・設備については概ね 5 年ごとに見直し、リプレースの計画・立案を行い、常に良好な教育環境の提供に努めている。

情報技術の向上に関するトレーニングに関して、学生に対しては、入学時にパソコン室の利用方法についてのガイダンスを実施している。また、自学自習システム（eラーニング「コーカくん」）の利用法については、各種資格試験の補講時期に合わせてガイダンスを実施している。各教室、自習室、図書館及び実習場には学生セグメントに属する有線 LAN ポート【備付資料 41】が整備されており、インターネット及び教育資源への接続が可能である。加えて、学内 39 か所に無線 LAN アクセスポイント (LAN AP) (Wi-Fi 対応) が設置されており、希望する学生及び教職員は、学内の主要な場所から学生セグメントにアクセスでき、インターネット及び教育資源への接続が可能である。なお、近年スマートフォンの普及により、学内無線 LAN アクセスポイントへの利用が高まっている。このように、学生がインターネットや学内 LAN に容易にアクセスできる環境を整えており、学習成果向上のための技術資源【備付資料 42】は整備されている。

(b) 課題

今後古くなった装置・設備については、毎年見直しを進め計画的に更新していく必要がある。

■ テーマ 基準Ⅲ-C 技術的資源をはじめとするその他の教育資源の改善計画

パソコンなどの IT 機器については、OS の自動更新やアンチウイルスソフトなど授業で使用するソフトウェア以外の負荷が毎年増大し、特に起動直後のレスポンスの緩慢さが著しいので、機器の更新を実施して問題の改善と ICT 教育環境の充実を図っていく必要がある。また、一部の AP で繋がりにくいなどの障害が発生しており、無線 LAN システムの安定性の向上を図っていく必要がある。

◆参考資料

資料名	資料番号
・愛知工科大学ネットワーク概要	【備 40】
・キャンパスネットワーク概略図	【備 41】
・ネットワーク機器一覧	【備 42】
・マルチメディア教室、コンピュータ教室等の配置図	【備 43】

[テーマ 基準Ⅲ-D 財的資源]

[区分 基準Ⅲ-D-1 財的資源を適切に管理している。]

■ 基準Ⅲ-D-1 の自己点検・評価

(a) 現状

日本私立学校振興・共済事業団による「定量的な経営判断指標に基づく経営状態の区分」によれば、本学園は「A1」に区分され、財務状況は安定している。

本学のみ資金収支は 3 年連続支出超過となっている。平成 24 年度の資金収支は 13,858 万円の支出超過であったが、平成 25 年度、平成 26 年度はそれぞれ 14,495 万円、9,959 万円の支出超過となり、これを法人全体で補っている状況である。法人全体の資金収支は、過去 3 年間にわたり均衡しており、本学の支出超過分は十分資金補填できる状況にある。

本学園全体の消費収支における帰属収支差額は過去 3 年いずれも収入超過で推移している。ただし本学のみで見ると帰属収支差額は 3 年連続支出超過となっており、差額のマイナス幅は減少しているものの学生納付金収入の減少による割合が大きい。帰属収入における人件費比率は、平成 24 年度の 95% から、平成 26 年度の 75% へ減少しているもののまだ人件費の占める割合が高い。

平成 26 年度決算での本学の損益分岐点分析では、キャッシュベースにおいて収入が上回る学生数は、ほぼ収容定員数 (358 人) となっている。健全な財務状況とするため、学生募集を強化し、定員充足率を上げ、帰属収入増を目指す必要がある。

国内では唯一の 4 年制大学 3 年次編入学制度で、4 年間で無理なく一級自動車整備士資格と学位が取得できる利点を生かし、学生数を増加させたい。

教育研究経費比率は、過去3か年の平均で40%を超えており、教育研究用の施設設備や図書等の学習資源に対する資金配分は十分に行われている。

日本私立学校振興・共済事業団による貸借対照表の状況は、積立率（運用資産÷要積立額（退職給与引当金＋第2号基本金＋減価償却累計額＋第3号基本金））は100%を超えており、将来的な施設設備の充実・更新、将来の退職金の支払いに対する備えは十分である。また、安定的な奨学金支払いに充てるため、平成23年度より第3号基本金組み入れを行ってきている。

資産運用については、学校法人電波学園資産運用規程により、適切に管理・運用している。また、退職給与引当金は、要引当額の100%を毎年計上している。

(b) 課題

本学の帰属収支は3年連続支出超過となっており、入学定員確保に最大限努力する必要がある。

[区分 基準Ⅲ-D-2 量的な経営判断指標等に基づき実態を把握し、財政上の安定を確保するよう計画を策定し、管理している。]

■ 基準Ⅲ-D-2 の自己点検・評価

(a) 現状

本学は、地域の中核を担う人材を輩出する高等教育機関として、文部科学省短期大学設置基準と併せて国土交通省の指定基準に準拠する自動車整備士を養成する短期大学であり、特に自動車生産の高い愛知県内において自動車工学に関する技術教育を行い、地域社会の発展に寄与し、地域への有能な人材の輩出を目指している。

本学の平成26年度の収容定員充足率は、79%と定員割れを起こしている。このため収容定員充足のための数値目標と愛知工科大学自動車短期大学中期目標・計画【備付資料45】を定め、その改善を進めているところである。

本学の強みは、学生の授業満足度、資格取得・進路指導及び実習施設に対し評価が高いことであり、このためオープンキャンパスの形態や高校訪問の見直し、高校生へのPR方法の改善等、積極的な募集活動を展開している。

平成19年度入学生から定員割れが生じたが、これは若者の自動車離れといった社会的要因の変動などに起因するところが大きいことから、学生定員の見直しについては考えていない。なお収支のバランスをとっていくため、人件費の計画的縮減による消費収支に占める人件費比率を下げるとともに、積極的な学生募集の展開に取り組んでいる。

学内における経営状況の公開については、学園理事長及び学長からの訓示や教授会、全教職員が参加する教職員連絡会において現況が示され、情報及び危機意識の共有に努めている。

(b) 課題

地域からの増大する人材需要に応じて行くためには、より多くの学生を入学させていく必要があり、また経営安定化のためにも社会的要因等はあるものの学生の確保を

図る必要がある。

■ テーマ 基準Ⅲ-D 財的資源の改善計画

本学は、過去3か年において入学定員を充足しておらず、帰属収支差額においても過去3か年連続して支出超過となっている。定員充足率の改善傾向は見られるものの、今後とも自動車工学に特化した特色ある教育を行い、また教職員一体となった計画的な学生募集活動を行うことで、入学定員確保に努める。

また、教育研究経費比率は40%台を推移しているが、人件費比率も高い状況となっているため、収支のバランスを考慮のうえ、人件費や経費の見直しを図る必要がある。

◆ 参考資料

資料名	資料番号
・資金収支計算書・消費収支計算書の概要 [書式 1]	【提 16】
・貸借対照表の概要 [書式 2]	【提 17】
・財務状況調べ [書式 3]	【提 18】
・キャッシュフロー計算書 [書式 4]	【提 19】
・資金収支計算書・資金収支内訳表・ 消費収支計算書・消費収支内訳表（平成26年度～平成24年度）	【提 20】
・貸借対照表（平成26年度～平成24年度）	【提 21】
・中・長期の財務計画	【提 22】
・平成26年度 財務情報	【提 23】
・平成27年度 予算編成に伴う事業計画書について ／平成27年度収支予算書	【提 24】
・財産目録及び計算書類（平成26年度～平成24年度）	【備 44】
・愛知工科大学自動車短期大学中期目標・計画	【備 45】

■ 基準Ⅲ 教育資源と財的資源の行動計画

経年劣化により特に環境悪化が進んでいる箇所について抽出し、平成27年度予算に計上を行う予定である。図書館の利用者向上についても、改善計画に基づき学生への周知等を随時行うこととする。個人所有のノートパソコンの学内使用におけるルールの設定や、スマートフォンやタブレット端末などの新しいデバイスに対応した学内ネットワークの環境整備については、愛知工科大学メディア基盤センターが中心となり検討する予定である。定員充足のための数値目標と愛知工科大学自動車短期大学中期目標・計画を定め、その改善を進める計画である。

◇ 基準Ⅲについての特記事項

(1) 以上の基準以外に教育資源と財的資源について努力している事項。

特になし

(2) 特別の事由や事情があり、以上の基準の求めることが実現（達成）できない事項。

特になし

【基準Ⅳ リーダーシップとガバナンス】

■ 基準Ⅳの自己点検・評価の概要

理事長は、学園運営全般にわたる適切なリーダーシップを発揮しつつ、学園の健全な経営と発展に大きく寄与している。更に経営基盤の安定化を図るため、経営改善に向け各種取り組みを行っている。理事会は、学園内外から選出された理事により理事会業務規則に基づき審議運営を行い、学園全体の最高意思決定機関としての役割を果たしている。

学長は、学園建学の精神のもと併置の愛知工科大学と協調・協力関係のもと社会から期待が集まる自動車短期大学として、その人材育成に向け、強力なリーダーシップを発揮して本学の運営に取り組んでいる。

本学の中期目標・計画に基づき毎年度の事業計画と予算は、年度開始前の理事会で審議・承認され適切に執行されている。また、執行状況については、公認会計士による実地調査等により会計監査が行われ、決算については、理事会で審議・承認され、評議員会に報告が行われている。

情報公開では、本学ホームページ、大学広報誌に掲載等している。

[テーマ 基準Ⅳ-A 理事長のリーダーシップ]

[区分 基準Ⅳ-A-1 理事会等の学校法人の管理運営体制が確立している。]

■ 基準Ⅳ-A-1 の自己点検・評価

(a) 現状

「理事長は、この法人を代表し、その業務を総理する。」と学校法人電波学園寄附行為第12条で明確に定められており、学園全体の業務を総括する代表者として、激動する環境変化の中で学園設置12校を統括する責任者として現場の動向等を常に把握し、学園の運営全般にわたり適切なリーダーシップを発揮している。また、設置各校代表者と連携しつつ、その課題解決と学園の健全な経営と発展に大きく寄与している。経営状況を示す帰属収支差額比率は回復基調にあり、経営基盤の安定化を図るため、学生の確保・増を喫緊の課題として取り組み、さらに、人件費の削減、肥大化防止のための人事制度改革を推し進め、法人の経営改善に向けて改善・改革が執り進められている。

理事会及び評議員会は、年6回開催しており、必要がある場合においては、臨時会を招集することとしている。

決算については、監事による決算原案についての監事監査を実施し、業務執行や財産の状況を監査している。また、理事会・評議員会への監査報告は、2か月以内に行われている。5月の評議員会において、前年度の決算及び事業の報告が行われている。

また、平成16年の私立学校法の改正による監事機能の強化の動きを受け、すべての理事会・評議員会に監事が出席しており、年間を通じて法人の業務及び財務の状況が適格に判断されている。

理事会については、学校法人電波学園寄附行為第16条に基づき、会議開催の場所及び日時並びに会議に付議すべき事項を書面により通知している。また、理事会は学園

内外から選出された理事により、議案審議を通じ情報の共有を図っている。さらに、情報収集については、理事長及び理事である学長が短期大学協会及び私学リーダーズセミナー等の各種会議に出席し、情報の収集を図っている。

私立学校法に基づく財務情報の公開については、予算書と事業計画を法人事務局内において閲覧している。また、決算については、毎年5月の理事会承認後、財産目録、貸借対照表、収支計算書、事業報告書及び監事による監査報告書を法人事務局において閲覧するとともに、学生、保護者及び教職員に対しては、収支計算書及び監事監査報告書を大学・短期大学の広報誌に掲載及び学内掲示板に掲示している。

理事会は、学校法人及び短期大学の運営の基本規程である学校法人電波学園寄附行為、理事会業務規則を整備し、また理事は私立学校法に基づき、適正に選任されている。

(b) 課題

特に課題はないが、理事長のリーダーシップを十分機能させて行くためには、教職員の意識改革を更に進めて行く必要がある。

■ テーマ 基準IV-A 理事長のリーダーシップの改善計画

理事長は、学園の安定的経営確保のため、学生・生徒の在籍者数の増確保に向け、入学生数の増、内部進学者数の増、退学者の減等、教職員と一体となった収支改善に取り組んで行く。また、教職員の経営に対する理解を深めるうえで、教授会に直接出席し、その状況等を示すことにより法人の経営改善の必要性を理解させていく必要がある。また、併せて理事長、学長、法人本部、本学との有機的連携を進め、意見交換の機会を増やしていく予定である。

◆参考資料

資料名	資料番号
・学校法人電波学園寄附行為	【提 25】
・理事長の履歴書	【備 46】
・学校法人実態調査表（写し）（平成26年度～平成24年度）	【備 47】
・理事会議事録（平成26年度～平成24年度）	【備 48】
・学校法人電波学園諸規程集	【備 49】
・愛知工科大学自動車短期大学諸規程集	【備 50】

[テーマ 基準IV-B 学長のリーダーシップ]

[区分 基準IV-B-1 学習成果を獲得するために教授会等の短期大学の教学運営体制が確立している。]

■ 基準IV-B-1 の自己点検・評価

(a) 現状

学長は電波学園学長・副学長・学部長選考規程により人格が高潔で学識に優れ、学

園建学の精神と教育方針を堅持するものとして、学長候補者選考委員会で選出され、理事会において承認決定されている。

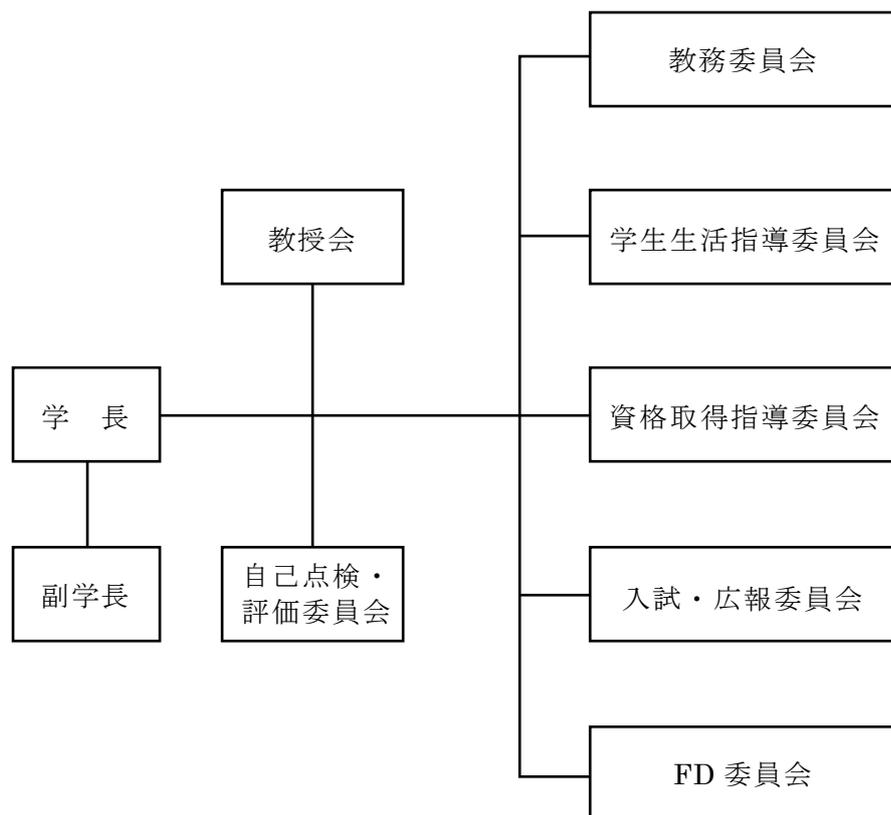
現在の学長は、国立大学教授、評議員、工学部長及び国立大学法人理事・副学長等を歴任するなど、大学教員として35年の教育・研究の経歴と大学運営に関する豊富な経験を有しており、本学においても建学の精神のもと、併置の愛知工科大学と常に協調・協力関係を維持しながら、社会の期待が集まる自動車短期大学としての人材育成に向け、強力なリーダーシップを発揮して本学の運営に取り組んでいる。また、学長は教育目的を基に学位授与の方針及び入学者受け入れの方針等について、全教職員に教示するとともに短期大学の質の向上・充実のため、日々努力している。

学長は、学則、短期大学教授会規程に基づき教授会を開催し、教育研究上の審議機関として適切に運営を行っている。また、教授会議事録【備付資料 52】は、学務課が作成し保管している。

三つの方針（アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシー）については、教授会で審議され、全教職員がその内容を認識している。

学習成果については、教務委員会を始めとする各種委員会で学習成果の検証を行い、その目標の達成状況について確認を行っている。

また、本学の円滑な運営を図るため学長の下に、図IV-1に示すような各種委員会（教務委員会、FD委員会、入試・広報委員会、学生生活指導委員会、資格取得指導委員会等）【備付資料 53】が設置されており、専任教員・事務職員をもってこれを構成し、随時各委員会を開催して、学習支援、生活支援、就職支援などの事項を審議し、教授会、学科会議及び教職員連絡会において報告・説明されており、各委員会は規程に基づき、適切に運営されている。



図IV-1 短期大学の委員会構成

(b) 課題

各委員会は、より効果的な学習成果に繋がるように一層の連携を深める必要がある。

■ テーマ 基準IV-B 学長のリーダーシップの改善計画

平成 22 年度に策定した短期大学の中期目標・計画を基に、各部署の年度計画を作成して引き続き改善を進めるとともに、本学が抱える固有の問題として、教員の校務負担の軽減策についても、合わせて検討をしていく必要がある。

◆参考資料

資料名	資料番号
・教員個人調書 (学長) [書式 1]	【備 51】
・教授会議事録	【備 52】
・委員会等の議事録	【備 53】

[テーマ 基準IV-C ガバナンス]

[区分 基準IV-C-1 監事は寄附行為の規定に基づいて適切に業務を行っている。]

■ 基準IV-C-1 の自己点検・評価

(a) 現状

監事は、学園の業務及び財産についての業務執行状況を、議事録等各種書類で確認するほか、毎回、理事会、評議員会に出席し、審議事項や報告事項の説明を受け、また理事との懇談を行うことで業務監査をしており、必要に応じて意見を述べている。

また、会計年度毎に監査報告書を作成し、会計年度終了後 2 か月以内の 5 月に開催される理事会、評議員会に提出・報告している。このことにより、監事は学校法人電波学園寄附行為第 15 条に基づき、適切に業務を行っている。【備付資料 54】

(b) 課題

今後とも、監査業務のより一層の充実を図る。

[区分 基準IV-C-2 評議員会は寄附行為の規定に基づいて開催し、理事会の諮問機関として適切に運営している。]

■ 基準IV-C-2 の自己点検・評価

(a) 現状

評議員会は、学校法人電波学園寄附行為第 19 条に基づき 13 名の評議員で構成されている。評議員は、学校法人電波学園寄附行為第 23 条に基づき選任され、原則として年間 6 回開催される評議員会において、私立学校法第 42 条及び学校法人電波学園寄附行為第 21 条に基づき、理事会の諮問機関として、必要な事項を審議している。【備付資料 55】

(b) 課題

評議員会への諮問事項については、寄附行為に基づいた議題となっているが、学校法人の運営に関して充実した協議が可能となるように、その内容を工夫していく必要がある。

[区分 基準IV-C-3 ガバナンスが適切に機能している。]

■ 基準IV-C-3 の自己点検・評価

(a) 現状

本学は、理事長、学長のリーダーシップのもと短期大学全教職員が参画して、短期大学の中期目標・計画を策定し、これに基づいた毎年度の事業計画と予算を、学園各校間との調整の上、年度開始前に策定している。年度毎の事業計画と予算は、評議員会の諮問を得て、3 月開催の理事会で審議され、承認されている。理事会で承認を得た事業計画と予算は、短期大学の事務局を通じて関係部署に速やかに伝達され、その執行は、学校法人電波学園経理規程に従い適切に執行されている。

執行状況は、公認会計士による会計帳簿・書類、備品等の実地調査等、会計監査に

より監査されている。また、内部監査も実施され、適切に管理している。さらに、決算は理事会で審議・承認し、評議員会に報告している。

教育情報及び財務情報は、本学のホームページの情報公開で教育情報の公表をするとともに、財務情報については、法人事務局内で備付、閲覧を可とし、大学の広報誌「Koka TIMES」【備付資料 56】に掲載するとともに、学内掲示板に掲示している。

(b) 課題

監事の機能は適切に機能しているが、学園組織内の監査業務に係る部署が未設置である。

■ テーマ 基準IV-C ガバナンスの改善計画

私立学校法、学校教育法施行規則および学校法人電波学園寄附行為等の関連規程等に則った適切な運営を行っているが、法人組織の中に業務監査に係る専門部署を設置してないことから、業務の監査に関する監事への情報提供等、日常業務の監査体制と合わせて整備することを検討する必要がある。

◆参考資料

資料名	資料番号
・ 監事の監査状況	【備 54】
・ 評議員会議事録	【備 55】
・ Koka TIMES	【備 56】

■ 基準IV リーダーシップとガバナンスの行動計画

時代の変化、流れを読み取り、そこで求められる人材養成のニーズに対応し、その方向性を見極めながら学園の安定的経営が続けられるよう理事長、学長は適正なリーダーシップを発揮し、今後も学校教育法、私立学校法等の諸法令、学校法人電波学園寄附行為及び愛知工科大学自動車短期大学学則等の諸規程に基づいた適切な学園および短期大学運営に努めたい。

◇ 基準IVについての特記事項

(1) 以上の基準以外にリーダーシップとガバナンスについて努力している事項。

特になし

(2) 特別の事由や事情があり、以上の基準の求めることが実現（達成）できない事項。

特になし

【選択的評価基準】

地域貢献の取り組みについて

基準(1)地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放を行っている

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

本学及び愛知工科大学は地元蒲郡市・幸田町にとって唯一の短期大学及び大学であり、地域からの文化・学術交流や防災対応等についての期待は大きい。地域との交流を円滑に推進するため、蒲郡市とは「連携と協力に関する協定」と「災害時における施設の利用に関する協定」を締結し、幸田町とは「連携と協力に関する協定」を締結している。地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業等については、蒲郡市と幸田町を中心に、それぞれの要請にこたえる形で①のように実施している。開催にあたっては、同一敷地内にある愛知工科大学と協力して実施している。子供の理科離れが叫ばれる中、蒲郡市や幸田町の教育委員会と連携し、子供向けの講座を特に多く開催している。理科や技術に興味や関心を高めて貰えるよう努めており地域からの評価は高い。

また、正規授業の開放は国土交通省の認定科目が多いことやークラスの受講人数の制限などから実施していない。

①公開講座、生涯学習授業等の実施状況

平成 24 年度

名 称	会場・実施日	目的・内容等	担 当 者
ビジネス講座	幸田町立図書館 H24. 6/9	町民へのビジネス支援	長谷川助教
幸田町夏休み理科教室	幸田町立図書館 H24. 7/26	理科・モノ作りに興味を持たせる活動	橋本教授 長谷川助教
幸田町 少年少女発明クラブ	幸田町中央公民館 発足打ち合わせ H24. 6/29, 7/20, 8/8 実施日 H24. 10/21, 11/10, 12/22, H25. 1/28, 2/17, 3/23	児童生徒に科学技術に関する興味、関心を喚起する場を提供し、創作活動を通して創造性豊かな人間形成を図る	愛知工科大学教員及び橋本教授
蒲郡市 少年少女発明クラブ	愛知工科大学および蒲郡市民会館 H24. 5/12. 19, 7/21, 8/11. 25, 9/8, 10/13. 17, 11/17, 12/22, H25. 1/12, 2/23, 3/16	児童生徒に科学技術に関する興味、関心を喚起する場を提供し、創作活動を通して創造性豊かな人間形成を図る	愛知工科大学教員及び橋本教授、鈴木教授、永田教授、鶴飼助教、長谷川助教

愛知工科大学自動車短期大学

名 称	会場・実施日	目的・内容等	担 当 者
「家庭の日」親子教室～ライントレーサー工作教室～	愛知工科大学 H24. 5/20	蒲郡市青少年健全育成、家庭の日啓発事業への協力	愛知工科大学教員及び橋本教授
三谷中学校 職場体験学習	愛知工科大学自動車短期大学 H25. 1/29～2/1	三谷中学校 2 年生の総合学習の一環	加藤助教
豊田市ものづくりなぞ？プロジェクト	公益財団法人あすて H24. 4/14, 5/12. 19. 26, 6/2. 9. 16, 7/7. 14. 21, 8/4. 8. 25, 9/1. 8. 15. 23 10/13. 20, 11/3. 10. 17, 12/1. 8. 15, H25. 1/12. 19. 26, 2/2. 9. 19	小・中学生を対象に車の分解・修復・組立てを通して、ものづくりの難しさ、楽しさ、達成感を伝える	甲村助手 小野秀助手

平成 25 年度

名 称	会場・実施日	目的・内容	担 当 者
「家庭の日」親子教室～ソーラーカー工作教室	愛知工科大学 H25. 5/18	蒲郡市青少年健全育成、家庭の日啓発事業への協力	愛知工科大学教員及び橋本教授
蒲郡市 少年少女発明クラブ	愛知工科大学および蒲郡市民会館 H25. 5/11, 6/1, 7/6, 8/10. 24, 9/7, 11/30, 12/21, H26. 1/11, 2/22	児童生徒に科学技術に関する興味、関心を追及する場を提供し、創作活動を通して、創造性豊かな人間形成を図る	愛知工科大学教員及び橋本教授、鈴木教授、永田教授、鶴飼助教、長谷川助教
三谷中学校 職場体験学習	愛知工科大学自動車短期大学 H26. 2/4～7	三谷中学校 2 年生の総合学習の一環	加藤助教
くらふとフェア 蒲郡 2013	海陽多目的広場 H25. 11/2. 3	地域交流推進	愛知工科大学教員及び橋本教授、長谷川助教
幸田町 少年少女発明クラブ	幸田町中央公民館等 H25. 5/21, 6/10, 8/26, 9/17, 10/26, 11/23, 12/21, H26. 1/25. 2/16	児童生徒に科学技術に関する興味、関心を追及する場を提供し、創作活動を通して、創造性豊かな人間形成を図る	愛知工科大学教員及び橋本教授

平成 26 年度

名 称	会場・実施日	目的・内容	担 当 者
幸田町こども理科教室	幸田町立図書館 H26. 5/3	小学生を対象に理科や科学への興味・関心を促す	長谷川助教
蒲郡市 少年少女発明クラブ	愛知工科大学 H26. 5/17, 6/7, 7/5. 26, 8/23, 9/6, 10/11, 11/1. 29, 12/2. 20, H27. 1/31, 2/21. 28	児童生徒に科学技術に関する興味、関心を追及する場を提供し、創作活動を通して、創造性豊かな人間形成を図る	愛知工科大学教員及び橋本教授、鈴木教授、永田教授、鶴飼助教、長谷川助教
「家庭の日」親子教室	愛知工科大学 H26. 5/18	蒲郡市青少年健全育成、家庭の日啓発事業への協力	愛知工科大学教員及び橋本教授
くらふとフェア 蒲郡 2014	大塚海浜緑地 H26. 11/1. 2	地域交流推進	愛知工科大学教員及び橋本教授
幸田町 少年少女発明クラブ	愛知工科大学等 H26. 5/17, 6/15, 7/13, 8/10, 9/28, 10/4, 11/1, 12/21, H27. 1/24, 2/7. 22	児童生徒に科学技術に関する興味、関心を追及する場を提供し、創作活動を通して、創造性豊かな人間形成を図る	愛知工科大学教員及び橋本教授

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

地域に向けた公開講座や生涯学習授業等に対する期待は非常に大きいですが、自動車という単科の小規模な短期大学では教員数は少なく、教員の専門分野も自ずと限られているため、幅広い分野の講座の開催は困難である。また、殆どが休日開催となっているため、学内のオープンキャンパス等の行事や資格講座などとの重なりもあって、開催日を増せない点が課題である。

(c) 自己点検・評価を基に改善計画を記述する。

小規模な短期大学としては、精一杯の対応をしているところであり、本学側から提案して講座を開催することは困難であるが、本学も運営に参加している蒲郡産学官ネットワーク会議等での議論を踏まえ、蒲郡市・幸田町などの自治体等からの要望に極力応える体制づくりを中期計画に反映させたい。

基準 (2) 地域社会の行政、商工業、教育機関及び文化団体等と交流活動を行っている。

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する

地域社会の行政等との連携は本学と蒲郡市および幸田町との間に②に示すような協定を結んでいる。これに基づき、各種の生涯教育や講座などを開催し協力している。

具体的な実施状況は基準(1)の地域に向けた公開講座、生涯学習授業と区別が困難なものが多いため、まとめて①に示した。蒲郡市の産学官の協力を強化しそれぞれの発展に寄与するための「がまごおり産学官ネットワーク会議」の運営委員会には③に示すように愛知工科大学と共に運営委員やオブザーバーとして教員が出席している。

ここでの議論を踏まえ、産学官の協力を強化している。また、災害時における施設の利用に関する協定については、東海・東南海地震の発生が心配される中、この地域は津波の被害も想定されており、本学は標高が高く地盤もしっかりしていることから、地域住民の避難場所として大きな期待が寄せられている。

② 本学と地域との連携協定

名 称	締 結 機 関	締 結 日	目 的
連携と協力に関する協定	幸田町 蒲郡市	H24. 4/16 H23. 4/6	双方の人的及び物的資源の活用により、教育、文化、福祉、産業振興街づくりなどの分野において連携協力し、地域の活性化と充実発展に資する。
災害時における施設の利用に関する協定	蒲郡市	H24. 8/1	災害時において、大学・短大の施設の一部を蒲郡市避難所として利用する。

③がまごおり産学官ネットワーク会議

平成 24 年度

会 議 名	会 場 ・ 実 施 日	目 的 ・ 内 容	出 席 者
運営委員会	蒲郡市役所 H24. 4/25, 5/29, 7/25, 10/16, H25. 1/17, 3/22	蒲郡市内の産官学関係団体等のネットワーク形成、連携による新技術・新ビジネスの研究開発等の促進を図り、蒲郡市の産業の振興と地域の活性化並びに地域の課題解決に取り組む	愛知工科大学教員及び橋本教授が出席。また、オブザーバーとして加藤助教が出席。

平成 25 年度

会 議 名	会場・実施日	目的・内容	出 席 者
運営委員会	蒲郡市役所 H25. 4/22, 7/8, 8/22, 9/26, 11/6, 12/24, H26. 1/30, 3/25	蒲郡市内の産官学関係団体等のネットワーク形成、連携による新技術・新ビジネスの研究開発等の促進を図り、蒲郡市の産業の振興と地域の活性化並びに地域の課題解決に取り組む	愛知工科大学教員及び橋本教授が出席。また、オブザーバーとして加藤助教が出席。

平成 26 年度

会 議 名	会場・実施日	目的・内容	出 席 者
運営委員会	蒲郡市役所 H26. 4/24, 8/4, 10/10	前年度と同じ	愛知工科大学教員及び橋本教授が出席。また、オブザーバーとして加藤助教が出席

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

産学官の協力として、行政や地域住民への協力は、講座や生涯教育、各種行事のボランティアなどである程度できている。地域産業へは自動車整備士養成の特性を生かした人材を数多く輩出し、カーディーラーや専門の自動車修理会社、自動車および自動車部品メーカー等の発展に寄与しているが、一方で企業側は大学に求めるものとして、研究開発や最新技術の分野での協力を望んでいる部分もある。これに応えることは課題ではあるが、教育が中心の短期大学としてはハードルが高い。

(c) 自己点検・評価を基に改善計画を記述する。

地域に最も貢献している点は、地域唯一の自動車整備を中心とした自動車技術者を数多く輩出し、自動車産業が中心の三河地区の発展に寄与している点である。

まずこの点を考え、本学内の各委員会と連携し教育の質的向上を図り、高度化する地域企業の要望に応える人材を育成することを中期計画に反映させたい。

また、研究・技術開発に関する企業への協力は、教育中心の小規模な短期大学としては企業が求める技術を持った人材には限りがあり、大きな改善は困難である。

しかし、新入社員教育などでの人材教育指導について自動車ディーラーなどの業界から期待が寄せられており、今後前向きに取り入れていきたい。また、行政との連携については、引き続き意見交換の場を尊重しながら協力を続けたい。

基準 (3) 教職員及び学生がボランティア活動等を通じて地域に貢献している。

(a) 自己点検・評価を基に現状を記述する。

地域の一般的な皆さんがもっとも大学に期待していることの一つに、学生のボランティア活動がある。特に少子高齢化が進み、若者が少なくなった地方自治体においてはこの傾向が強い。本学が立地する蒲郡地区においても、各団体からボランティア派遣の要請が数多く寄せられているが、自動車整備士養成という国土交通省の認可と短期大学としての文部科学省の認可とを両立するカリキュラムの中で教育を行っている関係上、時間的なゆとりがなく本学単独ではあまり期待に応えることができていない。土曜日や休暇期間中であっても、学生は就職後必要となる各種資格取得のための講座を受講したり、経済的に苦しい家庭の者も多いことから、アルバイトをしたりする者も多くいる。そこで、学生の力を効率的に活用するため、学生の自治組織である「学生会」を愛知工科大学と共同で活動する組織として立ちあげ、愛知工科大学と合同で実施する大学祭やクラブ活動等の行事や活動を共に運営している。

学生ボランティアについてもこれに基づき、学生会を窓口地域からの要望に応えている。教員に対する要望については、地域連携の一環として学生会と連携しながら極力要望に応えている。ボランティア活動の実施状況を④に示す。

④地域の催事等への教職員及び学生のボランティア活動の状況

平成 24 年度

催事名	会場・実施日	開催団体	目的・内容	担当者
福寿稲荷ごりやく市	蒲郡市中央通り商店街 H24. 4/22, 5/27, 9/23, 10/28, 11/25, H25. 3/24	蒲郡商店街振興組合	蒲郡市中央通りにて市街地の活性化	小林職員及び学生会ほか各クラブ・同好会
第 12 回森の文化祭	さがらの森	森の文化祭実行委員会	地域交流推進	小林職員及び学生会
「ガマゴリ・ネバーアイランド」蒲郡凱旋上映会	蒲郡市民会館 H24. 5/27	蒲郡市・蒲郡商工会議所	地域交流推進	小林職員及び学生会
自家用車の日常点検講習会	愛知工科大学自動車短期大学 H24. 7/28, 10/13	蒲郡市民企画公募による「車の点検整備を推進する会」	蒲郡市等の住民に車の点検を通して交通安全の啓蒙	竹内講師、斉藤助教、亀井助教、鈴木拓助手、河合教授、学生 9 名
「どえらいうまいもん祭り」	蒲郡市民会館 H24. 9/8	蒲郡青年会議所	地域交流推進	小林職員及び学生会
～オリジナルホバークラフトをつくろう～	蒲郡市生命の科学館 H25. 2/16	市民まるごと赤い電車応援団	地域交流推進	小林職員及び学生会

平成 25 年度

催事名	会場・実施日	開催団体	目的・内容	担当者
第 13 回森の文化祭	さがらの森 H25. 4/28	森の文化祭実行委員会	地域交流推進	小林職員及び学生会
福寿稲荷ごりやく市	蒲郡市中央通り商店街 H25. 5/26, 9/22, 10/27, 11/24, H26. 3/23	蒲郡商店街振興組合	蒲郡中央通りにて市街地の活性化	小林職員及び学生会と各クラブ・同好会
～愛知工科大学バスボムづくり～	蒲郡市生命の海科学館 H26. 2/22	蒲郡市生命の海科学館	蒲郡市生命の海科学館ワークショップ	小林職員及び学生会

平成 26 年度

催事名	会場・実施日	開催団体	目的・内容	担当者
幸田町町村合併 60 周年記念事業 わくわくキッズフェスティバル	ハッピーネス・ヒル・幸田 H26. 5/3	幸田町・幸田町文化振興協会	地域交流推進	中島教授、高田教授、河合教授、掛布准教授、竹内講師、鵜飼助教、加藤助教、甲村助教、学生 5 名
第 14 回森の文化祭	さがらの森 H26. 4/27	森の文化祭実行委員会	地域交流推進	小林職員及び学生会
福寿稲荷ごりやく市	蒲郡市中央通り商店街 H26. 5/26, 9/22, 10/27, 11/24, H27. 3/23	蒲郡商店街振興組合	蒲郡中央通りにて市街地の活性化	小林職員及び学生会と各クラブ・同好会
全国ご当地うどんサミット 2014in 蒲郡	ラグーナ蒲郡 H26. 11/9	第 4 回全国ご当地うどんサミット 2014 in 蒲郡開催委員会	地域交流推進	学生会
～キラキラタイムを作ろう～	蒲郡市生命の海科学館 H27. 2/21	蒲郡市生命の海科学館	蒲郡市生命の海科学館ワークショップ	小林職員及び学生会

(b) 自己点検・評価を基に課題を記述する。

地域から学生に対するボランティアの要請は多岐にわたり、かつその件数も多いが、協力できる学生の数が限られており、期待に十分応えることができていない。学生会が窓口となって、本学と愛知工科大学が協力して対応しているが、本学も大学も工科系ということで学生に時間的なゆとりが少ない点が問題である。しかし、学生自身がボランティアへの参加を希望していない訳ではなく、学生生活に関する調査結果から

は、「積極的に参加する、機会があれば参加したい」を合わせると 68%となっており、今後いかに学生が参加しやすい方法でボランティアを募るかが課題である。

(c) 自己点検・評価を基に改善計画を記述する。

愛知工科大学と共同で学生の自治を目指している学生会の活動が、徐々に活発化しており、今後この活動への支援を拡大することがボランティア活動の推進につながるものと考えられる。学生会への加入は、クラス担任を通して働き掛けるとともに、教職員の理解と協力を向上させたい。ボランティアに関心がある多くの学生に対しては、ボランティア用の掲示板を設けるなどして周知徹底を図るとともに、平成 26 年度からスタートしたボランティアや課外活動を推進するための学生表彰ポイント制度（PYE 制度）をさらに発展させていきたい。（PYE：Points for Your Efforts 努力の成果）